

# 分権型社会を拓く自治体の 試みとNPOの多様な挑戦

—地域社会のリーダーたちの実践とその成果—

第18号



発行

龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム



## 発刊にあたって

地域公共人材総合研究プログラムは、研究科横断型大学院修士課程として13年間の歴史を持つNPO・地方行政研究コースに、新たに経営学研究科の参加を得て、法学・政策学・経営学の3つの大学院の共同運営研究プログラムとして2016年4月にスタートしました。

本プログラムの特徴は大きく3つあげられます。1つは複数の研究科による共同運営です。2つは、広く地域社会に開かれた大学院であるということです。本大学院は、これまで自治体、NPO団体及び経済団体等と地域連携協定を結び、すぐれた実務能力と豊富な社会経験をもつ大学院生を積極的に受け入れてきました。3つは、21世紀の自治・分権社会をになう「地域公共人材」の育成を進めていることです。地域公共人材とは、グローバルな視野をもちつつ、暮らしの現場である「地域」(ローカル)に足場をおいて考え、行動する人材つまりグローバルの人材ということです。

本書は、前身の「NPO・地方行政研究コース」開設以来、本大学院における特色ある科目である「地域リーダーシップ研究」(指導力を発揮し組織をリードする自治体の首長やNPOの代表による講演と討議)と「先進的地域政策研究」(全国の先進的政策を進めている自治体・NPOの責任者からの講演と討議)の内容を講演記録として編集・発刊したものです。

2020年度は地域リーダーシップ研究として、「小さな世界都市—Local&Global City—」づくりに取り組まれている豊岡市長の中貝宗治氏をはじめとする3人の皆様、先進的地域政策研究として、「地域課題の解決にITを活用する」ことに取り組まれているNPO法人Code for OSAKA理事の原亮様をはじめとする3人の皆様、合わせて6人の皆様から、地域の持続的な発展を考えるうえで非常に示唆に富み、参考となるご講演を賜るとともに活発な意見交換の場にすることができました。

是非本書が、21世紀における市民自治と持続可能な地域社会の実現を図るための資料としてご活用いただけることを願っております。

地域公共人材総合研究プログラム  
運営委員長 白須 正



# Contents

## 発刊にあたって

地域公共人材総合研究プログラム 運営委員長 白須 正

2020年8月1日(土)

「持続可能なまちは小さく美しい  
—上勝町の挑戦—」

前徳島県上勝町長

地域リーダーシップ研究①

NPO 法人 ゼロ・ウェイストアカデミー理事長 笠松 和市 1

2020年10月10日(土)

「豊岡の挑戦  
～ Local & Global City ～」

地域リーダーシップ研究②

豊岡市長 中貝 宗治 15

2020年11月16日(月)

「10年後来る彼女のために  
—性暴力被害者支援の現場から—」

兵庫県立尼崎総合医療センター 産婦人科部長

先進的地域政策研究①

NPO 法人 性暴力被害者支援センター・ひょうご理事 田口 奈緒 35

2020年12月14日(月)

「地域課題解決に活かす IT の発想」

NPO 法人 Code for OSAKA 理事

先進的地域政策研究②

エイチタス株式会社 代表取締役 原 亮 51

2021年1月23日(土)

「保津川から発信するプラスチック削減の活動  
—亀岡市プラスチックゴミ禁止を目指す—  
～河川漂着ごみの課題と地域連携のかたち～」

保津川遊船企業組合 代表理事

NPO 法人プロジェクト保津川 副代表

京都大学東南アジア研究所 連携研究員

地域リーダーシップ研究③

森の京都 DMO 取締役 豊田 知八 69

2021年1月26日(火)

「公民連携による温泉再生プロジェクト」

先進的地域政策研究③

長門市役所 産業戦略課 主査/やきとり課 課長補佐 松岡 裕史 89

司会：北川 秀樹  
土山希美枝



2020 年度（第 1 回）

龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム 公開講演会

## 「持続可能なまちは小さく美しい —上勝町の挑戦—」

前徳島県上勝町長  
特定非営利活動法人 ゼロ・ウェイストアカデミー理事長  
笠松 和市

笠松和市（かさまつ かずいち）

1964 年 徳島県上勝町職員

2001-2013 年 上勝町長（3 期）

2020 年 特定非営利活動法人 ゼロ・ウェイストアカデミー理事長



北川 私は昨晚徳島市に宿泊し、今朝上勝町に入りました。上勝町は徳島市の南西約 40 キロの山間部にあり、本日の講師・笠松和市氏のご自宅兼 NPO 法人の事務所にお邪魔しています。

受講生の皆さんには事前授業として概略をお話しましたが、笠松氏は「ゼロ・ウェイスト宣言」もされていて、特に温暖化や廃棄物の問題に関心がおありです。本日はその辺りが中心のお話になりますが、上勝町長時代の「彩（いろどり）農業」をはじめ地域振興にも熱心に取り組んでおられ、皆さんとの質疑応答を楽しみにしてくださっています。では、笠松さん、よろしく願い致します。

### ■はじめに

笠松 皆さん、初めまして、笠松和市と申します。諸事情があり今年の 6 月 6 日に私が町長時代につくった（特非）ゼロ・ウェイストアカデミーの理事長に就任しました。私はトランプ大統領と同じ 1946 年生まれで 74 歳に

なりますが、町長職にも就いていたので本日は幅広いお話をさせて頂きたいと思っています。

「地域をどうするか」については地域が元気になるお話もしたいのですが、特に皆さんに関係のある地球温暖化や気候変動などの環境問題が中心になると思います。地球温暖化や気候変動は人類をはじめとする地球生物の脅威であり、人類が減びるなら廃棄物が原因なのではと私は考えています。その点を含めて皆さんと共に考え、次の時代に引き継ぐ事ができればと思っていますので、よろしく願い致します。

今年も 7 月豪雨で熊本や岐阜、山形等で河川が氾濫し大変な災害が起こっていますが、日本は毎年のように大災害に見舞われるようになりました。詳細は後ほどお話させて頂きますが、私は新型コロナウイルスの流行を契機に「GDP」から「GNH」へ発想を変えるべきだと考えています。国民総生産を競う事が社会の成長の基本になっていますが、それを国民総幸福量に変える発想が実現できな

ければ無駄や浪費が進んで気体や液体の廃棄物が増え、人類はもちろん他の生物も減びる危機感をもっています。

私の経歴は資料の通りですが、転機となったのは 1989 年に上勝町役場の企画室長になって町の振興計画をつくり、大学の先生と共に様々な勉強をさせて頂いた事です。私の座右の銘は「大所高所から考える」「率直な心は世界をつなぐ」で、「大所高所から考える」は経済も環境も地球レベル或いは宇宙レベルで考え行動を変えなければという事です。「率直な心は世界をつなぐ」は、一長一短がありますが誰にでも率直に物申す事です。「日本に対策はあるけれど政策はない」など安倍総理にも様々な進言をさせて頂きました。現在も経済対策や過疎対策、雇用緊急対策や少子化対策、廃棄物処理対策と多くの対策はありますが、解決した問題は一つありません。問題解決のためには国民と行政が共有する国家目標が必要ですが、それが無い事が国民と行政が心をつなぐにできない一番の原因です。持続可能な美しい日本、世界をつくるためには、まず持続可能な地域社会の構築が必要で、

そのためには地球規模、宇宙規模で物事を考え判断し行動しなければなりません。

### ■持続可能な地域社会をつくるため —上勝町の 21 世紀の基本構想

「21 世紀は地球環境の世紀」と言われていますが、私たちにとって一番身近な環境は「空気」だと考えています。呼吸はもちろん身体中で皮膚呼吸をしています。私たちが車に乗ったりガスを使って発電したり電気を使ったりして便利で良い生活をする事で、膨大な廃棄物を出しています。

皆さんの市区町村にもそれぞれ長期計画があると思いますが、それはわずか 10 年単位の前期 5 年・後期 5 年の構想です。しかし実際には数百年の大計に立った国家目標や地域目標が必要で、そうすればいろいろな事がよく見えてきます。例えば職員時代に私が中心になってつくった「持続可能な地域社会をつくるため—上勝町の 21 世紀の基本構想」には、

- ・ 将来世代の公平性



- ・生物と人間の共生
  - ・安定した経済と雇用
  - ・情報発信と直接交流
  - ・すべての活動を人づくりに活かす
- の指針があります。

一番に挙げている「将来世代の公平性」は、今私たちは便利で良い生活をしてはいますが、私たちの子どもや孫の生活はどうなるのかです。後で詳しく見て頂きますが、未来の天気予報で2100年の日本の真夏の温度は43～44℃になっています。そうなってしまう未来を考えた時、私たちが如何に廃棄物を出さないようにするか、持続可能な地域社会をつくるかが使命なのではと思います。

次の「生物と人間の共生」は他の動・植物と人間が共に生きる社会の実現です。日本全国で鳥獣被害が出ていますが、それは日本の山が木を切れなくなり、上から見ると緑でも大地は砂漠と化してしまっているから。木々が大きく育ち大地に太陽が当たらなくなって土砂が流出し植物が消えた結果、猪や鹿など動物の餌がなくなり農地に押し寄せているんです。

次に何と言っても必要なのが「安定した経済と雇用」です。現在は世界レベルで雇用も経済も動いているため飛行機や高速鉄道を利用して人が大量に移動していますが、非常にロスが多く廃棄物を多量に出しています。徳川幕府が300年も続いたにも関わらず、今の日本はわずか100年先の見通しが立たないどころか、人類が滅びてしまうような状況になっています。ですからまずは「GDP」から「GNH」へ発想を変えるべきだと。

そして「情報発信と直接交流」は、今、私は皆さんに情報を発信し、後ほど意見交換をして直接交流をします。つまり一番大切に重要なのは現地に赴きいろいろな事を確認し

プラスもマイナスも見る事なんです。

最後の「すべての活動を人づくりに活かす」は、人づくりも「真・善・美」の追求という目標がなければいけません。真＝本当の事、善＝良い事、美＝美しい事を追い求め、人々がそちらを向く。そこで悪知恵が出るようなら、より良い社会は築けないと考えています。

### ■上勝町が抱える課題

21世紀最大の課題は「地球環境の保全」ですが、今から10数年前、私が町長時代に調べた日本の廃棄物は約5,000万トンで、内8割は焼却・埋め立てをしていました。あれから16年経ちましたが、残念ながら現在も8割は焼却しています。なぜ、ゴミ問題の解決が進まないのか？それは日本が補助金を出して「広域で集めて800℃以上で焼き続けられれば補助金を出します」という政策を立てているからです。一方で3R (Reduce・Reuse・Recycle) を推進していますが、ほとんど進んでいません。

私は町長時代に上勝町の課題として

- ①少子高齢化による人材の不足
  - ②森林や農地の荒廃
  - ③町財政の悪化と市町村合併
  - ④ごみ処理などの廃棄物による大気や水質の汚染
  - ⑤町内産業の衰退
- を挙げていました。

①は上勝町に限らず日本全国の問題で外国から人材を入れる事態になっています。②も同様に上勝町だけでなく日本全体の問題です。③は小泉元総理の三位一体の改革で市町村合併は大きく推進されました。新型コロナウイルスの流行で戦後最大の財政危機が訪れ「令和の大合併」に繋がるのではと懸念

しています。国が合併を進めなくても、おそらく交付税が減額されギブアップした市町村が合併を進めざるを得ない状況になるのではと考えています。さらに、ゴミの廃棄などで大気や水質汚染がますます深刻になるのではないかと。後ほどお話ししますが、私が提言している「資源回収法」が施行されればゴミはほとんど出なくなりますし、2兆円もの廃棄物処理費の大半は要らなくなり不法投棄もなくなると思っています。⑤は農林業の衰退が一番顕著ですが、上勝町はおかげさまで彩（いろどり）農業がヒットし高齢者の一番大きな収入源になっています。

地球は大気圏に囲まれていて我々は地球の表面で生活していますが、この地球で一番困る事は環境汚染です。私たちは車や鉄道、船や飛行機に乗り気体の廃棄物を排出していますが、唯一止められる汚染はゴミの焼却です。固体のゴミを気体に変えても様々な科学物質を大地が吸収し、温暖化で水蒸気が増え、さらなる気候変動が起きています。そんな今、私たちの一番の使命は次の時代の子どもたちに綺麗な空気とおいしい水、豊かな大地を継承する事であり、我々にはその責任があります。特に高齢者は生活を良くするためにこれまで頑張ってきましたが、結果として甚大な大気汚染を招いてしまいました。

「地・職・住」は私がつくった言葉ですが、「地域資源を使って職場をつくり住む=狭い行動範囲で豊かな生活」が一番良いと考えています。新幹線や飛行機、車を使って遠方に行くとエネルギーを使い温暖化の推進になり、持続可能な地域社会、日本、世界から逆行すると考えているからです。

## ■ 2100年の日本

では、2100年はどうなっているのか？ 2100年の「明日の天気予報」がこちらですが、東京 44℃、高知 42℃、大阪 43℃となっています。小笠原は 38℃ですが北海道は 41℃と高温の予報になっていて、日本は非常に湿度が高いため温度以上に暑さを感じるはずで。さらに真夏日（30℃以上）の日数が、那覇 184日（6ヶ月）、東京 104日（3ヶ月半）、大阪 136日（4ヶ月半）と、大阪は5月1日～9月15日まで毎日 30℃以上になり、熱中症で1万5,000人以上が亡くなると言われています。皆さん、この環境でやっていけますか…？

今のままでは「21世紀は環境の世紀」とは言えず、2100年には様々な問題が出てくるという事で、2007年のノーベル平和賞はアメリカの元副大統領ゴア氏と気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の約190カ国・450名の科学者や専門家で構成する学術機関が受賞、地球温暖化・気候変動の原因は二酸化炭素と温室効果ガスにあると科学的に証明しました。

そして安倍総理が「美しい星50」を提案し、先進国首脳会議で「2050年には世界の温室効果ガスを50%以下にしましょう」と提案しました。また、パリ協定では「2100年までに世界の平均気温を産業革命以降2℃以内、できれば1.5℃以内に抑える努力をする」と掲げましたが、アメリカは既に離脱し世界で最大4.8℃、日本で5.4℃も気温が上昇する予測もあります。世界や日本で様々な対策が検討されていますが、一番の問題は「皆さんが“環境”の意味を分かっているのか？」という事なんです。

私は「究極の環境」とは身の周りのものすべてであり、中でも一番身近なものは「空気」だと考えています。しかし、みんなが一生懸命働いて技術開発をして空気を汚している。日本が廃棄物の大半を焼却し気体と液体のゴミに変えて求めてきたものは、

- ① お金
- ② 物
- ③ 利便性
- ④ 快楽

です。お金があれば物も利便性も快楽も手に入りますが、この4つを追い求めた結果失ったのが「心と身体の健康」なんです。一生懸命勉強して働き、地球規模の気候変動で持続可能性を失っている。お金・物・利便性・快楽が揃うのは都市部（大都市）で、だから都市部に人口が集まるんです。

#### ■気候変動がもたらす災害と膨大な損失

こちらの写真は60年前に私が通っていた福原中学校の校庭で撮影されたもので、冬は雪合戦ができるほど雪が積もり上勝町にはスキー場の計画もありました。中学校の前には私の背丈ほどの氷柱がはっていましたが、今はまったくありませんし今年初めて雪も積もりませんでした。2月6日にチラリと降っただけで積雪どころか雪が降らなくなりました。南極・北極では氷が溶け、先日はソ連の永久凍土が溶けて重油タンクが傾き重油が流出する事故があり、南極では苔が生えたというニュースも聞いています。

海に囲まれている日本は集中豪雨や台風、猛暑や干ばつなど自然災害が多く起こりますが、気候変動は世界規模で起こっています。私がスクラップしている2011年の新聞記事（東京大学等のチームによる予測）には、

「2020年頃までに温暖化による気候変動が顕著になる。産業革命時に比べて2℃以下に上昇を抑えるためには、2040年代にCO<sub>2</sub>を0にして大気中のCO<sub>2</sub>を回収し固定するなどの対策が必要だ」とあります。空気中の二酸化炭素を圧縮して海中や地面に沈めるといった技術はまだ開発されていないので、如何に温室効果ガスを出さないようにするか、また吸収源となる森林等を育てていくかが重要な課題です。

ちなみに徳島市では2011年以降の10年間で平均気温が0.4℃上昇しています。次は2021年に改定されますが、果たして何度上昇しているのか。皆さんの地域の平均気温が何度上がるのかにも注視して頂きたいと思います。

気候変動による災害は世界中で起こっていて膨大な損失を生んでいます。アメリカ・ミネソタ州の体感温度は53.9℃を記録、オーストラリア・アデレードでは最高気温46.6℃、降水量は平年の38%で干ばつや、去年から今年にかけては猛暑が原因でたくさんの火災が起こり中には数ヶ月間燃え続けるものもありました。これらは地球温暖化の脅威で、暑さに強い人類や生物が生き残るかもしれないませんが、人類や生物が死滅する可能性もあります。

#### ■上勝町の取り組み

##### 「ゼロ・ウェイスト宣言」

こちらは上勝町のゴミ処理の様子です。以前は野焼きをしていましたが、私が企画室長の時に生ゴミをシャットアウトし「リサイクルタウン計画」を立てました。その後、私が町長になった2003年に2020年までにゴミの焼却を0にする「ゼロ・ウェイスト宣言」を

させて頂きました。本当は期限を2030年にしたかったんですが、アメリカのポール・コネット博士から「世界の標準に合わせて欲しい」と言われ2020年にしました。今年がその2020年ですが、上勝町のリサイクル率は81%です。

こちらの写真をご覧ください。彼女は私の部下の東ひとみさんと、もし彼女がいなければゼロ・ウェイスト宣言には至っていません。彼女は非常に熱心に全国を飛び回り、分別資源など様々な勉強をしてくれました。当初はどうしても焼却しなければならないものは山口県まで運んで焼却し最終処分場は島根県にしていました。その時の写真がこちらですが、「塵も積もれば山となる」のことわざ通りにもすごいゴミの山で、野焼きではありませんが野焼きに近い焼却場でした。現在は「広域で集めて800℃以上の高温で焼き続けければ国が1/2の補助金を出す」としているためこういった焼却場はありませんが、いずれにせよ固体のゴミが気体のゴミになっています。

ゼロ・ウェイスト宣言では、「未来の子どもたちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、2020年までに上勝町のゴミを0にすることを決意し、上勝町ゼロ（ゼロ・ウェイスト）を宣言します」とし、

- ①地球を汚さない人づくりに努めます！
  - ②ゴミの再利用・再資源化を進め、2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします！
  - ③地球環境を良くするため世界中に多くの仲間をつくります！
- といった目標を掲げています。

私がゼロ・ウェイスト宣言をしているのは仲間がいるからで、現在は福岡県大木町とみやま市、熊本県水俣市、奈良県斑鳩町なども

ゼロ・ウェイスト宣言をされています。宣言の取り掛かりとしては、生ゴミをゼロにするために家庭用の生ゴミ処理機を自己負担1万円+町補助金4万4,540円で設置、また、飲食業者などには大型の生ゴミ処理機を町が補助金等を出して導入し、学校の給食センターなど大きな施設にも独自に生ゴミ処理機を導入し生ゴミをシャットアウトしました。生ゴミがシャットアウトできれば資源化は非常にしやすく、これを全国はもちろん世界に広めるべく3月に「ゼロ・ウェイストセンター」が完成しました。

#### ■ゼロ・ウェイストセンターとは？

こちらがゼロ・ウェイストセンターの写真ですが、茶色い屋根の部分にゴミの分別とストックヤード、交流スペースやリユースショップ「くるくるショップ」があります。その手前に「ひだまり」とう介護予防センターがあり、以前はゼロ・ウェイストアカデミーの事務所がありましたが諸事情があって独立したため、現在は一般社団法人ひだまりが管理・運営をしています。

ゴミステーションでは持参したゴミを分別して入れていて、例えばビン類はすべて洗浄し透明・茶色・その他と分けています。陶器類は徳島市で、どうしても焼却して埋め立てなければならないものは松茂町の最終処分場で、水銀や鏡は北海道まで運んで処分しています。また、金属製のキャップも分別すれば1キロ12円で回収するなど、行き先や何に使われるのかまで決めています。くるくるショップへの持ち込みは上勝町民限定ですが、お持ち帰りは世界中の誰でも無料でOKです。写真にはぬいぐるみやトレーニングウェアが写っていますが、成長が早く次々

と買い替えなければならない子どものトレーニングウェアは特に人気です。

また、ゴミを出さない売り方・買い方を提案する「上勝百貨店」もできましたが、現在はクラフトビールの醸造所「RISE & WIN(ライズ & ウイン)」になっていて、その中で量り売りもしています。ビール工場には上勝町の未利用資源「柚香(ゆこう皮)」を使用し、ゼロ・ウェイストに関心があり共鳴してくださった民設民営の業者さんに入って頂きました。クラフトビールは2019年のインターナショナルビアカップの金賞を受賞していて東京でも販売していますが、上勝町に來られたらぜひお試しになってください。こちらは喫茶・軽食のお店「ポールスター」で、お米をはじめメニューの食材のほとんどは上勝町内でとれたもので、ここでもいろいろな物の量り売りをしています。

私たちが掲げている「まちづくりは人づくり」は非常に難しく時間がかかる取り組みで、分別資源化も一筋縄ではできませんでした。ゴミはすべて洗って乾かして出して頂いていますし、町では収集も行っていない。標高100～700mの町内に55の集落が点在、急な坂道も多いので収集するには費用もエネルギーもかかり地球温暖化に繋がるので、山を降りてくる時に持参して頂くなど、中間処理場までは個人でお持ち頂いています。高齢者のお宅には日を決めて回収に伺っていますが、無料ではなく1袋100円で5袋以上貯まってお電話を頂ければ取りに行く仕組みになっています。

まちづくりに大切なのは命令ではなく自発的にみんなで話し合いをして「どんな町にするのか、どんな地域にするのか」といった目標を決める事で、目標は話し合いでなければ決まりません。日本には国家目標がなく経

済を伸ばす事が最優先で、問題が出れば対策、問題が出れば対策と大半が対策法で、結果的に対策が次の問題をつくり根本的な解決策には至っていません。

### ■上勝町の名を広めた「彩農業」

ゴミ対策以外で上勝町が有名になった「彩農業」はいわゆる「葉っぱビジネス」で、紅葉や柿、南天、椿の葉や梅、桜、桃の花など日本料理に添えるつまもの販売です。こちらはシャガの葉でつくった鶴ですが、お食事をしながら季節感が味わえる商品が一年を通して出荷されています。また、2012年には『人生、いろどり』というタイトルで映画化もされました。

葉っぱビジネスのきっかけは、昭和56年2月に零下13℃の異常寒波が町を襲い、温州みかんや香酸(こうさん)柑橘の柚子やスタチなどほとんどが枯れてしまった事でした。当時農協の営業指導員で現在は(株)いろどりの代表取締役社長・横石(よこいし)氏が大阪のお寿司屋さんで耳にした「紅葉の葉っぱ(つまもの)が綺麗だから持って帰りますね」という女性の言葉がきっかけとなり、「こんな紅葉なら上勝町にはいっぱいありますよ」とビジネスの話に花が咲いたんです。その後、農家の方々と協力して徐々に商品開発に繋げ、現在は330種類以上が販売されています。去年はフランスやオランダへの出荷も始まりましたが、ヨーロッパでは食べられるつまものでなければダメなようで、今一番売れているのが食べられて食欲もそそる葉わさびです。

葉っぱビジネスでは情報・通信網の発達が大ヒット商品に繋がりました。現在はデスクトップのパソコンは使っておらず、農家のお

ばあさんやおじいさん、若い世代の方も持ち歩きできるタブレットが彩ネットワークの必需品になっています。もし興味を持って頂けたら、「彩・上勝町」で検索してみてください。いろいろな商品がご覧になれます。

### ■大所、高所から考える

私の座右の銘「大所、高所から考える」で日本を見てみます。

焼却ゴミはすべて資源になるにも関わらず日本は世界一焼却量が多い。目には見えませんが、固体のゴミを燃やして気体と液体のゴミに変える＝資源をなくして大気を汚染し地球温暖化を促進するという絶対にしてはいけない事に補助金を出しています。また、ペットボトルなどプラスチックゴミを分別しても、生ゴミがたくさん出ると焼却温度を800℃以上に保つために補助燃料の重油や灯油が必要になる上に、せっかく分別したプラスチックゴミを一緒に焼却してしまう。だから十数年前も現在も20%という低いリサイクル率が変わらないんです。

ちなみに日本のゴミの処分量は年間5,400万トンで内4,000万トンを焼却しています。アメリカは処分量2億2,200万トンに対して焼却量3,000万トン、ドイツは4,800万トンに対して1,100万トンと、人口が約3倍のアメリカよりも日本の方が多い。これは平成27年の資料ですが、日本の焼却処分量の多さがお分かり頂けると思います。

世界の人口を見てみると、2012年に70億人を突破し2019年は77億人と毎年1億人増加しています。2100年には109～112億人と30億人以上は増える予想で、この30億人が出す温室効果ガスは膨大な量になります。また、後進国や発展途上国も日本やアメリ

カ、ヨーロッパ諸国のように利便性や快適性を追い求めていくので、今後の温室効果ガスはさらに膨大になると予測されます。

日本の人口は、2019年は1億2,600万人で2100年には8,450～7,500万人と予測されていますが、近年は7,500万人に近づくのではとされています。日本は少子化対策を進めています、私は増子化政策をしなければならないと考えています。高齢化を防ぐ事はできませんが、少子化は防げますし増子化政策もやろうと思えば必ずできると思っています。

### ■各地のゴミのリサイクルの取り組み

地球儀をご覧ください。こんなに小さな国・日本が世界一廃棄物を出し、固体のゴミを気体のゴミに変えている。こちらの写真は我が家のプラスチックゴミですが、このように風化すると触るだけでぼろぼろと壊れ集める事もできない現象が日本のみならず世界中で起こり、大地も海も汚染されています。

こちらは平成28年度のリサイクル率比較表で環境省のデータから抜粋したものです。全国平均は20.3%で残りの約80%が焼却されていますが、上勝町は81%、人口1万3,000人で「ストップ 地球温暖化プロジェクト」を続けておられる鹿児島県大崎町は83.4%とリサイクル率は高く、市町村によって非常にバラつきがあります。国は広域で集めて焼却すれば1/2の補助金を出すとしていて、これにより徳島県でも広域ゴミ処理施設整備等多くの問題が出ています。時間の関係で詳細は省略しますが、香川県三豊市は前市長さんが非常に熱心で、民間レベルで如何にゴミを焼却せずにできるかを全国公募されました。昨年10月25日に私も視察に行つて

来ましたが、人口6万6,000人の三豊市で採用された「トンネルコンポスト方式」は、民設・民営で事業費約18億円に対して市は一銭もお金を出していません。工期約3年で20年契約、CO<sub>2</sub>削減は年間約6,500トンで、家庭系一般廃棄物（燃やせるゴミ）と事業系一般廃棄物（燃やせるゴミ）を混合粉碎し、通常は焼却するところをバイオトンネルで発酵乾燥しています。発酵段階で発熱し70℃くらいまで温度が上がり17日間かけて発酵すると有機物はほぼなくなり、鉄や石などを除いて固形燃料にします。こちらが実物ですが、石炭の代替として年間5～6万トンが製紙工場等に販売されているそうです。

こちらは工場内部の写真ですが、バイオフィルターの仕事として上の方に木質チップを入れて発酵臭をとっています。私も臭ってみました。椎茸の菌のような臭いで嫌な臭いではありませんでした。製紙業者さんも代替燃料の分だけ石炭等を買わなくて良いですし、CO<sub>2</sub>の削減になっています。

### ■「資源回収法」の提案と実現に向けて

こういった方法であれば重油等の補助燃料も要らず温室効果ガスも出しません。しかし、最終的にこの方法・施設が良いという訳ではなく、産業・環境革命が同時に起きるようなゴミの出ない製品をつくり資源化するデポジット制度「資源回収法（仮称）」を私は提案しています。これは「消費者が不要になった物は、製造業者が有価で回収しなければならない。有価で回収できないものは、製造販売を罰則をもって禁止する法律」環境に良い事をすれば経済的に報われ、心も豊かになります。

こちらはアサヒのビール瓶で、アサヒはア

サヒ、キリンはキリンでもう何十年も同じ色・同じ形のビール瓶ですが、私たちが必要なのは中身だけですよ？空になったビール瓶を酒屋さんに持って行けば「1本5円で買い取ってくれる商品」で、ビール瓶が20本入るコンテナも200円で引き取ってくれます。飲んだ後に5円になる商品だから捨てられないですし、捨ててあった瓶を持って行っても5円になる優等生だと私は思っています。いずれのメーカーのビール瓶も平均で6回リユースし汚れて使えなくなって初めてリサイクルに回るそうですが、実はリサイクルは後手なんです。紙のリサイクルもエネルギーを要しますし、リサイクルした製品は新品より品質が悪くなりますから。缶ビールも必要なのは中身で缶は要りませんがお金にならないので捨てられます。もし缶が5円になるなら皆さん捨てますか？10個貯まれば50円で、落ちていた缶でも5円になる。すべての製品がそうなれば町にゴミは落ちないし不法投棄もなくなる。つまり、最初からゴミにならない製品をつくれれば良いんです。

皆さんの中にも喫煙される方はいらっしゃると思いますが、吸い殻が1本10円で回収されるなら捨てますか？ケースに入れて持っていけば1箱200円で引き取ってくれるなら700円のたばこを差し引き500円で買う事ができ、膨大な量の吸い殻が回収できます。集めた吸い殻を機械に入れフィルターとタバコの部分を分別し、タバコは発酵させてニコチンの消毒液をとり大地に返す。フィルターは加工して建築資材の断熱材に使うといった事を最初から企画設計し、資源を最大限に活かす仕組みで回収する。尚且つ、たばこの不始末による火災もほとんどなくなると私は思っています。

これが私の提唱する「資源回収法」で、ベ

ットボトルの蓋も1、2円で回収するなど無料は絶対不可の販売禁止の法律をつくる。例えば業界毎にこの蓋は2025年から、たばこは2030年からと定めれば商品はすべて有価で回収しなければならないので、ゴミにならない製品が次々と生まれると思います。

最初にお話しした「GDP」から「GNH」という発想の転換は、教育段階からしていかなければなりません。2018年の西日本豪雨、2019年の東海から千葉県にかけて起こった豪雨、今年の九州豪雨と大災害が立て続けに起きています。災害が起こるとGDPが伸びるのは、鉄道や道路、河川の復旧に加えテレビや冷蔵庫、家などを新しく買い替えなければならず、お金が動き国内総生産が上がるからです。しかし、これには不幸な人がたくさん出ていますし、廃棄物が膨大に出て大半が焼却され、資源を失って大気を汚染し地球温暖化が進む悪循環になってしまいます。

こちらの新聞記事は小池百合子知事が環境大臣だった当時のもので、私が「資源回収法」を直接陳情させて頂くと1週間も経たないうちに小池氏から「努力させて頂きます。頑張ります」とお返事を頂きました。小池氏が環境大臣を拝命された時に素晴らしいお言葉があり、後で北川先生に資料をお渡ししますのでぜひご覧ください。残念ながら小池氏は第一次安倍内閣の改造で退陣されたので1年も経たずに環境大臣をお辞めになりましたが、小池氏が環境大臣を続けておられたら資源回収法が実現できていたのでは…と思っています。

### ■悪法がもたらす罪と問題

私は見つからないように捨てれば得をする、見つければ罪になる現行法」は悪法だと

明言しています。不法投棄は個人の場合1,000万円以下、法人の場合1億円以下の罰金と高額な罰金刑が科され、家電リサイクル法、容器包装リサイクル法もありますが、これらもすべて悪法だと。なぜなら見つからないように捨てると経済的に報われるからです。

端的な例をご紹介します。上勝町の王子神社で一昨年に古い冷蔵庫を処分する事になったんですが、処分費用5,092円+郵便手数料80円+搬送料2,000円の計7,172円が必要でした。しかし、もしこれを不法投棄すれば7,172円儲かる訳です。しかし、王子神社が捨てた事が分かれば書類送検されて罰金刑となり、新聞に大きく載って氏子さんやご家族が精神的にも大きなダメージを受ける、罪つくりの法律です。でも、もし見つからないければ7,172円儲かるため、全国的に不法投棄もタバコのポイ捨ても絶えず、日本はもちろん世界中にゴミが散乱しているんです。

さらに小型冷蔵庫の処分には7,172円の支払いに加えて資料にある郵便局のリサイクル券といった書類の手間もかかります。ですから法治国家でゴミのない持続可能な地域社会をつくるためには「資源回収法」が必要なんです。詳細は時間の関係で省略しますが、皆さんにも考えて頂きたいと思っています。

徳島県では「徳島県気候変動対策推進条例」を、また全国の都道府県でも気候変動対策推進条例をつくっていますが、これも政策ではなく対策です。問題は対策では絶対に解決しませんし、さらに次の問題をつくりまします。条例はつくるだけでも大変ですが、それで問題が減るのかというところまったくないと思っています。気候変動適応法が2018年6

月に公布されていますが、今の気候が変動するのは仕方がない事で、変動に適応するために我々が行動していかなければなりません。車や鉄道に乗る事は止められませんが、ゴミの焼却を止める事はできますし、焼却を止め焼却設備に対する補助金を出さなければお金も必要なくなります。

### ■真・善・美で未来を築く

私は「社会は真・善・美の追求でよくなる」と提唱しています。焼却や埋め立ては絶対にすべきでないのは真・善・美ではないからで、法律を良い法律にし、私たちが真・善・美を追求して行動する事で良くなっていくと思っています。オレオレ詐欺やSNSがきっかけで若い女性が見ず知らずの人に殺されるなど悲惨な事件が起きている今、一歩間違えれば終わりになる可能性もある人生と同様に、真・善・美を間違えると大変な事になります。私たちは毎日様々な判断を下し行動していますが、真・善・美を追い求めよく考えて判断し行動する。即座に判断し行動しなければならないので、判断力が身に付くように人材を育てていかなければとも思っています。

皆さんには本日の講演をお聴き頂いてゴミ処理の先進国がどうなっているのか、日本の先進市区町村や皆さんの故郷のゴミ処理がどうなっているのか、どれだけのお金を使いどれだけのゴミを焼却し大気を汚染して地球温暖化を進めているのかを調べて頂きたいです。今後20年、50年、100年先の世界の、日本の、地域のゴミがどうなっているのか、不法投棄はなくなるのか。私は資源回収法ができれば不法投棄はほとんどなくなり、行政や企業、市民、大学等によってさら

に良い知恵と知識が出てくると思っています。地域の未来を創造し、世界の環境と経済の高循環モデルになれるように地域が頑張る事で、最終的に未来の子どもたちに誇れる地域社会を目指していけば良い。地域を良くするためには地域に住んでいる私たちが中心になって考え行動しなければならないと思っています。

### ■日本の森林の現状

こちらは喰田集落の写真ですが、森林や農地の荒廃と同時にダムに土石流木が溜まりダム機能が低下し大洪水に拍車を掛けています。極論を言うところの状況は、日本全国はもちろん世界中大なり小なり同じで、山は荒れて土砂がダムに溜まっています。

こちらは50年前の喰田集落の写真で、このように木を切り地域で経済を回していました。こちらは33年前、そして現在の写真です。この下の方に住宅があり、山の約83%は人工増林で、国土調査の際に上空から見ると緑でしたが、大地は砂漠と化しています。日本全国も同様で一見すると緑ですが、大地に下草はなく木は倒れ、流れた土砂がダムに溜まっています。一般的には土砂災害と言われていますが、私は土石流木災害だと考えています。

こちらは2016年8月30日に撮影した喰田地区の山林内部の写真で、真夏ですがご覧の通りほとんど緑はありません。一方のこちらは私が町長の時に新設された林道神明杉地線路盤上で打ち合わせをしている写真です。林道はすべて舗装していて、土砂が溜まると無意味になる側溝はやめているので土砂は道路を流れます。

こちらの写真は道路の側壁下に設置した

木柵と根株処理チップを散布した廃棄物の処理の様子です。そのまま埋めておけば4、50年はCO<sub>2</sub>を固めておける根株をわざわざ砕いて山に還元する。一見すると良い事のようにですが、砕くだけでも大量のエネルギーを使う無意味な公共事業はやめさせなければと思っています。

こちらの山の写真をご覧ください。倒木が地面を埋めていますが、先にお伝えした通り、日本の山は大なり小なりこんな感じでよく似ていて、農地も荒廃が進み20年もすればどうなるか分かりません。特に檜林の大半は草が生えず大量の根が出てきてダメな状態です。

こちらは上勝町の木材価格を比較した資料ですが、昭和49年は1m<sup>3</sup>あたり2万7,408円だったのが昨年は8,368円でした。昭和49年頃の私の給料が1ヶ月約10万円で現在は少なくとも30万円位ですから、如何に安いかが分かります。しかも1m<sup>3</sup>に7,920円もコストがかかるため、ほとんど手元には残らない状況です。

こちらは私も現地に行かせて頂いた広島県庄原市の豪雨による流木災害の写真です。自衛隊も出動し写真は真昼に撮られたものですが、午後2時頃に庄原市長さんに電話がかかってきて帰るとこんなに酷い状態になっていたそうです。

こちらは喰田の隣の山、那賀川の長安口ダムの上流で、年間30万m<sup>3</sup>土石が堆積していますが、その内10万m<sup>3</sup>しか取り除く事ができていません。差し引き20万m<sup>3</sup>堆積している事になり、写真のようにダンプで除去しています。すべて公共事業ですが、これほどの量を除去してもどうにもこうにも仕方がない状態で、放流量も3,000トン/秒から4,000トン/秒になり、下流はご覧の写真の

ように水に浸かってしまいました。今ここに2つのゲートをつくり、もう少し人工機能を高めようとしています。

私は森林環境税の創設促進連盟の副会長にも就いていましたが、昨年4月ようやく森林環境税ができました。しかしこれは2024年から一世帯あたり1,000円を徴収する住民税を先取りし、国が借金をして出しているものです。

また、CO<sub>2</sub>を吸収する木材の有効利用も日本はまったくできておらず、建築資材の約70%を北欧から約8%をアメリカやカナダからと、国内にこれだけの木がありながら輸入に頼っています。輸入には大量のエネルギーを使いCO<sub>2</sub>を出すので、如何に地域にある資源、国内にある資源を活用する仕組みをつくるかが大事で、これは皆さんの知恵と工夫で行政がやるべき事です。

## ■最後に

私は今回の理事長就任を機に今の仕組みを変えたいと考えています。パンフレット等の製作を予定していますので、皆さんにお送りして様々なご意見が頂ければと思っています。私たちの組織は東京や熊本などにも会員がいて、今後は全国から世界へ活動の場を広げたいと思っています。2030年までに資源回収法をつくり、2050年までに温室効果ガスを0にする。さらに資源回収法によってエネルギーの使用量を最小限にすると共に再利用できる製品をどんどん生み出し、どうしても再利用できないものだけがリサイクルに回る状況をつくり上げたいんです。もう一つ、私の知識では今のところ森林以外にCO<sub>2</sub>の吸収源が考えられないので、森林の吸収源を高めると同時に固定する木を如何に

使っていくかを含めた情報の受発信を望んでいます。皆さん、ご協力のほどよろしくお願い致します。

**北川** ありがとうございます。本日の講演は、主に持続可能な地域づくりについてでしたが、気候変動や廃棄物の問題、ゼロ・ウェイストの取り組み、そして彩農業についてもお話して頂きました。最後の森林と農地については、短期的な対症療法ではなく長期的な

展望をもった政策、立案が必要という一貫したお話でした。また、地域資源を如何に活用していくのかという点にも触れて頂きました。短い時間で大変盛りだくさんの貴重なお話をして頂きありがとうございます。話し足りない事もおありだと思いますので、受講者との意見交換の際に補足的なお話をして頂ければと思います。

(2020年8月1日)



2020年度（第2回）

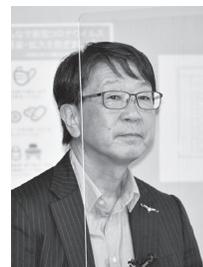
龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム 公開講演会

## 「豊岡の挑戦」 ～ Local & Global City ～

豊岡市長  
中貝 宗治

中貝宗治（なかがい むねはる）

- 1954年 兵庫県豊岡市生まれ
- 1978年 京都大学法学部卒業、兵庫県庁に入庁
- 1991年 兵庫県議会議員に当選、以後3期務める
- 2001年 豊岡市長に就任、現在まで務める



北川 今日では政策学研究科の法学研究科と地域公共人材総合研究プログラムの科目である「地域リーダーシップ研究」の公開講演会という事で、兵庫県豊岡市の市長・中貝宗治氏をお招きしました。地域リーダーシップ研究は地域社会の変革を指導するリーダーをお招きして「地域社会にとって重要な事は何か？」を考える大学院の授業として位置付けています。

中貝市長は大学を卒業後、兵庫県議会の議員を経て2001年から豊岡市長をされています。大変幅広い分野で発信され、全国区で活躍されていますので本日のお話を非常に楽しみにしています。それでは市長、よろしく



お願い致します。

### ■はじめに

中貝 皆さん、こんにちは。本日は貴重な機会を頂きありがとうございます。実は北川教授とは大学時代の同期という不思議なご縁で本日来させて頂き、感謝を申し上げます。「豊岡の挑戦」とタイトルにありますが、私たちの経験をお話させて頂く事が少しでも皆様のご参考になればと思っています。お渡ししたパワーポイントの資料をご覧になって「こんなにたくさんの枚数、本当に話せるの?」と思われたかもしれませんが、ご安心ください。私はパワーポイントで資料をつくる事も一つのテクニックだと考えています。役人がつくと一画面に何枚もの写真と多くの情報を入れますが、私は一画面に一つの情報しか入れません。一画面に4枚の写真を入れて静止したまま話すなら、写真を1枚ずつにして4画面分話した方が分かりやすい。政策を進めていく上でも相手のハートに飛び込むテクニックは非常に重要で、そんな

事も意識しながらご覧頂ければと思います。

### ■豊岡の地方創生

豊岡市は兵庫県北部の日本海に面した人口約8万人のまちです。現在日本中の自治体の最大の課題は「地方創生」です。創生という言葉でしばしば誤解されますが、地方創生は地域の活性化ではなく純粋に人口減少対策で、さらに言うなら人口減少の緩和対策という身も蓋もない話です。つまり人口減少の緩和に役立たないなら、どんなに地域を元気にしたイベントも地方創生の戦略としては意味がないと考えています。

こちらは豊岡市の人口推計の予測です。2015年の人口は8万2,250人で、このまま何もしなければグラフの下のラインで人口は減少し、2040年には5万7,770人と30%の減少が予測されています。この数字の圧倒的な破壊力を私たちは無視してはなりません。

そこで地方創生となる訳ですが、私は人口減少を止める事は日本全体でも100年、200年はほぼ不可能なのではと考えています。であれば、せめて目標を定めて減少を緩和する事が地方創生なのではと、「2040年に6万2,000人」という数値目標を掲げ、何とかそこまで緩和する事を戦略目的としました。すべての手段はこの目標達成のためですが、仮にこの目標が達成できたとしても人口が2万人も減るといふ圧倒的な破壊力に変わりはありません。つまり、ただ緩和するだけでなく人口が減ってもなお元気なまちをつくる。これを並行して行わない限り地方創生は実現しません。私たちは「量的緩和と質的転換」という考え方をしている、まちの有り様の質的転換を図る手段として人口減少の量的緩和も図る、二階建ての作戦を立てています。

こちらは「なぜ豊岡の人口は減少するのか」を示したグラフです。右側に5歳刻みの年齢軸がありセンターの0から5年刻みで豊岡を出て行く人、入って来る人を示しています。入って来る人が多ければ0のラインよりも上になり、出て行く人が多ければ下になります。ご覧のように30歳以上の減少はほとんど起きておらず若干プラスになっていて、問題は10代の圧倒的な減少です。高校卒業後に大学や専門学校に進学する、または都市で就職する時に8~9割の若者が豊岡を離れます。20代は逆に黒字で大学卒業時を中心に帰って来ます。平均すると10代で失われた人口の約40%を20代で取り戻していますが、逆に言えば60%の赤字で若い人が減り、未婚率の上昇と相まって若いカップルの数が減ります。皆さん驚かれるかもしれませんが、夫婦一組あたりの子どもの数は実はじわじわ増えていて、夫婦は子どもをもつ事に関しては頑張っているんです。つまり、夫婦ではなくカップルの減少が人口減少の圧倒的な理由なんです。

子どもの数が減って少子化が発生し、減った子どもたちが大きくなって高校卒業時に一斉にいなくなる。この繰り返りで豊岡の人口減少は起きています。大学がたくさんある京都はおそらく圧倒的な黒字で、しかし大学卒業時に赤字になっていると思います。日本



の都市で起きている人口減少の大半はこの構造ですが、豊岡のような地方は10代で大幅に減少しています。

次はこれをさらに男女別にした2010～2015年の5年間の人口移動の資料で、男性はやはり10代で大幅に減り20代で帰って来ます。10代で失われた人口を20代で取り戻す「若者回復率」は52%で、5年前の国勢調査と比べると17ポイント上がっています。これは万々歳なんですけど、女性はわずか26.7%で、5年前から6ポイントも落ちました。2005～2010年の5年間も赤字は赤字でしたが男女ともほとんど変わらなかった数字が、5年経って男性は上がりましたが女性は圧倒的に下がってしまい、男性の半分になってしまいました。女性の数以上にカップルはできないため、少子化にさらに拍車をかけていると考えています。

### ■突き抜けた“豊岡に暮らす価値”の創造

なぜ、女性は豊岡に帰って来ないのか。出て行くのは大学がないからで、私たちは「若いちは広い世界を見て来い！」と送り出す必要があります。しかし、なぜ20代で帰って来ないのか。それは「豊岡に暮らす価値が選ばれていない」からで、とりわけ女性に選ばれていないという現実を私たちはしっかりと見つめる必要があります。理論的には大学を卒業する時に豊岡に帰る、移り住むという選択肢はあったはずですが、選ばれなかった。これが原因なら、私たちがやるべきは「突き抜けた“豊岡に暮らす価値”の創造」です。

しかし、大都市を相手に大きさや高さ、速さで勝負を挑んでも絶対に勝てません。圧倒的な資本力の差があるので違う次元の価値を打ち立て、少なくとも大都市と同じ土表に

上がる必要があります。そのために豊岡が立てた旗印が「小さな世界都市～ Local & Global City～」で、「人口規模は小さくても世界の人々から尊敬され尊重されるまち」です。私たちは“小さな”を“Small”ではなく“Local”と訳し、豊岡という地域に深く根差して世界で輝く、そのことを通じて小さくても堂々たる態度のまちをつくらうと考えています。

グローバル化の進展で世界は急速に同じ顔になっています。同じ商品、同じショップ、同じ景観が広がり、文化的にもつまらなくなってきている。という事は、違う顔をしている事、ローカルである事、地域固有である事が世界で輝くチャンスに繋がります。さらに、グローバル化の進展で世界は急速に小さくなっています。ネットの発達と相まって豊岡のような小さなまちでも世界の人々とダイレクトに結ばれるようになりました。これは大きなチャンスで、東京との比較ではなく京都との比較でもなく、絶えず世界を意識して「自分たちは世界で通用するローカルを磨いているのか？」と問いかけながら切磋琢磨していく必要があります。

そこで小さな世界都市を実現し、世界に羽ばたくための4つのエンジン、

- ① 環境都市「豊岡エコバレー」の創造
  - ② 「インバウンド」の促進
  - ③ 「深さをもった演劇のまち」の創造
  - ④ ジェンダーギャップの解消
- についてお話します。

ジェンダーギャップの解消は地方創生にとって決定的に重要な要因ですが、残念ながらトップを含めた日本の政策当局者のほとんどはこの問題に気付いていません。ジェンダーギャップについては最後にお話させて

頂きます。

## ■ 「小さな世界都市」を実現するためのエンジン

### ①環境都市「豊岡エコバレー」の創造

環境問題が地球規模の大問題になっている今、これを疎かにするようなまちが世界の尊敬を集めるはずはありません。逆にこの問題で突き抜ける事ができれば世界で輝く事ができます。

豊岡のシンボルはコウノトリで、こちらは空から見た豊岡の写真です。まちの真ん中を円山川がゆったりと流れ、中央右手が中心市街地です。画面中央の辺りは円山川の河口から10キロほど上流になりますが、カレイやアジが釣れます。円山川の河川勾配は1万分の1で、高低差が10キロ上流で1メートル、100メートル上流で1センチとほぼ水平で、川底には海の水が忍び込んでいます。風がなければ鏡のように美しい水面を見せてくれますが、極端に小さな河川勾配は水捌けの悪さを意味します。

2004年10月、豊岡は台風23号によって泥の海に沈みました。このように大雨が降ると水浸しになりやすい低湿地帯は人間が住むには厄介な場所ですが、低湿地や湿地が大好きな生きものはたくさんいます。そんな生きものの豊岡の代表例を2つ、皆さんにご覧頂きます。

一つ目の「コリヤナギ」は、湿地を好む植物で、円山川の氾濫がつくり出す湿地に自生していました。このコリヤナギを使ってできるのが「柳行李」で、江戸時代の豊岡は日本最大の産地でした。生活様式の変化に合わせて柳行李に持ち手を付けると鞆になりました。現在豊岡は日本最大の鞆の生産拠点で、(株)アートフィアーのバッグは世界最高峰

のプロダクトデザイン賞「2009 IF デザイン賞」を受賞しています。ちなみに日本ではレクサス(トヨタ自動車)がこの賞を取っています。

日本の鞆産業は中国からの輸入品などとの価格競争に負け小さくなっていましたが、2010年に底を打った後右肩上がりに上昇し、2013年には豊岡の鞆の出荷額は足立区を抜いて国内トップに躍り出ました。JR東京駅前にある「KITTE」という人気の商業ビルの1階に豊岡鞆のショップがあります。KITTEから出店要請を受け、豊岡の鞆メーカーが共同出資で会社をつくり出店していて、豊岡産のランドセルが飛ぶように売られています。

二つ目の「コウノトリ」は、羽を広げると2メートルもある白い大きな鳥です。かつては日本各地で見られた鳥で、写真のように里山の大きな松の上に巣をつくり、周辺の田んぼや川の浅瀬で餌を獲っていました。カエルやナマズ、ドジョウやフナ、ヘビも食べる完全肉食の大型の鳥ですが、明治期に鉄砲が解禁されハンティングで数を減らします。第二次世界大戦中に松の根っこから油を採って飛行機を飛ばそうと考えた人たちにより大量に松林が伐採されてねぐらを追われ、最後は戦後の環境破壊で数を減らし、1971年に野生で最後の一羽が豊岡で死に、日本の空からコウノトリが消えました。とどめを刺したのは農薬で、餌がみんな死んでしまい、コウノトリは死んだ餌も食べるため体内に農薬が蓄積し、絶滅してしまいました。

絶滅する前にコウノトリを守ろうと豊岡で運動が起こり、1965年にコウノトリを捕まえて鳥かごに入れ、人工飼育が始まりました。しかし、その後24年間は一羽の卵もかえらず、待望の雛の誕生は25年目の春、

1989年(平成元年)の事でした。

以来、毎年のように卵がかえっていますが、野生復帰の最大のねらいは、「コウノトリも住める豊かな環境を創る」です。完全肉食の大型の鳥が野生で暮らすためには膨大な量と種類の生きものの存在が必須で、そんな豊かな自然は人間にとっても素晴らしい自然なのではないか。その豊かな自然がなくては失われ、コウノトリは絶滅しました。

もう一つ、どんなに自然が豊かになり餌が豊富になったとしても、飛んでいる鳥をやみくもに撃ち殺す文化のまちにコウノトリは暮らせません。「鳥がこんなに近くにいるって素敵だ」と思えるおらかな文化が人間の側になれば、「コウノトリを空に返そう」を合言葉に、「コウノトリも住める豊かな環境を創る」、「豊かな自然環境と豊かな文化環境をもう一度創り上げよう」が私たちの最大のねらいです。

このねらいを実現するために様々な努力を積み重ねてきました。1999年、兵庫県は豊岡市内に165ヘクタールの用地を買い求め「県立コウノトリの郷公園」をつくり、大学の研究所を置いて野生化の研究と実践を進めました。豊岡市はその一画をお借りして、2000年に「市立コウノトリ文化館」を設置し普及啓発を担当した結果、写真のように間近でコウノトリをご覧頂けるようになりました。このコウノトリは片方の風切羽根を切って飛べないようにしていますが、一年経つと生え代わるため、うっかりして飛び出してしまい大慌てする…といった事もありました。

コウノトリは湿地の鳥なので豊かな湿地生態系を取り戻す必要があり、そのポイントは「田んぼ」「水路」「川」、そして「ネット

ワーク」でした。

田んぼは、休耕田を活用して一年中水を張って草の管理をして頂きました。若干のお礼をしましたが、生きものがワァーと沸いてきて豊岡の自然が豊かになってコウノトリの餌場になり、子どもたちの環境学習の場になりました。こういったビオトープ水田が、市内に26カ所、計12.7ヘクタールあります。農業に頼らない「コウノトリ育む農法」も広がり、今年は425.7ヘクタールまで広がっています。

コウノトリ育む農法は冬に水を張ることが条件の一つになっていて、冬鳥が羽根を休め、アカガエルが2～3月頃に卵を産みます。通常、冬の田んぼに水は張りませんが、アカガエルの産卵場所を増やすため、農家の方にお願ひして水を張っていただいています。こちらはオタマジャクシの写真ですが、豊岡では“中干し”と言って6月頃に田んぼの水を抜くため、オタマジャクシは大量に干からびて死んでしまいます。そこで農家にお願ひして中干しを一ヶ月ほど後ろにずらしていただく事でオタマジャクシがカエルに育ち、その後なら水を抜いても逃げる事ができます。

このように豊かさを増した田んぼと水路との間を「水田魚道」でつないだものが、市内に151カ所あります。水路の先の円山川水系では国土交通省が河川敷を浅く掘って湿



地を再生する作業を続け、これまで新たに 67.9ヘクタールの湿地が作り出されています。

こうした努力を重ねた 2005年9月24日、コウノトリの郷公園周辺に続々と人々が集まり、歴史的瞬間がやってきます。

### ★動画上映

この時、野生のコウノトリの絶滅から 34年が経過していました。最初の一羽が飛び立った時に「やったー!!」と大きな声がしましたが、それは私の声でした。

こちらはその後の豊岡の風景です。田んぼにコウノトリと農家の男性の姿がありますが、とてもよく似ている微笑ましい写真です。また、コウノトリの郷公園近くの三江小学校では、グラウンドでコウノトリが雛を育てています。夏の花火大会では花火が上がる近くにコウノトリがいます。かなりうるさいと思いますが、辛抱してくれています。

現在は豊岡の飼育下で 97羽のコウノトリが暮らし、日本全国では 225羽が再び自由に空を飛び回っています。昨年、今年と野外で順調に卵がかえり、全国 11市の野外でコウノトリの雛が巣立ち、今年は関東、栃木県小山市の野外でも卵がかえりました。豊岡では今年、13のペアから 27羽が巣立ち、全国では 56羽が巣立っています。来年の春には 300羽を超えそうですが、この物語のスタートは豊岡でした。

農業も重要ですが、コウノトリの絶滅にどこめを刺したのは農薬でした。そこで豊岡では農薬に頼らない「コウノトリ育む農法」が確立され、広がりを見せています。

私たちは時に農薬を悪のように扱う事が

ありますが、農家が農薬を使った事は極めて合理的な行動だったと言えます。それはなぜか？日本はモンスーンアジアにあり、夏に大量の雨が降る梅雨があります。光と水に恵まれる事は光合成の条件で、日本の夏は盛んに光合成が行われ草がわーっと生えます。日本の農業は草との戦いとも虫との戦いとも言われ、その戦いは大変な重労働でした。農薬はあっという間に草や虫を殺し、農家から重労働を省き就労を安定させました。戦後、日本の国民は飢えていて食料を増産する必要があり、従来の農業では米も野菜もなかなかできないため農薬を使い、身体を傷めてまで食料の生産を続けてきました。それがここにきて「お前たちは悪だ」と言われる。農家の方々が怒るのは当然で、それでも未来のために農薬が良くないと言うなら、私たちがやるべき事は二つあります。

一つ目は農薬に頼らなくても比較的簡単に米や野菜が作れる農法、つまりは技術体系をつくり上げる事です。二つ目はそれができた時に農薬を使うよりも手間暇がかかる事を理解し、マーケットが見合った価格で買って評価するという仕組みで、豊岡はお米のブランド化にも取り組んできました。

「コウノトリ育む農法」を謳うには「必須事項」と「努力事項」があります。必須事項として、例えば「環境配慮」は生きものの確認をする事で、農薬の削減としてはまったく使わない、もしくは 80%カットする事。また、肥料、化学肥料は一切使わず、さらに「温湯消毒」や「水管理」として冬の田んぼに水を張る冬季湛水や早期湛水等々の条件があります。この条件を満たす確認ができたお米のみ「コウノトリ育むお米」という名前の使用が許可されます。この「コウノトリ育むお米」は豊岡市が商標登録をしています。

お気づきだと思いますが、「コウノトリ育む農法」は、ちょっと変な日本語で助詞がありません。これは敢えての命名で二つの意味が込められています。

①コウノトリ「を」シンボルとした生きもの「を」育む

②育まれた生きもの「が」お米を育む

コウノトリだけでなくその下にある生態系の生きもの「を」育むと同時に、育まれた生きもの「が」農薬を使わなくてもお米を育んでくれるという二つの意味をかけています。

まず①の「を」です。こちらの資料は田んぼ10アールあたりのイトミミズの数で、普通に農薬を使う慣行農法は33万匹で、通常よりも80%農薬を減らした減農薬タイプのコウノトリ育む農法は238万匹、完全無農薬は589万匹と圧倒的な生物量の差です。これはイトミミズの例ですが、様々な生きものが増えます。

②の「が」は、育まれた生きものが農薬の代わりをしてくれるという事です。こちらは田んぼでカエルがカメムシ(害虫)を食べている写真、次はツバメが害虫を食べている写真です。早朝に育む農法の田んぼに行くと一面にクモの巣がはっているのを見ることができますが、クモも食べてくれます。これは生きものが農薬の代わりをしてきているということです。

しかし、農薬で最も重要なのは除草剤で、田んぼは雑草の処理が大変なんです。育む農法の除草の一例をご紹介します。農薬を使わず冬のうから田んぼに水を張ると春先に大量のイトミミズが発生します。イトミミズは田んぼの土の中に頭を突っ込んで有機物を分解しながらフンを出し続け、トロトロ層をつくりまわります。これはプリンのような小さ

い粒子の柔らかい層で、そこに草の種が落ちます。少し経ってからこれをかき混ぜるとトロトロ層の小さな粒子と種が水に浮き、やがて種は沈みます。種はトロトロ層から3センチ深ければ発芽しないので、草の種を眠らせる事ができ、除草剤を使わなくてもお米を育んでくれる。私たちは「命に満ちた田んぼをつくる農法」を目指しています。

一方、スマート農業の研究や実践も進んでいて、やがて人間が一人もいない田んぼができるかもしれませんが、私たちはそんな田んぼをつくりたい訳ではありません。スマート農業を進めなければ若い人たちは入ってきませんが、田んぼの生きものに関心をもたないような農家を育てるつもりはありません。田んぼにたくさんの生きものがいて、そのシンボルとしてコウノトリがいる。それを素敵だと思ってくれる農家を育てることが私たちの基本的な考え方です。

育む農法は、今年425.7ヘクタールまで広がり、完全無農薬147ヘクタール、農薬80%減の減農薬278.7ヘクタールと、おそらく日本でこれほど環境を育てる農業が広がっているまちは他にないと思っています。

こうして作られたお米は非常によく売れていて、年間316トンという最大の消費地・沖縄を始め、アメリカ、台湾、香港、アラブ首長国連邦のドバイ、シンガポール、オーストラリアと6つの国と地域に輸出しています。ちなみにロサンゼルスでは1キロ/1,500円で販売しているんですが、皆さん、帰りにスーパーに寄ってご覧になってください。普通のお米は1キロ/400円前後なので豊岡のお米は非常に高いんです。しかし、コウノトリ野生復帰のストーリーを評価して受け入れていただき、高く売ることができている。大量に作れないことが一つの難点

で、輸出を始めた2016年度の1.5トンから2019年度は17トンとまだまだこれからですが、着実に伸びています。

こちらは1960年8月に出石川で撮られた写真で、この農家の女性は10年ほど前に99歳でお亡くなりになりました。女性と一緒に7頭の但馬牛と12羽のコウノトリが写っていますが、この距離感で暮らしていました。私たちは30年ほど前にこの女性を探し出し、市職員と新聞記者がインタビューに行きましたが、女性は「そんな昔の写真、しかも後ろ姿で私かどうかは分かりません。でも、たぶん私でしょう。なぜなら隣にいる牛はうちの牛ですから」とおっしゃいました。こんなふうに人と動物が仲良く暮らしていた時代がありました。女性はコウノトリについてはほとんど話をされず、ひたすら牛の話をされた最後にこうおっしゃったそうです。「あの頃は心が本当に豊かでした」と。私たちは何を失ってきたのか、何を戻そうとしているのか。この写真が示してくれていると思います。

冒頭に一枚だけご覧いただいた水害の恐ろしい写真とこの写真を重ね合わせて考えた時に私たちは、「どのように自然と共生するのか」という問いを突きつけられているように思います。豊岡は豊岡の答えを求めて参ります。皆さんは皆さん自身の答えを求めています。そして、この写真から数十年後の2019年9月に同じ場所で撮影された写真には、こんなにたくさんのコウノトリが写っています。しかし、まだここまでしか戻ってはいません。

コウノトリ野生復帰の取り組みのおさらいですが、グラフの横軸は1965～2020年までの時間軸で、コウノトリはこのように増え

農業に頼らない農業も広がってきました。湿地再生、人材育成、環境経済の関係としては、環境を良くするために経済を敵にせず、味方につけて儲ける。その他の運動拡大、時間と分野にまたがって広がるすべてが「コウノトリの野生復帰」です。この長い、長い物語を約3分の映像でご覧ください。

### ★動画上映

#### ②インバウンドの促進

豊岡は1925年5月の北但大震災で壊滅的な被害を受けていますが、城崎温泉も同様に大きな被害を受けています。こちらは大震災前、大正時代の城崎温泉の中心街の写真ですが、当時から木造三階建ての旅館街で同じ場所の震災後の写真がこちらです。城崎では火災が発生しほとんどが灰になりましたが、ここから城崎の復興が始まります。まちの要所に鉄筋コンクリートの建物を配置し、再び大規模な火災が発生しても必ず食い止める防火壁の機能を持たせました。当時としては最先端の防災対策を施した上での復興のコンセプトは「元に戻す」で、兵庫県の「洋風建築物で復興する」という提案はまち民の猛反対にあいます。「城崎に洋風は合わない。城崎は和風なのだ」と兵庫県の提案を撤回させ、木造三階建ての旅館街が復活しました。

しかし、1970年に城崎にとって極めて重要な事案が起きます。当時の人口約6,000人に対して暴力団員が約120人、しかし取り締まる警察署員は42人と暴力団員がかなりの悪さをするようになりました。翌1971年、着任したばかりの警察署長が立ち上がりまちの人々と団結して暴力団を一掃、現在城崎には暴力団関係者は一人もいません。女性が浴衣姿で夜遅くまでまちを歩いても心配す

る事はなく、若い女性がたくさん来てくださるようになりました。

さらに同年6月、城崎にとって画期的な制度「契約入浴料制度」が導入されます。城崎には7つの外湯（パブリックバス）があり、宿泊者が旅館に大人210円、子ども105円の入浴料を支払う事で、翌日午後3時まで何回でも自由に外湯を利用する事ができます。入浴料は外湯を利用してもしなくても自動的に支払う仕組みになっていて、それが温泉を管理する特別な自治体・湯島財産区に支払われる事で温泉の経営が安定します。こちらは城崎温泉の地図ですが、半径400メートルのエリアに7つの外湯と74の旅館が入っているので、浴衣姿でカランコロんと下駄を鳴らしてまちを歩く事ができます。その仕組みを契約入浴料制度が支えているのですが、まちの一体感がなければこんな事はできません。城崎が誇る不文律は「共存共栄」で、小さな旅館が多いので珈琲を注文しても「すみません、三軒隣の喫茶店で飲んで頂けますか?」と言われる事があります。お土産物を扱うのは大きな旅館だけで大半の旅館は置いていません。それは「お土産物屋さんで買ってください」という事で、それがまち中でおもてなしをする共存共栄の心なんです。

城崎地区の人口は3,500人ですが、2019年には62万人が宿泊しました。こちらは『Lonely Planet』という英語圏で最大シェアを誇る旅行ガイドブックで、2007年の「JAPAN'S BEST ONSEN 12」城崎温泉が入りました。「Best Onsen Town」という事で温泉街では日本一と言われ、その頃から欧米系の方々がたくさん来られるようになり、ミシュランのグリーンガイドでも二つ星をいただいています。

2019年の外国人宿泊数は延べ5万783人と、先ほどお話しした宿泊客数62万人と比較すると絶対数はしれていますが、8年間で45倍に増え、諸外国からまんべんなくお越しいただいています。城崎を含む豊岡も順調に増えていて、2019年は6万3,648人になっています。現在はコロナ禍で海外からお越しになる方は皆無で、日本におられる外国籍の方が少しずつ来られるくらいですが、外国人の方が浴衣でまちを歩く光景が普通に見られるようになりました。

では、この方々は何を求めて豊岡、城崎にお来しになるのか。アメリカを見たいわけではありませんし、ヨーロッパを見たいわけでもありません。つまり、日本を見たい、日本の文化を楽しみたいために時間とお金をかけてわざわざ豊岡、城崎にお越しになっています。

こちらは2019年の資料ですが、観光客で最も多いのは台湾で次に中国、香港、タイ、アメリカ、フランス、シンガポール、オーストラリアと続きます。エリア別では欧州・北米・豪州の合計が国全体の18%に対して32.3%と圧倒的に多く、また、城崎の閑散期の春と秋にお越しになる傾向が強いので、私たちはここをターゲットにしています。

私が市長になって気付いた「市役所の弱い点」です。

- ・コスト意識の徹底
- ・戦略性
- ・世の中の変化に敏感に対応する感度

みんなまちの事が大好きなので台風が近づいたり、災害が起こったりすると我を忘れて献身的に頑張ってくれますが、欠点もあります。これを民間のノウハウで補おうと、2009年「優れたコーチを求める」を合言葉

に副市長を公募、1,371 人の応募者から真野毅氏を選びました。京セラで部長をしてお辞めになった時に公募を知ったそうで、豊岡市とは何の関係もない方でした。

彼が豊岡市を注意深く見ていた 2010 年、インバウンドが増えてきた事に気づきます。私たちも城崎の人も何が起きているのかわかりませんでしたが、それまで城崎で外国人を見かける事はほとんどなく、「これはチャンスでは？」と。しかし市役所にインバウンドに対応できる人材はいません。そこであるホテルのパーティで出会った楽天トラベルの社員に「御社から社員を借りの事はできませんか？」と尋ねると、1 週間後には取締役の OK が、1 ヶ月後には三木谷氏の OK が出ました。このスピードに私はとても驚きましたが、12 月に快諾を頂き、翌 2013 年 4 月に環境経済部に大交流課を設置、そこに楽天トラベル入社 4 年目の佐藤くんが来てくれました。彼は大変生意気な職員で、会議をすれば「この会議の目的は何ですか？」と言って市職員をオロオロさせ、「外国人宿泊客の実績データはないんですか？」「データがなくてどうやってインバウンドをするんですか？」「数値目標はありますか？」「えっ、ないんですか!？」と。彼がとにかく「スピード! スピード!! スピード!!!」と言うので、反発を覚えながらも職員は変わっていきました。そして 2014 年、国の制度を使い海外戦略担当としてイギリス人女性を採用してチームをつくり、インバウンドの取り組みがスタートしました。

さらに 2016 年に豊岡版 DMO「豊岡観光イノベーション (TTI)」をつくりました。観光のマーケティングやマーケティング戦略づくりをメインとした組織で、設立目的は「関係者の力を結集し、顧客視点に立ち、地

域の魅力を再編集して、地域の稼ぐ力を引き出す」です。我々は戦略や作戦を立て儲けるのは地域の業者の皆さんとし、ビジョンの「ローカル&グローバル」を実現する。豊岡市や高速バス会社の WILLER (株)、地元の金融機関から出資をしていただき、神姫バスや近畿日本ツーリストなどからメンバーに来ていただいて WEB のマーケティングを行っています。また、「Visit Kinosaki.com」をつくり、Web 広告や SNS を発信して訪問者を増やしています。

城崎に来られた方のアンケートを定点で取っていますが、「城崎に行きたいと思わせる情報源は何ですか？」の問いに、2001 年は 1 位 Lonely Planet、2 位その他、3 位友人・知人の紹介、4 位 Visit Kinosaki.com でしたが、2018 年は 2 位になるなど、Visit Kinosaki.com に誘導し人々に訴える方法が功を奏して



います。

また、メディアへの露出も増やしています。TTI 職員にも外国籍の方がいますが、メディアに掲載してもらえよう絶えず海外メディアに情報を出しています。もう一つは REP (Representative の略) で、豊岡市と契約を結んでいる海外の企業が豊岡の代わりに各国のメディアに情報を届け、記事として取り上げていただく。現在はニューヨーク、香港、タイ、パリ、シドニーに海外 REP を設置しています。

こちらは豊岡が海外メディアにどれほど取り上げられたかを一年毎に記したグラフです。ニュースは除いた豊岡市と TTI が関与したのみの件数で、一昨年は 128 件で昨年は 351 件と確実に増えています。今はコロナ禍で海外からのお客様はまったく来ませんが、いずれコロナは終息します。その時にこの努力は必ず実ると、市職員や TTI 職員は毎月のように世界中のメディアにレターを送り続けています。英語、フランス語、ドイツ語、タイ語…で「桜の花がこんなに素敵に咲きました」と。もちろん旅行者にもダイレクトに働きかけていて、Google で「kinosaki」 「kinosaktionsen」 がどれだけ検索されているのかを欧・米・豪の 5 市場（米・独・仏・英・豪）で比較したところ、資料のように 2016、17、18、19 年とダイレクトに検索している人が増えている事が分かりました。

ただ、アジアはまだまだなので、台湾、香港、中国をターゲットに始めた様々な取り組みの中から最新の一例をご紹介します。昨年、日本でラグビーのワールドカップが開催され、私たちは強豪国・欧米豪のいくつかにターゲットを絞り、その国のメディアがラグビーを特集する時に Web 広告を出しました。また Google でラグビーを検索した時に自動

的に城崎温泉の写真が入る、Facebook 広告から試合会場近くの Wi-Fi スポットで携帯電話を立ち上げた時にプッシュ型の広告「城崎に行こう！」が入る、といった事をしました。結果、9～11月の延べ集客者数を対象国に絞った場合、全国は対前年度同期比 33%増が豊岡は 43.8%増で、Google での「kinosaki」 「kinosaktionsen」の検索数は全体で 30%増、対象国で 36.6%増と作戦は成功したと見えています。

しかし、豊岡の TTI は非常に弱小なので巨大な瀬戸内 DMO と協定を結びました。比較的裕福な瀬戸内 DMO が海外メディアを引っ張った際に、瀬戸内から豊岡までの移動費だけを出して PR していただく方法を取っています。こちらが TTI のメンバーの写真で、男性 4 人、女性 5 人と大変良いメンバー編成です。予算はたった 8,000 万円ですが、もう少し彼らのお給料を上げてあげたいと思っています。

これら以外にもまちの魅力を高めるために様々な事をやってきました。こちらは城崎のまちなかの写真ですが、市が電線類を地中化しました。夏には「城崎夢花火」と題し毎日 5～10 分間花火を打ち上げます。まちのライトアップも地元の方々がやってくださり、浴衣のレンタルを始めたお店もあります。民間が古い消防署を買い取ってフランス人を念頭に置いたアート溢れる旅館をつくり、おかげさまで大人気です。コロナ禍で今はさっぱりですが、いずれお客様は帰って来てくださると思っています。さらに「夜食を外で」をコンセプトにレストランもできてきました。2018 年度の来訪者アンケートでは国内全体の満足度は 89%ですがインバウンドは 95%で、内 62%が大満足の結果でした。

城崎温泉は 5 月中すべての旅館、土産物店、

飲食店を自主的にシャットダウンしましたが、休業が明ける直前につくった映像をご覧ください。

### ★動画上映

声を掛ければこんなふうに通じゅうの人が集まり参加して下さる。これが城崎の大きな特徴の一つです。皆さん仲が良く、全員でまちを支える風土があります。

#### ③「深さをもった演劇のまち」の創造

出石は江戸時代の城下まちの風情を色濃く残す素敵なまちで、近畿に現存する最古の芝居小屋「永楽館(1901年築)」がありました。長らく閉館されていましたが市が譲り受け、2008年に芝居小屋として復活。毎年秋に片岡愛之助さん、中村壺太郎さんらによる『永楽館歌舞伎』を約一週間上演しています。今年は残念ながらお休みしましたが、客席数は約350席で舞台と客席の圧倒的な一体感が大きな魅力です。

また、城崎温泉の一番奥にある県立城崎大会議館を諸般の事情から市が譲り受け、2014年に「城崎国際アートセンター」としてリニューアルオープンしました。パフォーマンス、演劇とダンスに特化した日本最大のアーティスト・イン・レジデンス(滞在型創作施設)で、最長3ヶ月まで宿泊と稽古場の利用が無料で演劇やダンスなどの作品づくりができます。芸術監督は日本を代表する劇作家・平田オリザ氏で、7～8年前に作成したPR動画をご覧ください。

### ★動画上映

城崎国際アートセンターには世界中から

一流のアーティストが続々とやってきています。こちらの写真はイレーヌ・ジャコブ氏で、1991年カンヌ国際映画祭で女優賞をとったフランス人の俳優は1ヶ月滞在されました。アルディッティ弦楽四重奏団は現代音楽の分野で世界最高峰の四重奏団で日本人ダンサーと共に、『コンビニ人間』で芥川賞を受賞した村田沙耶香氏は劇作家や俳優と共に滞在されました。今年のアーティスト・イン・レジデンスには世界23カ国・80団体の応募があり、世界6カ国17団体にお貸ししていますが、コロナ禍で残念ながら海外からのご参加はありません。

このように演劇が力をもち始め観光も順調に伸びてきたので、兵庫県に演劇と観光が学べる四年制の専門職大学をつくって欲しいと提案しました。国際観光芸術専門職大学(仮称)は現在認可待ちで、間もなく認可が下りると期待しています。来年4月に開学予定で一学年80名、演劇、ダンス、観光が学べる大学です。建物は来年2月には完成し、平田オリザ氏が学長に就任される予定です。平田氏は既にご家族と共に豊岡に移り住んで来られ、東京駒場にあった平田氏主宰の劇団青年団の活動拠点も豊岡に移転、古い建物を改造した劇場「江原河畔劇場」もできました。

さらに「豊岡演劇祭2020」を開催しました。今年はコロナ禍で本当に大変でしたが、座席数を半分に減らすなどの対応のもと、約2週間の開催で招待演目は9団体11演目、フリンジ(自主参加)は23団体27演目でした。10団体を募集したフリンジには日本中の65団体から応募があり「どこも演劇ができない」「豊岡でやりたい」とお越し頂きました。劇団青年団による『ヤルタ会談』の上演や、

大道芸や舞踏を披露して下さった知念大地さんは既に豊岡市民です。今年は4,710人の方がチケットを買って観劇をして下さったんですが、座席数が半数だったので来年は1万人を超えると期待しています。では、知念大地さんの大道芸をご覧ください。

### ★動画上映

こちらの写真は児玉北斗さん、木田真理子さんご夫妻でスウェーデン王立バレエ団のかなり位の高いダンサーでした。木田さんは、バレエ界の「アカデミー賞」とも呼ばれる「ブノワ賞」を2014年に日本人として初受賞されたダンサーですが、来年開学予定の専門職大学の教員として豊岡に移り住む事になりました。お二人は2014年ノーベル賞授賞式の晩餐会でもダンスを披露されていますので、その映像をご覧ください。

### ★動画上映

豊岡演劇祭2020の来場者アンケート(514名)の結果、来場者は豊岡市民30%、豊岡市以外の兵庫県民19%と兵庫県民が約半分で、残りは関東地方15%、大阪13%、京都8%でした。豊岡市民以外の宿泊の有無は日帰り24%、一泊32%、二泊27%と続き六泊以上が3%と、遠方からお金を使って宿泊付きで豊岡に来られる方がいらっしゃる事が分かりました。

また、昨年実験的に開催した豊岡演劇祭第0回と比較すると、初めて豊岡を訪れた人の割合は13.1ポイント増の41.4%、宿泊率は16.8ポイント増の51.4%、平均宿泊日数は1.53日から2.17日に増えました。これは演劇ツーリズムの可能性がはっきり見えてき

たという事で来年以降活かしていきたいと考えています。平田さんはこうおっしゃっています。「5年でアジアNo.1、10年で世界有数の演劇祭にする」と。本当か?と思いますが、きっとそうなるだろうと思っています。

「深さをもった演劇のまち」の一例をご紹介します。豊岡では、ふるさと教育のほか、幼稚園、保育園からの英語学習や、小学6年生・中学1年生の演劇の授業などがあります。演劇の授業はコミュニケーション能力の向上が目的ですが、なぜ、演劇でコミュニケーション能力が向上するのか。コミュニケーションは双方向で行われるもので、自分の意見を言うだけでなく相手の意見や言葉を受け取らなければなりません。つまりキャッチボールで、相手の球を受け取る能力を共感力=empathyと言い、イギリスでは「自分で誰かの靴を履いてみること。」とされています。誰かの靴を履いてみて、その人がどのように世界を見ているかに想いを寄せてみる。いわば他者への想像力です。では、なぜ演劇で他者への想像力が身に付くのか。私たちは、こんな風に説明しています。「もし、いじめっ子がいじめられっ子の役を本気で演じたら、その子にどんな変化が起きるのか?」。これこそがempathyで、他者への



想像力が身につくと、相手に届く表現力も育ってくるようになり、キャッチボールが上手くなります。

では、なぜ子どもたちがコミュニケーション能力を身に付けなければいけないのか。それはこれからの時代を生きる子どもたちは、私たちよりはるかに多様性の海を渡り、多様性の森で生きる事が必要になるからです。パートナーが外国籍の方かもしれませんし、アラーの神さまにお祈りをする方がお隣にいるかもしれません。いろいろな方が地域の一員に、会社の一員に、家族の一員になる事が十分に考えられる。そんな多様性の中でいかに上手く生きていくのか、やりくりしていくのか。そのために必要なスキルがコミュニケーション能力だと考えています。だから「深さをもった演劇のまち」なんです。

#### ④「ジェンダーギャップ」の解消

最後に「ジェンダーギャップ」についてです。豊岡のジェンダーギャップ=社会的、文化的な男女の差について調べてみました。

豊岡の51～60歳の平均年収は男性480万円と都市より低いんですが、女性はさらに低い251万円です。正規職員の割合・男性81.5%、女性45.6%という数字も平均収入の差に繋がっていますが、なぜこんなにも差があるのか。豊岡市役所の40代女性と男性の職歴の比較です。女性職員は住民サービスと窓口がほとんどで、男性職員は様々な部署で腕を磨いてきましたが、私たちはこういった事を放置してきました。

豊岡の男女の構成は40代以上の男性75.8%、女性24.2%、40歳未満は57.7%、42.3%と随分縮まってきましたが、大きな差があります。では、何が問題なのか。東京の合計特殊出生率は、1.15、豊岡は1.74、沖縄

は1.82と、東京はさぞかし子どもの数が減っていると思いきや、減っていません。実は東京だけが子どもの数を増やしています。ではなぜ、あんなに低い出生率でこんな事が起きるのか。社人研（国立社会保障・人口問題研究所）が調べた「2005年から2015年の10年間の子ども（0～14歳）人口の変化」で、増加した都道府県は東京だけです。

一方、こちらは東京の男女の流入の様子で、1996、97年あたりで男女ともプラスになっていて、東京が日本中から男性と女性を奪った結果、若い人が東京に集まって地方からいなくなり、地方の若い夫婦の数が減って出生率は高いのに人口が減っていくという構図が読み取れます。

この10年間、東京の大企業は多様性という観点からジェンダーギャップの解消にかなり力を注いできましたが、何も知らず何もしてこなかった私たちと圧倒的な差がついてしまい、豊岡を始め日本中の地方で人口減少が加速しています。また、コロナ禍までは労働力不足で男性か女性かなどと言っていられませんでしたが、採用した女性が女性であるがために補助的な仕事ばかりさせられスキルを磨く事ができなければ、会社のパフォーマンスに大きく影響する経済的損失です。まちづくりの会議をしても男性ばかりで、その時点で分母を半分にしていて、ひょっとするとその中に良いアイデアがあったのかもしれませんが。これは社会的な損失ですが、最も大きな問題はフェアではない事です。

私はジェンダーギャップの存在に気付き、地方創生のために手を付けなければならない問題だと決意しました。女性職員たちの声に耳を傾けると、「これまでどれだけの事を女性だからと断念してきたのか」を切々と聞

かさね、大きなショックを受けました。私はフェアではなかった。現在は経営者や人事担当者のセミナーも開催していますし、女性のリーダーシップ研修会も開くようになりました。昨年からは男性職員には育児休業の取得を義務付けていて、せいぜい2週間長くても1ヶ月ですが、つい先日14人目の育児休業の辞令を交付しました。

民間企業の経営者にも「フェアではなかった」と共感する方が出てきました。さらに女性の能力を磨いた方が会社にとって得だという事が分かってきて、ある若い経営者は自ら1ヶ月間の育児休業を取り、さらに有給休暇とは別に10日間のペアレント休暇の制度を設けるようになりました。

豊岡は日本中のジェンダーギャップ関係者から高い関心を寄せられています。私たちは問題の所在に気付いただけで、まだ何もしていません。しかし2年ほど前に東京で開催された国際女性会議で私がこのお話をただけで会場がざわつき、降壇すると名刺交換の行列ができました。これが日本の現状です。「子育て日本一のまちをつくる！」などと言っていますが、子育てうんぬんの前に、結婚前の女性がまちに帰って来なくなっている。それは各々のまちのジェンダーギャップに起因しています。私たちは女性に期待してこなかった事を深く反省していますが、期待されていない所にノコノコと戻ってくる人はいません。女性も男性も障がいがあるとなかろうと、私たちのコミュニティの大切な一員であり、私たちは期待している。そのメッセージを送る事ができないまちに未来はないと思っています。始めたばかりで、まだ何もできていませんが、大切な問題だという事で最後にお伝えさせて頂きました。

「突き抜けた『豊岡に暮らす価値』の創造」を皆さんと共に。その魅力でもう一度人々を取り戻す。これが豊岡市の戦略です。ご静聴頂き、ありがとうございました。

北川 ありがとうございます。中貝市長には2010年にも本校で講演をして頂いています。当時、政策学部、政策学研究科はなかったので、法学研究科のNPO 地方行政コースの講演会としてコウノトリに特化したお話をして頂きました。講演録を読ませていただいたんですが非常に感動する内容で、最後に質問をされたNPOの職員の方が「感動して涙が出た」とおっしゃっていました。本日もコウノトリ、自然、インバウンド、観光、温泉、演劇、ジェンダーとどれも興味深い内容と引き込まれる話術で時間が経つのを忘れてしまうお話でした。市長の意欲と真摯な姿勢を十二分にお伝えして頂き、前回の講演でも「我々には言葉と情熱しかないけれど、それが大事だ」とおっしゃっていたように、非常に熱い心をお持ちだと強く感じました。

受講生には後ほど議論の時間を設けていますので、外部からのご参加で質問のある方は挙手なさってください。

**【Q1/ 男性】** 今季の農水省の多面的機能支払交付金という制度は私も活用させて頂いていて良い制度だと思っています。市長もこの制度を活用されていると思いますが、どのような目でご覧になっているのかお聞かせください。

中貝 私は評価しています。農業が多面的な機能をもっているという見方そのものが、日本では30年ほど前によく言われ始めたと思います。多くはディカップリングとして

ヨーロッパなどで進められてきた政策を日本もようやく取り入れ、多面的機能という形で結実させた。日本の農業の再発見、再評価という意味では非常に重要な制度だと思っています。

スマート農業が進みやがて誰もいない田んぼができるだろうと思いますが、私たちはそういう世界をつくりたいとは思っていません。もちろん省力化の必要はありますし、若い人がパソコンを使いながらカッコよく農業をやれば人は入ってくると思います。しかし、田んぼや農業が果たす様々な機能や生きものに関心を持つ農家が育って欲しいと強く思っているのも、制度的な裏付けには非常に意味があると捉えています。

ただ、国がやる事は一律的で現場に合わない事もたくさん出てくるので、例えば事態を改良するような情報は国にどんどん上げ、上手く取り入れながらより良いものにする歩みは必ずしも速くないと思っています。

**【Q2/ 男性】** 高齢ドライバーによる痛ましい事故が多発し、免許返納が多くなっています。車社会のまちで高齢者が免許を返納して移動が困難になり新たな問題も起きていますが、豊岡市ではこういった対策をされていますか？



**中貝** 大きな問題の一つですね。豊岡市は700平方キロメートルと淡路島よりも広い面積に8万人弱しか住んでおらず非常に非効率で、高齢者の免許返納の問題が起きています。この問題解決はかなり困難で、私たちは「疎」という非効率を最先端のテクノロジーでカバーしコミュニティを維持する事はできないかと、演劇祭でいくつかの実験を試みました。

一つはAIを活用したオンデマンド交通の実験です。演劇祭は回遊型で神鍋高原や城崎温泉、円山川のほとりや海辺などいろいろな所で開催されていますが、移動手段としては小型バスが動いているだけです。バスは電話で呼びますが、どのようにバスを配車すると効率的なのかの判断は人間にできないので、AIでマッチングする実験をしました。「旅のしおり NAVITIME Travel」を活用して「○月○日○時に神鍋高原で観劇をして、お昼には○○駅の近くで、夕方は城崎温泉で演劇を観る」と入力すると、最も効率的な移動方法を教えてくれます。こういった方法が上手くいけば、演劇祭に限らずまちの仕組みに取り入れようと考えています。

また、高齢者が大きな車の運転をすると注意が散漫になるなど事故の可能性が高くなります。こちらの写真は超小型電気自動車「コムス」で、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金の全面的なご協力により貸して頂きました。この自動車は視野がかなり広く、左折時に人に気付かずはねてしまう事はありません。また、車体が非常に柔らかいので当たっても大きな事故にはなりませんし、スピードもそんなに出ません。こういった導入実験も始めています。

私たちはスマートシティとは言わずスマートコミュニティと言っています。「最先端

のテクノロジーで便利なまち＝スマートシティ」ですが、「便利＝人間の幸せ」という考え方には大きな疑問をもっているのです。疎である非効率是最先端のテクノロジーでカバーするけれど、やはり人が繋がるコミュニティだと考えています。ただ、地方には縦系列のコミュニティが多いので、横にフラットに繋がるコミュニティをつくろうと。ハイテクで縦向きのコミュニティを横にフラットなコミュニティにできないのかも含め、模索を始めました。成果はまだ出ていませんが、様々な取り組みを始めています。

**[Q3/ 男性]** 地域コミュニティでもジェンダーの壁が阻害要因になっていると感じています。市長がおっしゃった市役所の弱い点と「ただし、まちが大好き」は地域コミュニティも同様で、市役所はその延長線上にあると考えています。現在は外国人の人材を取り入れるなど様々な改革を行っておられますが、最後におっしゃったジェンダーの多様性を活かす事は、ひいては市役所の弱い点をカバーする事に繋がるのでは？ また、地域コミュニティに多様性を落とし込むために役所が旗を振っても閉鎖的な事が多く、まちの場合は受け入れられ難いと感じました。少し意地悪な質問ですが、この2点に関してどうお考えなのかお聞かせください。

**中貝** 私たちの問題意識とまったく一緒ですね。市役所でジェンダーの問題に取り組んで分かったのは「女性の問題ではない」という事です。豊岡市役所では育成や研修など職員が何を求めるのか自体が混沌としている事も分かりました。何も考えず、ただ本人たちに任せていただけでしたが、男性であろうと女性であろうとスキルを身に付けるチャ

ンスを与え、身に付いたスキルを発揮できる組織をつくり、職員が動けるようにバックアップする仕組みをつくる。メンター制度などいろいろと対応していますが、研修体系をガラリと変え、若い頃から様々な分野を経験してから絞り込むキャリアアップの考え方を構築し直しています。こういった状況の中で女性職員も少しずつ信じ始めてくれています。「どうせ中貝のパフォーマンスでしょ!」「2週間の育児休業で女性の辛さが分かるもんですか!」などとも言われましたが、やらなければ前に進みません。私の本気度が少しずつ伝わり、変わり始めていると思います。

損得の理論で納得する組織や経営者も、以前は「男が良い」などと選り好みしていたかもしれませんが、これほどの人手不足の今はできないでしょうと。採用した女性が補助的な仕事ばかりしていたら「会社のパフォーマンスは落ちますよね」と、損得の話ですから分かりやすい。私たちは経営者と話す時にフェアネスな話はせず、「損だ」という話から始めます。例え意見が違って、男性の経営者が「女が男に勝てる訳がない」と思っても乗れる損得の話から入り、タイミングを見計らってフェアネスの話をします。しかし、コミュニティは難しい。身体というより村に染み付いている考えを変えるのは非常に難しいんですが、今年度中に戦略を立てよ



うと思っています。日本人は「皆さんそうしておられます」に弱いので、「あの会社はそうされました」「豊岡市役所の幹部職員はここまでできました」という「皆さんこうしておられます作戦」など、手練手管で一つひとつ形を整えようとしています。

私の母校のOB会の会長には歴代弁護士や病院長が就いていたんですが、私の妻が会長になりました。そんな感じでじわじわと広まり「市役所が言っているから一度やってみるか」と変わっていく。今まで70～80歳の男性しかなかった豊岡の高校のOB会会長に60代の女性になって巷がざわめく。いえ、ざわつかせる事に使うという意欲でやりたいと思っています。昔は長老の「女、子どもは黙っている!!」の一言でみんな静まり返っていましたが、コミュニティはもう壊れる寸前で人がいなくなっている訳ですから。その危機感は皆さん共有するようになっていて、聞く耳をもつようになって頂いていると思っています。

**【Q4/ 男性】** 地方は、大都市を中心とした政府のもつ価値観に合わせようとし過ぎて何もできなくなっているのでは、と私自身は反省していました。しかし、豊岡市の取り組みは多面的で、豊岡と同様にそれぞれのまちにはそのまちにしかない特色があると思います。役所は「あれもこれも全部やらなければ!」と思い込んでいるような気がします、価値観を変えて戦う考え方が間違っているのか、やはり変えて戦うべきなのか、どのようにお考えですか？

**中貝** 悩ましいところですが、私は「地方は自分の足元を掘るしかない」と考えています。豊岡にディズニーランドがきてくれれば

もちろん嬉しいですが、あり得ないですよね？であれば、自分たちがもっている資源に目を向ける他はありません。その時に私たちは東京との比較ではなく「世界に通用するかどうか」で考えています。絶えず世界を見る、と。

映画も同様で、是枝監督は最初から世界を意識して映画をつくっています。だからきちんとカンヌで評価される。そうでない映画監督もたくさんいますがこの違いは大きいと思っています、私たちはとにかく世界を意識する。例えば豊岡の人口は8万人ですが、カンヌ国際映画祭が行われるカンヌの人口は7万人で、世界で最も演劇祭が成功していると言われているフランス・アビニョンの人口は9万人と、まったく遜色はありません。私たちの中にも「大都市でなければ世界的な演劇祭や映画祭はできない」という刷り込みがありましたが、世界を見るとまったくそうではありません。人口7万人、8万人で立派なまちがたくさんあり、それが「小さな世界都市」という考え方で、大きさに関してはそういったところを見る必要があります。

また冒頭でもお話したように、自分たちの足元を見るしかない。コウノトリもかつては田んぼを踏み荒らす害鳥でしたが、今は環境のシンボルです。コウノトリは何も変わっていません。価値を変えたのは私たちです。田んぼを踏み荒らす害鳥で何の役にも立たないという価値しか付与しなかった人間が、豊かな環境のシンボルという価値を付与する事でコウノトリはハッピーな存在になった。同様に地域にある様々なものに人間がどのような価値を付与するのか、発見するのか、それが一番大切だと思っています。

**北川** ありがとうございます。まだまだお

話をお聴きしたいんですが、これで講演会を終了したいと思います。ご多忙の中お越しいただいた中貝市長に感謝の気持ちを込めてもう一度拍手をお願い致します。本当にありがとうございました。

(2020年10月10日)



2020年度（第3回）

龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム 公開講演会

## 「10年後来る彼女のために —性暴力被害者支援の現場から—」

兵庫県立尼崎総合医療センター 産婦人科部長  
NPO 法人 性暴力被害者支援センター・ひょうご 理事

田口 奈緒

田口奈緒（たぐち なお）

高校時代の経験から産婦人科医を志す。神戸大学産婦人科、若宮病院産婦人科をへて兵庫県尼崎市総合医療センター産婦人科へ。2013年にNPO法人 性暴力被害者支援センター・ひょうごを設立、代表をへて現職。



**土山** 先進的な地域の政策を学ぶ講演会科目ですが、「リーダーシップ研究」は北川先生がご担当され、先日は豊岡市長にお話をして頂きました。「リーダーシップ研究」が自治体や企業のトップリーダーにお話をして頂くのに対し、この「先進的地域政策研究」は先駆的な取り組みをされている自治体や地域の課題に取り組まれている方にお話をして頂くことが特徴です。

本日は「性暴力被害者支援の現場から」という事で、兵庫県立尼崎総合医療センターの産婦人科部長でありNPO法人 性暴力被害者支援センター・ひょうごで代表を務めておられる田口奈緒氏にお越し頂きました。今回は2つの立場からお話をして頂くのはもちろんですが、NPOの運営について皆さんから意見やアイデアを頂きたいとおっしゃってくださっていますので、ご講演の後、田口先生からの論点提起をふまえ私から私たちが投げかけるテーマに対して、3人1組で15分程度意見交換をして頂きます。その結果や話し合いの中で気付いた事などをお聞かせ

頂き、後半はそれを元にやり取りをさせて頂こうと思っています。〔この講演録では前半の講演部分のみの収録です〕メモを取ったり自分はどう思うのかを考えたりしながらお聴き頂きたいと思います。それでは田口先生、よろしくお願い致します。

### ■はじめに

**田口** 皆さん、こんばんは。兵庫県立尼崎総合医療センターで産婦人科医として働いている田口と申します。部長と役職は付いていますが、年齢が上がるとみんな部長になり、私の上にはボスもいて私が一番上ではありませんし偉い人でもありません。産婦人科医の傍らNPO法人 性暴力被害者支援センター・ひょうごの代表理事もしています。

土山先生からお話を頂いて何を話そうかと考えたんですが、実は私たちNPOもかなり行き詰まっているところがあり、今回は政策学部の方々が集まってくださるという事で皆さんからお知恵を拝借したいと思って

います。私たちがお話をする場は女性ばかりの事が多いのですが、本日はジェンダーバランスも良いので新しく多様な意見が頂けると期待しています。

よく「なぜこんな活動をしているのですか?」「なぜ医者になったんですか?」と聞かれます。私はずっと文系でしたが、高校3年生の時にインドネシアに交換留学した時にインドネシアの水がすごく合い、「ここで仕事がしたい!」と考えました。「医者になれば発展途上国でも仕事ができる。特に産婦人科であればなおさらだ」と勉強をしながら医学部に進みました。

神戸大学産婦人科に入局した後、こちらの写真の若宮病院で産婦人科医として10年目から10年間勤務したんですが、ここが人生の大きなターニングポイントになりました。若宮病院は神戸の須磨海浜公園の裏手にありそんなに大きな病院ではありませんが、お子さんを連れただお母さんが並ぶときちんとお父さんがいるのは半分程で、「不倫です」「お父さんは誰か分かりません」「夫は刑務所に入っています」と社会的にハイリスクな方たちがやってきました。また、「診てもらえる所がないので診てください」と性被害に遭った方が来る事も多く、中学生で妊娠してしまったりDVでシェルターに居たりといった

方たちにたくさん会い、医者は身体だけでなく背景にある生活や福祉的な事も込み込みでみなければ患者さんを診る事にはならないと教えてもらいました。

この病院で今一緒にNPOで活動している仲間とも出会い、「どうすれば性被害に遭った人に良い医療や良い支援が提供できるか」と勉強会をする中で、「医療だけでは駄目だ」と「ワンストップ支援センター」という大きな団体を立ち上げるに至りました。このお話は後半でさせていただきます。

本日のアウトラインですが、皆さんがこういったお話に詳しいかどうか分からないので、まず、「性犯罪・性暴力の特性」についてお話をさせていただきます。次に私たちの団体を含めた全国にある「ワンストップ支援センターの役割について」、そして最後が皆さんからご意見やアイデアを頂きたい「持続可能なNPOのためには」になります。皆さんへのご案内では「10年後来る彼女のために」という講演タイトルを付けていましたが、お配りした資料では「性暴力被害者支援の現場から」としています。私たちの組織は発足から7年であと3年経つと10年になります。「あの時被害に遭った…」という相談者さんがもし10年後に来られた時にセンターがなくなっていると悲しいので、「10年後来る彼女のために」持続可能なNPOが運営できるようにお知恵を頂きたいと思っています。

### ■性犯罪・性暴力—性暴力とは？

まず、性暴力について皆さんと一緒に考えたいと思います。先ほど「性被害」と言いましたが、「性被害」と「性暴力」そして「性犯罪」はどう違うのか。性暴力と聞くとレイプが思い浮かぶと思いますが、同じ行為でも



家族内で受ける性的虐待や、配偶者や恋人など、本来は大好きで近い間柄の相手からレイプと同じような性暴力を受ける事もあります。スクールセクハラ、キャンパスセクハラなど企業でのセクハラも最近では取り沙汰されていますし、同じセクハラでも例えばスードポスターを貼る、卑猥な言葉を言うといった環境型のセクハラもあります。さらに現在は「セックスをすれば会社に残れる、注文が取れる」といった取引型のパワハラがセクシヤルな場面で行われる事も多くなっています。レイプと言うと暗い夜道で知らない男に若い女性が襲われる…といったイメージですが、ボカスカ殴るといった事がなくても断る事ができない立場を利用して相手をコントロールする事も性暴力です。

アメリカ疾病予防管理センター (CDC) では、「同意のない、無理やりで性的な言動を性暴力」と定義づけています。レイプだけではなく、例えば胸やお尻、性器を触られる、触らされるといった痴漢行為や、相談電話を受けていると卑猥な電話がかかってくる事もあるんですが、そういった言葉による嫌がらせも性暴力です。裸の写真を自撮りさせられ「別れるなら写真をばら撒くぞ」などと脅されるリベンジポルノに利用される事もあります。さらに覗きや下半身を露出するなど、接触しなくても「見せられる事」で受ける性的な暴力としてのインパクトも非常に大きいです。接触しないものから接触するもの、レイプと自分の境界内にグイッと入ってくる行為であればあるほどダメージは大きくなっていきます。

では、なぜ性暴力が起こるのかを考えてみてください。なぜか「性」の一文字が付いた瞬間にちょっとトーンが変わりませんか？例えば「暴力とは？」と身体的な暴力なら人

に話せるけれど、性が付いて性暴力になるとなんとなく「言うてはいけない…」というニュアンスになり、聞く人もハードルが上がる特別感のような感覚はありませんか？特に、日本は、性的な事を学校でも教えませんし、夫婦や友達という近い間柄でも性的な話はなかなかしませんよね？性を話してはいけない事、恥ずかしい事だという社会の暗黙のプレッシャーが性と暴力を結び付け相手をコントロールする手段にしている。例えば、いじめでも殴ったり蹴ったり、給食のパンをとったりなどもダメージは大きいんですが、みんなの前でスカートをめくられたりズボンをおろされたりするものすごくダメージが大きいですよ。いじめも笑いながらされると嫌がってないよう見えたりしますが、性を使う事で正面から取り上げると駄目な事、恥ずかしい事になる。学校や職場での下ネタも同様で、そんな話は聞きたくもないので真顔で反応すると「いやいや、本気にして～」と相手が一段上に立ち、本気で嫌がっている人を下に見るといったように、日本には性をまともにとる事を揶揄するような雰囲気があると思います。

また、相手をコントロールする鞭としてではなく餌として性を使う事もあります。例えばDVで殴ったり蹴ったりという激しい身体暴力の後に「ごめんなさい」と謝って「別れ



ないでくれ」とすごく情熱的なセックスをする。こういった「暴力→爆発→優しい→小さい爆発→大爆発」という DV のサイクルがあり、殴り続けられるだけなら別れられるんですが、間に「君だけだ」という優しい行為があり、「この人にも良いところがある」「離れたら私も駄目になってしまう」と思わせる館としてセックスが使われる事もあります。

DV の夫婦やカップルで女性が妊娠してしまった時に、首を絞めたり殴ったりはしなくても、その前後に言葉や身体暴力があってセックスをするのは、例え無理やりでなかったとしてもコントロールされている行為なので決して対等な関係ではありません。でも外から見ていると「そんなにいちゃいちゃして仲良いんですよ。DV って言っても結局は共依存だね」などと言われ、セックスが免罪符として使われる事もあります。つまり、暴力と言ってもボカスカ殴るだけではなく、相手をコントロールする手段として性が使われる事を知って頂きたいと思います。

#### ■性犯罪・性暴力一性犯罪とは？

性犯罪は平成 29 年に 110 年ぶりに刑法が改正され、それまでは「強姦罪」という罪名で被害者は女性とされていましたが、肛門性交や口腔性交も性交として扱われ被害者が男性という事もあるようになりました。罪名も強制性交等罪（刑法 177 条）と変わり、それまでは 3 年以上の有期懲役だったものが 5 年以上になりました。罪が重くなったと言われますが、ようやく物を盗る強盗と同程度です。

[強制性交等罪（刑法 177 条）]

- ・13 歳以上の者に対し、暴行または脅

迫を用いて性交、肛門性交、又は口腔性交をした者は 5 年以上の有期懲役に処する。

- ・13 歳未満の者に対し、性交等をした者も同様とする。

この「暴行または脅迫を用いて」がポイントで、産婦人科医の私の所に連れて来られた被害者が「暴行または脅迫された事」を立証しなければなりません。「自分はそんなふうには思っていなかった」というふんわりとした証拠ではなく、例えば傷や抵抗した痕など無理やりされた事を被害者が身体で立証しなければならない事がすごくきついです。先ほども言いましたが、身体的な暴力がなくても「NO!」と言えない状況でセックスに及べた場合は暴行や脅迫がない事もあります。「君、この仕事欲しいんでしょう?」と言われるなど応じざるを得ない状況で行われた行為は脅迫と言えは脅迫なんです、立証はなかなか難しいです。

また、強制わいせつ（刑法 176 条）では「わいせつ行為をしたものは 6 月以上 10 年以下の懲役」とされ、強姦罪ではなく強制性交等罪の中に監護者強制性交等罪があります。先日、名古屋の事件で無罪が一転有罪になっていましたが、加害者が保護者や保護者にあたる監護者だった場合、暴行や脅迫がなくても



「学費を払わないぞ」「この家にいられなくなったらどうするんだ?」と言うだけで、「無理やり」と言えるように刑法が改正され、非親告罪化して告訴しなくても取り扱ってくれるようになりました。法律上の性犯罪は性暴力という大きな括りの中のほんの一部で、迷惑防止条例や児童福祉法などからも漏れてしまい、広い意味での性暴力の中で法律上犯罪として取り扱われるものはほんの一握りしかありません。加えて警察に届けられない人もたくさんいるため、実際に逮捕・起訴される加害者はさらに少なくなっています。

### ■相談を阻む高く厚い壁

なぜ、相談できないのか。令和2年6月から「性犯罪・性暴力対策の強化のための関係府省会議」が始まりました。性犯罪・性暴力への対応は非常に縦割りで、例えば性犯罪は法律、司法、警察になりますが、元々は内閣府男女共同参画局の管轄でDVや児童福祉も同様です。一方、苦痛や妊娠など身体に関わる事は厚生労働省、セクハラも厚生労働省、学校の性教育は文科省と一つの省がまとめてできないため、令和2～4年の3年間を集中強化期間として性犯罪・性暴力に対して実効性の高いシステムをつくらうとしています。

### 《性犯罪・性暴力の特性 (1)》

性犯罪・性暴力は、被害者の人としての尊厳を傷つけ、心身に深刻な影響を与え、その後の生活にも甚大な影響を与えることが多いこと。レイプ被害者の半数程度がPTSDの症状を抱えるとも言われており、日常生活に深刻な影響を及ぼすこと。

地震や津波、台風などの自然災害のPTSD発症率は5～10%とされているので、半数程度という数字の高さがいかに日常生活に深刻な影響を及ぼしているかがお分かり頂けると思います。

このように性暴力が人生に多大且つ深刻な影響を及ぼす事を実際の患者さんを目の当たりにして知りました。

皆さんは性暴力の被害者を「サバイバー(survivor)」と呼ぶ事をご存知ですか? 「サバイブ(survive)」は英語で「生き残る、生き延びる」という意味ですが、PTSDの発症率が5割と高く、あまりにも苦しくて自殺率も高い被害者の中で生き延びる事ができた人々をサバイバーと呼んでいます。実際にサバイブできない人もいます。訳です。

### ■性犯罪・性暴力の二次被害

#### 《性犯罪・性暴力の特性 (2)》

被害者が勇気を出して相談しても二次的被害が生じ、被害を誰にも話さなくなり、社会が被害の深刻さに気付かず、無知、誤解、偏見がそのまま温存されるといった悪循環に陥っている場合があること。

被害者は結構相談しています。女性も男性



も子どもたちも相談はしていますが、例えば「友達の話なんだけれど…」と最初に話した相手に「えー、そんな事!!」といった反応をされてしまうと「うそうそ!」と言って取り消し、その先の相談にはなかなか繋がりません。

二次被害とは相談相手から逆に責められたり傷つけられたりする事で、相手は行政、警察、病院関係者の他に家族、友人、学校の先生だったりします。一次被害ももちろん大変な事ですが、加害者は見知らぬ人だったり裏切った人だったりします。でも、「この人は」と信頼して相談した相手から責められたり傷つけられたりする二次被害が、しかも何度も重なると「もう、いいや…」となり、無力感、孤立感を感じる。「結局、話をしても何も変わらない」「こんな目に遭うのは自分だけだ…」と、これこそが性暴力の本当に辛く厳しいところです。地震や津波、台風などの災害も本当に大変な事ですが、人に話せたりしますよね。でも、性暴力はなかなか人に言えない。言っただけいけないという社会のプレッシャーが二次被害を生み、その後の無力感、孤立感がPTSDの高い発症率と深く関わっています。

先日、土山先生とお話をされていて驚いたんですが、『あさいち (NHK)』という情報番組の「性行為の同意があったと思われても仕方がない」というネットクラブアンケートの複数回答が以下でした。

- ・ 2人きりで食事 11%
- ・ 2人きりで飲酒 27%
- ・ 2人きりで車に乗る 25%
- ・ 露出の多い服装 23%
- ・ 泥酔している 35%

(NHK『あさいち』2020年10月19日放送)

車に乗ったら性行為OKってざわつきませんか？ ないですよ、そんな事。性行為の同意のために露出の多い服を着ている訳ではありませんし、「泥酔している」も35%という高い数字になっています。こちらにいらっしゃる皆さんは良識のある方々なので、このような「性行為の同意があったと思われても仕方がない」という問いに「はい」とは答えないと思いますが、例えば、自分の友達が「こんな事になるとは思っていなかったけれど、車で2人きりになった途端に相手が襲ってきて…」と言うと、「なんでそんな人の車に1人で乗ったの!？」と思ってしまう。それは仕方がない事で、性暴力が私たちに与える衝撃が「なぜ!？」と思わせてしまうんです。2人でお酒を飲む、2人で車に乗る＝性行為の同意とは思わないけれど、実際に起こると「どうして…!？」「あんな事がなければ…」と思ってしまう。こういった事こそが、性暴力が被害者はもちろん周りの人や私たちに与える暴力なんです。

続いて「レイプにまつわる、間違った思い込み」です。

1. 若い女性が暗い夜で道見知らぬ男性に襲われる
2. 女性の服装や言動が犯人を挑発する
3. 犯人は性欲のために衝動的に加害す



る

#### 4. 本当に嫌なら最後まで抵抗できるはず

1. には悪い事が2つあります。若い女性が暗い夜道で見知らぬ男に襲われた時に「なぜ暗い夜道を1人で歩いたの?」と若い被害者である若い女性が責められる。もう一つはもし被害者が若い女性でなく、男性や子ども、年配の女性だったら「本当にレイプ?」と思ってしまう。また、場所が暗い夜道ではなく明るい教室や職場、病院だったら。被害にあった事実を「勘違いじゃないの?」と周囲がなかなか信用してくれない事もあります。実際に若い女性でなく最近耳にするのが、認知症のおばあさんが施設で被害に遭っている事です。認知症なので「誰が」「いつ」をきちんと伝えられない事を逆手に施設職員が性行為をしていて、被害者のおばあさんがあまりにも暴れるので不審に思った家族がカメラを付けて事件が発覚したと。実際にこういった事があり、例えパーツパーツが違ったとしても結局は同じことを示しているのですが、被害者が責められる事がレイプにまつわる最悪の間違った思い込みの一つです。3. も加害者は至って普通の人でこの相手(被害者)なら自分の言う事をきくだろう、逆らわないだろう、他の人に言わないだろうと計画的に狙う。だから、子どもや障がい者が狙われるんです。4. も被害者は頑張って知恵を働かせ何とかして逃げようとしませんが、仕事なくなる、殺されるといった事態が回避できるなら…と甘んじて抵抗をやめる事もあります。

こういった悪しき現実の根底にはジェンダーバイアスと言われる、女性と男性への偏見があります。女性も男性も性被害に遭いま

すが、女性も男性も遭うという言い方は公平ではなく圧倒的に女性が多い。しかし、男性が被害に遭うとなかなか言い出せない。このようなバイアスがあるため男性への性暴力は明るみに出ませんし、根本的な解決が難しいんです。

#### ■相談者と相談の実情

##### 《性犯罪・性暴力の特性(3)》

加害者の7-8割が顔見知りであるとの調査結果もあり、特に子供は親、祖父母やきょうだい等の親族や、教師・コーチ、施設職員等、自分の生活を支えている人や友好的だと思っている人からの被害を受けることや、被害が継続することも多い。

こちらは私たちの支援センターの来所相談件数、年齢等の資料で、2019年度はのべ60件、実人数は34人で女性27人・男性1人でした。レイプ・強制わいせつ17人、性虐待は疑いも含めて7人、DVが3人、その他が2人となっていて、相談実数34人の67.8%にあたる医療支援を受けた19人の中で72時間以内の相談は3人でした。皆さん、72時間がどういった時間かご存知ですか? これは緊急避妊ピルが有効な時間で証拠採



取もできるんですが、急性期（被害直後）に来られた方はわずか3人でした。日にちが経ってもSTD検査（性感染症検査）の検査に来られた方は15人で、昨年人工妊娠中絶はありませんでした。DVに遭って妊娠したという方や、こちらも昨年はありませんでしたが、レイプドラッグと言って飲み物に薬を入れられ意識をなくしている間に性行為に及ばれその後妊娠してしまったという方もいらっしゃいました。

警察への通報は結構多く、20人が届けを出しています。ただ、その後加害者が起訴された等の件数がそんなに多くないのは、加害者が見知らぬ人の場合が少なく、知り合いや以前付き合っていた人、職場の上司だったことから、暴行・脅迫がなければ性犯罪として取り扱ってもらえない事が多いからです。また、加害者が親や親族の場合、例えば父親が娘に性虐待をしている時に非加害親（母親）が被害届けを出さない事もあり、届けを出したとしても警察が継続的に取り扱っている事はそう多くはありません。

次に来所時年齢の資料をご覧ください。10歳以下（15%）はほとんど性虐待で、11～15歳（41%）の小学校高学年から中学生が一番多いのは、初潮が始まり性教育を受けたり好きな人ができたりして自分が受けていた行為（性虐待）の意味が分かるからです。「あ…、こういう事だったのか…」と。さらにスマホの存在ですごく低年齢化し事件にもなっていますが、知らない人と出会い性虐待や性被害を受けるのもこの年齢です。もう少し上の年代でもありますが、18歳未満が全体の66%、15歳以下が55%と子どもの被害が多くなっています。

## ■性的虐待の実態

### [性的虐待の5段階]

1. 密約
2. 性的触れ合い
3. 秘匿の強要
4. 虐待被害の開示
  - ・偶発的
  - ・意図的
5. 抑圧

日本では性的虐待の加害者として「保護者や保護者にあたる人」という定義がありますが、保育士や学校の先生、コーチなどが保護者ではないけれど長年に渡り加害者になっている事もあります。5段階の1. ですが、性的虐待は相手を好きという事から始まるので、寂しさを感じているような子どもを狙い「自分だけ特別扱いしてくれる」と思わせ、年齢に見合わない性的な触れ合いをする。例えば小学生にキスをする、お風呂に入って身体を洗う、それも普通に洗うのではなく性器を洗ったりします。しかも「普通の家庭では誰でもやっている事だ」と言いくるめて年齢に見合わない性的な触れ合いをし、年齢が上がる毎に徐々にエスカレートしていく。そして3. の「2人だけの秘密だよ」「お母さんに言ったら家族が崩壊するぞ」と秘密を強要します。しかし、その秘密が性感染症にかかったり第三者が行為を見るなどして偶発的に分かったり、被害者が学校や養護の先生、友達に言ったりして最終的にばれるんですが、ばれた途端に加害者が「こいつは嘘つきだ!」「こいつは淫乱でこいつが求めてきたんだ!」などと言う事もあります。

このように、性的虐待は非常に近しかったり最初は好きだった事から始まり、長

期に渡り段階的にエスカレートして進行していくのが特徴です。性的虐待を受けたお子さんを「産婦人科の医師として診察してください」と言われると、小学生低学年でまだ月経も始まっていないお子さんであれば気付ける事もありますが、高校生くらいになると診察しても分からない事が多いです。一緒に来た警察官から「処女膜は破れていませんか?」といった事をよく聞かれますが、最初は陰に指や器具などを挿入してだんだんと広げ、最終的に陰茎が挿入されるので傷にならない為分からないんです。このように傷痕がなかったとしても被害がある事を皆さんに知っておいて頂きたいと思います。

診察に来た子どもが「自分の身体はおかしい」「他の子と違う」「自分の身体は変だから結婚はできないし赤ちゃんも産めない」と思い込んでいたりして、性的虐待の証拠は見つからなかったとしても「あなたの身体は他の子と同じだよ。傷はないし、ちゃんと結婚もできるし赤ちゃんも産めるよ」と話すと、顔がぱあっと明るくなって良かったと安心する事があります。

### ■潜在化しやすい被害者

#### 《性犯罪・性暴力の特性(4)》

- ・障がい者が被害を受けることが多い一方で、被害が潜在化しやすい。
- ・男性やセクシュアルマイノリティが被害にあった場合、被害を申告しにくい状況がある。

障がい者はいろいろな人のお世話になる事が多く身体を触られる事も多いため、自分の身体と相手の身体の境界線が揺らぐ事があります。また、知的障がいのある方は自分

がされた事の意味が分からず、相手は普段優しくしてくれる人で身体も気持ち良くなるので嫌な事ではないととらえ、性暴力だけでなく性暴力と認識できなかったり、被害を記憶したり整理したりできないので被害が潜在化しやすいです。また、性暴力支援センターは電話相談なので聴覚に障がいのある方の相談が難しいということもあり、これは私たちの反省点でもあります。

また、男性やセクシュアルマイノリティ(LGBT)の方が被害に遭った場合、どこに相談すれば良いのか分からないという事があります。支援センターへの相談で、女性が被害者の場合はご家族や友達、学校の先生からの電話が多いんですが、男性の場合はほぼ100%ご本人です。しかも直近の被害ではなく何年、何十年前の被害の話をされる事が多くあり、それ程男性は被害を口にしにくいんだと思います。

性暴力は災害に匹敵するようなPTSDをもたらし、心の衝撃はもちろん妊娠や性感染症といった身体へのダメージもあります。そして、私が一番大きいと思っている事が、「信頼感の喪失」です。この人は大丈夫という人への信頼、この道は安全、学校だったら大丈夫といった場所への信頼、そして何よりも辛く厳しいのが自分自信への信頼を失う事です。心では嫌だと思っても身体が反応してしまう。男性の場合、気持ちは嫌でも身体が反応して勃起して射精してしまうなど、心と身体がバラバラになるような経験をします。女性もそういった性行為は嫌だと思っても感じてしまう事があると、身体への信頼感がなくなるような非常に大きなダメージを受けます。

さらに、性暴力は話を聞く私たち支援者にも深刻なダメージを与えます。お話を聴いて

くださっている皆さんも胸がざわざわしていませんか？ 聴いていて気持ちの良いお話ではありませんし、ショックやダメージはあって当然です。でも、衝撃を衝撃として認めないがために「そんなはずはない」「こんな事は誰にでもある」「そんな話はよく聞くよね」と物事を矮小化してしまったり、「勘違いだったんじゃないの?」と思ってしまったり、考え方になったりすることが被害者の二次被害を招く。でも、こんなに衝撃を与える事だと知っていれば、自分一人で解決しようとは思いませんし、一人ではなくチームで対策を立てようと考えます。それをサポートするのが「ワンストップ支援センター」です。

#### ■「ワンストップ支援センター」の必要性

性暴力の被害者が二次被害を受けず、法律、医学、心理学などの知識をもった専門家による社会的支援を1ヶ所で受ける事で回復できる、これが「ワンストップ支援センター」です。これまで性感染症の検査は病院、加害者の処罰を求めるなら警察、カウンセリングは別、福祉もまた別と、自身に起こった事をそれぞれの機関で一から説明させられ、その都度二次被害を受ける事がありました。しかし、現在は各都道府県に少なくとも1ヶ所はワンストップ支援センターができ、たらい回しされず1ヶ所で対応できる形的に一応はなっています。京都府には「京都SARA」、大阪府には「大阪SACHIKO」があり、兵庫県には私たちの病院拠点型「NPO法人 性暴力被害者支援センター・ひょうご」と相談センター連携型で「公益社団法人 ひょうご被害者支援センター」内の「ひょうご性被害ケアセンター『よりそい』」の2ヶ所があります。兵庫以外にも2ヶ所以上ある所があります

が、大抵は1ヶ所で頑張っています。

私たちNPO法人 性暴力被害者支援センター・ひょうごと、ひょうご性被害ケアセンター「よりそい」は名称がよく似ていて私でも時々嘔んでしまうんですが、結構皆さんも間違っって捉えてらっしゃいます。相談センター連携型の「よりそい」は兵庫県から委託を受け資金をもらっていて、「兵庫県／ワンストップ支援センター」で検索するとこちらが出てきます。私たちは名前が出て来ないただのNPOで、そこが悩みどころであり、後ほど皆さんにご意見やアドバイスを頂きたいところです。

これまで私たちは当事者が必要とする支援をしてきました。まず被害を受けてすぐの急性期は「身体を診てください」「加害者を捕まえてください」「安全に対応して欲しい」と医療や警察での対応が必要です。少し時間が経つと話ができるようになり、カウンセリングや仕事に行けないのであれば生活再建や福祉、子どもならこども家庭センターや児童相談所に行く、そして法律相談などの支援が必要になります。被害直後は法律相談をしよう、カウンセリングを受けようとはなれませんが、少し時間が経てばそういった事ができるようになります。さらに被害を受けた方が集える場所、安全に自分の被害が話せる自助グループや本日のように被害を受けていない人への情報発信といった支援すべてがパッケージで必要です。被害に遭った直後から話せる人もいますが、カウンセリングや病院で医療を受ける中で昔受けた被害をやっと話せるようになる人もいますので、どこからでもすべてパッケージで提供できるサポートを可能にしたのがワンストップ支援センターです。

資料にイメージの図形がありますが、真ん

中にある病院に来れば警察にも繋がり、いろいろな所で一から話をしなくても必要な機関が紹介できます。私たちのワンストップ支援センターは病院内にあり、支援員(アドボケーター)が常駐していて被害者ご本人が電話をしてくる事もありますし、警察や児童相談所が被害者を連れて来る事や学校や他の病院から相談される事もあります。

お配りした黄色のリーフレットは私たちが作成したもので、「ヒョウが5匹=ひょうご」がマスコットです。まずはお話をお聞きして必要があれば診察をして、そこからカウンセリングに繋がり、連携しているフェミニスト・カウンセリング(女性のためのカウンセリング)が3回無料になるチケットも発行しています。また、法律相談の面では犯罪被害者支援委員会(兵庫県の弁護士団体)とも連携していて付き添いもできますし、サポートグループ、自助グループのご紹介もできます。本当は場所的にも1ヶ所(センター内)でカウンセリングも法律相談もできれば良いのですが、院内にすべてを取り揃えるのは難しいので繋ぐ形でワンストップ化しています。

[急性期に産婦人科でできること]

1. 傷の手当
2. 告訴する場合の証拠採取
3. 妊娠の予防(緊急避妊ピルの処方)
4. 性感染症の検査

私たちの強みは病院内にセンターがある事で、妊娠の予防以外は子どもや男性にも当てはまりますし、兵庫県立尼崎総合医療センターは780床を有する総合病院なので子どもや男性など年齢、性別を問わず対応できます。

なぜ急性期の対応が必要なのかというと、証拠を採取できるゴールデンタイムは7時間と言われ12時間を過ぎると証拠採取は難しくなりますが、72時間以内に緊急避妊ピルを1錠飲めば84%妊娠を防ぐ事ができます。現在緊急避妊ピルはオンライン診療も始まっていますが、なかなか普及していないので基本的には病院に行かなければならず、被害直後に病院で対応する事でより早くより良い支援に繋がるメリットがあります。

また、私たちの支援センターには「サポートバック」というシステムがあり、例えば小学生や中学生のお子さんはなかなか病院に来られませんし、緊急避妊ピルを買うお金もありません。ちなみに皆さんは緊急避妊ピル1錠の価格をご存知ですか? 少し安くなりましたが1錠12,000円もして、病院だと初診料や処方箋料もかかるので15,000~20,000円も必要です。小・中学生にそんな金額は払えないので金銭的なサポートも含めたサポートバックをつくっています。都道府県や行政がバックアップしているワンストップ支援センターは緊急避妊ピルの代金や性感染症の費用が出る事を売りにはしていますが、私たちはそういったバックアップがないので寄付を募ってお金がない人もサポートできるようにしています。



### ■様々なワンストップ支援センターの特徴

政策学部の皆さんに近い視点からワンストップ支援センターの特徴についてお話します。

少し前になりますが、JST（国立研究開発法人 科学技術振興機構）の社会技術研究開発センター「RISTEX」から助成金を頂き、全国のワンストップ支援センター22ヶ所（病院拠点型9ヶ所、相談センター連携型13ヶ所）にインタビューに行きました。現在は47都道府県すべてにワンストップ支援センターがありますが、私たちのセンターは全国でも5、6番目の設立で先進的な取り組みをしてきた団体です。資料の日本地図にある赤印が病院拠点型で黒印が相談センター連携型のワンストップ支援センターで、病院拠点型は院内に相談センター型は犯罪被害者支援センター内にある「犯罪だけではなく性犯罪もやりましょう」といった所が多く、また男女共同参画センターがやっている所もあり、もともとが行政主導ですね。病院拠点型は全国に11ヶ所あり、設立主体は地方公共団体4ヶ所、民間団体4ヶ所、医療機関3ヶ所で日赤など病院がやっている所もあります。病院拠点型の特徴は、例えばソーシャルワーカーなど医療スタッフやSANE（セイン）と言われる看護師が相談員を兼任している所もあります。被害直後の婦人科医療が一番の強みで、カウンセリングや法律相談は紹介するケースが多く、課題はソーシャルワーカーや看護師が病院を出て裁判の傍聴に行くといったサポートが難しく、アウトリーチにくい点が挙げられます。

一方の相談センター連携型は全国で39ヶ所と多く、おそらくですが既存する施設を利用しようとした行政（都道府県）がもう1台

電話を置いて性暴力のワンストップ支援センターを兼任するというイメージです。支援内容として診療は協力病院の受診に付き添う形ですが、実際の医療受診は0～1件とほとんどありません。カウンセリングや法律相談は従来の犯罪被害者支援センターの枠組みや弁護士さんを流用していて、聞いている話による課題は被害直後の相談が少なく5年、10年と経った相談がほとんどだという点です。

ところで皆さんは「母子生活支援施設」をご存知ですか？DVや虐待、精神的疾患などで生活が困難になったお母さんと子どもと一緒に生活できるようサポートをする施設で、ワンストップ支援センターとすごく内容が似ています。24時間対応や福祉や医療など多様な専門家の必要性、公的施設と民間団体が入り乱れているという点が似ていて、この母子生活支援施設と数字をリンクさせたものが「結果2」の資料です。インタビューに行った全国の施設の都道府県面積が広い所、例えば北海道と狭い所、母子生活支援施設が多い所と少ない所で分析してみると、東京都は生活支援施設が37ヶ所もあり福井県は1ヶ所しかないなど、都道府県によってかなりの格差があります。表の赤字が病院拠点型ですが、東京のように人口が多く面積が狭くてもきちんと施設が揃っている所は件数



も多く電車で1時間以内に移動できるのが大きな特徴です。しかし、例えば佐賀県や福井県、鳥取県は病院が片手で数える程しかなく、被害者とスタッフが知り合いだったりして被害が言いにくいんですね。兵庫県も阪神地域や神戸に病院はたくさんありますが、但馬や丹波だと2つしかない。しかも緊急避妊ピルも置いていないとなると、行っても薬はないし看護師は知り合いでプライバシーが守られないため、隣の京都や鳥取に行く事もあるそうです。県面積の広い青森県などは病院まで3時間を要し、雪が降るともっと大変で車がないと行けません。しかも自宅近くに見知らぬ車が止まっていると「何の車?」とご近所で噂になるなど、被害が言えないとインタビューでお聞きしました。

「地域格差」と一括りにしていますが、京都府も京都市内と日本海側では格差がありますし、兵庫県も人口が多い所と郡部で格差があり、病院拠点型が一番良いかと言うと「そうなのかな…」とこの調査で考えました。しかし、犯罪被害者支援センターなどがベースになっている相談センター連携型は急性期の医療支援がなく被害から時間が経過した相談が多いんですが、協力病院の確保が必須です。病院拠点型は例えば県面積が広い兵庫県の尼崎市に1ヶ所あっても丹波や但馬から特急こうのとりで2時間半となると利用者の負担が大きく、医療機関が限られている地域では受診するだけでもためらいがある事が分かりました。

お伝えしているように、性暴力被害の特性として相談へのハードルが非常に高いため、この心理的な障壁を取り除くには、コロナ禍で一挙に広がったオンライン相談や匿名での診察が必要です。ただ、カルテに「田口奈緒 性被害に遭った」と書かれ、電子カルテ

の場合は誰が見るか分からないといった不安もあるので、公費負担での匿名診察といった工夫が必要だとインタビューを通して思いました。

## ■バーチャル・ワンストップ支援センターとは？

そこで私たちは、「バーチャル・ワンストップ支援センター」を考えました。開設の時期が前後しますが、お手元のチラシにあるように「兵庫県／性被害」と検索すると「バーチャル・ワンストップ支援センター」が出ます。このサポートのコンセプトは「広い県内の1ヶ所にある病院や相談窓口ですべてはカバーできなくてもクラウド上ならできる」で、心理的なハードルが高い性暴力の相談は、「顔は見えない、でも話してみようかな」「誰かと繋がれるかな」というメールなどSNSのツールが良いのではという発想からです。

ホームページでまずは支援を受けたい地域、例えば住んでいる地域や職場に近い所、或いはまったく違う地域をチェックします。続いて被害直後なのか時間が経過しているのかで支援が異なる経過時間をチェックし、性犯罪、DV、性虐待といった被害内容を、さらに「仕事がない」「カウンセリングが受けない」「加害者を逮捕して欲しい」など困っている事や必要なサポートを入力すると支援機関のリストが出ます。このシステムは皆さんもご存知の旅行サイトの「露天風呂付き」「駅から近い」「一人で泊まる」といった検索項目をヒントにつくりました。「兵庫県／神戸市内／病院」とチェックすると診察してくれる病院のリストが出ますし、性感染症の検査を受けたいのか、緊急避妊ピルが欲しいのかといった事をチェックすると「性暴

力被害者支援センター・ひょうご」「兵庫県立尼崎総合医療センター」と出て、ホームページや相談先の電話番号が出ます。たくさんの情報を入れ込むと更新が大変なので、電話帳のタウンページのように必要最低限の検索項目でつくりました。

### ■持続可能なNPOに向けて

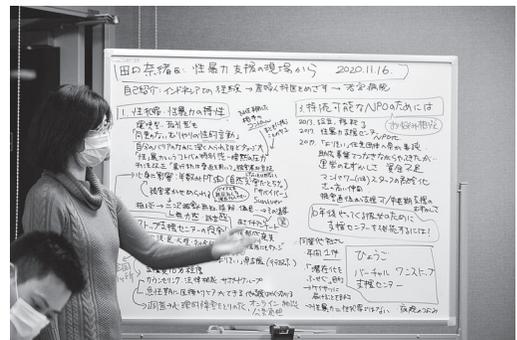
最後は私たちからの皆さんへのご相談です。NPO法人 性暴力被害者支援センター・ひょうごは、2013年に若宮病院の移転を機に12人のスタッフで神戸市西区のなでしこレディースホスピタルに開設しました。「レディースホスピタル」という名称では男性や子どもが相談に来られなかったため、その時ご縁のあった尼崎市の兵庫県立塚口病院に移転しました。当初は「性暴力被害者支援センター・こうべ」だったのですが、尼崎に移転したので「こうべ」を「ひょうご」に変え、現在は塚口病院が統合された兵庫県立尼崎総合医療センター内に開設しています。先ほどお話したバーチャル・ワンストップ支援センターは2014年の内閣府「性犯罪被害者等のための総合支援モデル事業」に応募したものです。

2017年、兵庫県にワンストップ支援センターをつくる事になり、てっきり私たちNPOにお話に来るものと思っていましたし、それまではひょうご被害者支援センターと一緒にやろうとしてきましたが、最終的にひょうご被害者支援センターだけが委託を受ける事になり同施設内にひょうご性被害ケアセンター「よりそい」ができました。ひょうご被害者支援センターは2014年にNPO法人から公益財団法人となったのですが、私たちの団体は「NPOはその辺にある」「運営

基盤が脆弱な所に県の委託はできない」と兵庫県に言われ、まだ委託を受けていない状態です。

現在は前に述べたRISTEXという大きな機関の助成事業として3年、2年、1年と何とか繋ぎながら運営的にはやりくりをしています。12人ではスタッフが足りませんが、最初は交通費も持ち出しで、現在は3時間半1,000円の謝金でやっていますが、それ以上は出せません…。被害者の方からお金は取れませんし、資金不足とマンパワー不足に喘いでいます。スタッフの年齢も私が下から2番目と高齢化の波もあり、みんな身体が弱くなってきたり親の介護が必要になってきたりと大変な事になっていますが、行政のサポートはありません。良い意味では行政の人がたまたま担当になったからやっているのではなく、やりたい人が自分の意志でやっているのですごく志が高いですし、互いを高め合える仲間と一緒にやれています。また、先ほどからお話しているように病院拠点型なので被害直後からの支援が可能で、さらに院内には児童虐待に熱心な先生もいるのでそういった連携もできている強みがあります。一方で、病院拠点型であるために被害者の方が1年、2年、5年、10年というスタンスで通う事が難しく、その負担は大きいです。

「10年後やってくる彼女」のために、私た



ち支援センターを持続可能にするにはどうすれば良いのか。私は産婦人科医ですが、私の後を継いでくれる若い人はなかなかいませんし、兵庫県でこういった事をやっている産婦人科医は私一人です。私が辞めるとそれっきりになってしまうので、後継者というか一緒に活動してくれる仲間を育てるにはどうすれば良いのか。それ以前に行政のサポートを受けて活動を継続するにはどうすれば良いのか、皆さんからご意見を頂きたいと思っています。私からのお話は以上です。ご静聴、ありがとうございました。

**土山** このような問いかけを頂きましたが、参加の皆さんからはお聞きしにくいと思いますので私からお聞きします。「よりそい」と「支援センターひょうご」と、そのアプローチはどう違うとお感じになっていませんか？「よりそい」の方針や活動に感じておられる事があると思うのですが、その辺りもお聞きしたいと思います。

**田口** まずは病院拠点型でない点です。「よりそい」の医療支援の実績は年間で0や1件なんです、そんなはずはないでしょう、と。先ほど資料をご覧頂いたように、私たちのNPOに相談に訪れた被害者で医療を必要としていた人は年間34人、のべ60件といった件数で、病院拠点だからこそ被害直後からカバーできる強みがあるんです。ワンストップ支援センターの目的は何より被害をケアし被害の潜在化を防ぐ事で、警察に届ける事ではありません。しかし、兵庫県と犯罪被害者支援センターは警察に届ける事をより重要

視しているのではないかと感じられます。警察に届けると公費が出ますし、その案件は「よりそい」の案件ではなくひょうご被害者支援センターの案件にスライドしていく。それがすごく奇妙に感じられます。先ほど資料をお見せしたように被害のすべてが性犯罪として立証できる訳ではありませんし、全員が加害者を処罰したい訳でもありません。自身に起こった理不尽な事を「それは大変だったね」と聞いてくれて、「こういう支援がありますよ」と教えて欲しいだけなんです、兵庫県と「よりそい」の「まず警察に届けるべき」というスタンスに違和感を感じています。性暴力の可視化ができなくなり、性犯罪にならないような性暴力がこぼれ落ちてしまう可能性があり、性暴力の被害者支援という本質や、そのための被害直後からのワンストップサービスの必要性をふまえたしくみになっていないように感じます。

**土山** ありがとうございました。では、参加者との意見交換では、「性暴力支援センターひょうご」が「10年度来る彼女のために」活動をつづけられる方策をテーマに考えていきたいと思っています。

(2020年11月16日)

本講演ののち、兵庫県議会での一般質問による提起などもあり、内閣府「性犯罪の性暴力被害者のためのワンストップ支援センター(一覧)」に「性暴力被害者支援センター・ひょうご」が掲載された。



2020年度（第4回）

龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム 公開講演会

## 「地域課題解決に活かす IT の発想」

NPO 法人 Code for OSAKA 理事  
エイチタス株式会社 代表取締役  
原 亮

### 原亮（はら りょう）

1974年生。法政大学法学部政治学科卒。編集者等を経て、2004年友人が仙台で起業したITスタートアップに参画、取締役等を歴任。2016年共創支援を手がけるエイチタス株式会社を設立、代表取締役。オープンイノベーションの手法となる「アイデアソン」を全国へ展開。起業創業、新規事業創発に関する事業開発支援や人材育成を各地で手掛けている。著書に「アイデアソン！」「都市は戦争できない」（共に共著）など。



**土山** 本日はNPO法人Code for OSAKA理事、エイチタス（株）代表取締役の原亮氏にお越し頂きました。2年に1度程度は「ITとまちづくり」のお話をして頂こうと思っておりますが、これまで社会にあまりインストールされていなかった基盤がいきなり強制的に設定された2020年の終わりに原氏をお招きできて大変喜んでおります。

原氏の著書『アイデアソン!』は電子書籍でも気軽に買えますので、ぜひご覧ください。原氏はアイデアソンやハッカソンというITを活用しつつ、くらしやまちづくりに活かす事を早くから手掛けておられ、昨日は仙台、明日は福島と縦横無尽に活躍しておられています。コロナ禍の中で開催させて頂いた講演会ですが、「地域課題解決に活かすITの発想」という事でお聴き頂きたいと思っております。

ご報告ですが、前回の田口氏の講演会後に一般質問をされた兵庫県議会議員の方との答弁の中で連携が少し進み、内閣府の性暴力

被害相談窓口に「NPO法人 性暴力被害者支援センター・ひょうご」の名称が掲載される事になりました。また、医療支援にも助成がつく方向で動いているという事です。

原氏には「社会人も多い大学院」とお伝えしていますが、社会人院生も学部卒院生も多様性豊かです。そこから豊かな意見交換ができるよう、田口氏の講演の際も課題共有円卓会議の方法を使い3人1組で話すインターバルを取りましたが、今回も質疑応答に入る前に3人1組で感想などを語り合ったうえで、たくさんの意見やコメントを頂きたいと思っております。一般的な大学院と比べると多種多様な学生が多い、その環境を連携協定制度などでも意識的につくってききましたが、それは地域政策の実践と理論が交錯するような場面をつくるためです。本日はニーズという視点を実践と理論に加えてお話して頂きたいと思っております。では、よろしくお願い致します。

## ■はじめに

原 皆さん、改めまして原と申します。本日はお招き頂きありがとうございます。よろしくお願ひ致します。

私は15年ほど東京と仙台の2拠点生活をしていて、本日は仙台から東京経由でこちらにお邪魔しています。土山先生とは法政大学のゼミの先輩・後輩の間柄で、そのご縁で今回お招き頂きました。当時私は先生とは別のゼミにも入っていたんですが、そこがなかなかエキセントリックな研究室で、1996年頃の社会人大学院のはしりの時期で今回のように夜にゼミをやっていました。正規の院生はわずか2人で残り約30人はほぼ「潜」りで、立法学という実践と理論で法律をつくるアクションをしていて、新聞記者や自治体職員、後に東京で初の女性首長になった元国立市長の上原氏や船田元氏の秘書など、永田町が近かったので半分活動家のような方たちと喧々囂々と議論をしていました。当時学部3年の私は最年少で、ゼミでは随分と揉まれたんですが、こちらのクラスの雰囲気にとても近いと感じています。

法政大学は神楽坂に近く、居酒屋で終電がなくなっても延々と話し続けたりして、今日もそこまでやれば良いんですが、手掛けている事業で明朝、福島県庁にいなければならないミッションがあり、終電でとんぼ返りになってしまいました。しかし、この場でできたご縁で何らかのアクションが起こせたらと思っていますし、皆さんの取り組みは近いところがあると感じたので、ぜひスタートの機会にと思っています。

もう少し自己紹介を続けさせていただきます。私は「せんだい・みやぎ NPO センター」と

いう中間支援の理事にも2年前から就いているので、皆さんの中にもお世話になっている方がいらっしゃるかと思います。肩書きがおそらく2桁はあり、自己紹介をすればするほど何をしている人かよく分からない…という話になりますが、キャリアをざっとお話すると、最初は進研ゼミの教材編集者で教育業界をかじり、ITと絡むきっかけになったのは2004年に小学校時代の友人が仙台でITベンチャーを立ち上げた事でした。最初の会社を辞めて法政大学の大学院に入り直したんですが、活動家が多いゼミで論文を書かせてもらえず、「修論なんて2週間で書けば良いんだよ。ちょろちょろっとやれよ!」と先生にも言われ、しかし活動ばかりしていると大学院には居辛くなっていたので大学院は一旦脇に置いて、友人の起業に付き合う形でIT業界に飛び込みました。

その後、友人の会社は見事に失敗、私自身は縁もゆかりもない仙台に住み続け個人事業などもやっていたんですが、この4、5年は「共創の場づくり」をお手伝いする会社としてエイチタス(株)を設立、社長職に就いています。

皆さんは「アイデアソン」という言葉をお聞きになった事がありますか? アイデア出しのワークショップみたいなものですが、私は



アイデアソンを使って地域づくりをしています。最近では地方に行くほど地域産業の元気のなさが課題化しているのです、そこに IT の要素を入れて盛り立てていきましょうと。さらに、IT のエンジニアが集まって1、2日で試作を開発する「ハッカソン」を通じて起業、創業の支援や地域づくり、人材育成などのお手伝いをしています。

### ■ 「アイデアソン」とは？

アイデアソンの「ソン」はマラソンのソンで、「アイデア出しのマラソン大会」と考えて頂ければ良いんですが、他方様々な捉え方があり、「みんなでアイデアを出しましょう」というスタイルであると同時に、「共創」という概念を意識して場をつくるワーク手法になります。いろいろな立場の方に入って頂いて、一緒に問いをつくりながら何を解消するのかを話し合ったりワークしたりします。そういう意味では対話の場でもあります、地域課題を延々と語っていても「どうするか」には繋がりません。そこでアイデア出しをゴールに設定し、未来思考とアウトプットで解決策を生み出すというポジティブなマインドを持ちながら、創造的に対話する手段だにご理解ください。

アイデアソンは様々な場で活用されていますが、その一つとして「自分たちが思い浮かばなかった新しいサービスや事業を外部の人も入れて考えてみましょう」というケースがあります。大手企業の場合もあれば東京の下町・墨田や大阪にも多い町工場や中小企業など、つくる力はあるけれどネタが思い浮かばないところに、地域の人や自社はおもしろくないので地域に貢献したいという大手のデザイナーに入って頂いたりして一緒に

プロダクトを考えます。

また、自治体がアイデアソンの場を持つケースもここ数年で随分と増えてきました。市民の参画を前提に政策形成や基盤づくりなど官民共同で地域課題について話し合い、未来思考でアイデアを出しながら一緒に実践できる事を考えましょうと、アイデアソンで解決に向けたアクションを起こすケースも出てきています。

さらに産業振興の打ち手としては後ほどお話する長崎県・南島原のケースがあります。首都圏や関西から地域でアクションを起こしたい IT エンジニアを連れて行き、二泊三日の合宿をしながら地場産業の担い手の課題を聞き出し、「解決策としてこんな IT のサービスがあると良いですね」といったアイデアを出し合い、その場で試作の開発も行う。ちなみに皆さんは南島原がどこにあるかご存知ですか？長崎県の島原半島の先端にあります。原城という城があり現在は南島原市となっていて人口は5万人弱、鉄道も走っておらず最寄り駅から役場まで20キロ以上も離れています。そこに田舎で何かやりたい IT エンジニアを大勢連れて行きアプリをつくる。キャンプ場で合宿をするんですが、アプリを開発するのに電波があまり入らない地域で、でもそういった環境で何ができるのかトライしていかなければと。ここでは結構おもしろい事が起こっていますので、後ほどお話をさせていただきます。

この他にも地域興しや異分野連携など、とにかく新しい事を起こしたい人が集まり開発までするハッカソンが様々な場所で行われています。「法社会制度ハッカソン」は後ほど触れますが、いろいろな人たちが新しい価値を創造する手段として使っている事を

頭の片隅に置いてお聴き頂ければと思います。

アイデアソンの目的は、アウトプットとなるアイデアを生み出すことです。あとは、多様性の中、みんなで一緒に問いをつくりアイデアを出し、「こんな事をやりましょう」とつくり上げていくので、いろいろな人が混ざって対話する事で関係ができ、質の高い共創が生まれます。これがアイデアソンのもうひとつの目的です。様々なテーマで、あらゆる地域で、アイデアソンを手段として使いながら場づくりや関係づくり、人材育成が行われています。

エイチタス（株）は東京が本社で仙台と高知に支社があり、高知はコワーキングスペースなどを運営して地域からの起業家育成も自主事業でやっています。こういった場で公表できるのは自治体や国といった公共の案件なので、紹介するのもそういった案件になっています。おかげさまで東北での活動も長くなり、復興庁の事業でもオープンイノベーションで共創を手掛けながら被災地の課題解決に向けてアクションを起こし、その中で起業する人のサポートなどもさせて頂いています。

国が「起業しろ！ 起業しろ！！」と騒いで何年か経っていますが、特に今年はコロナ禍の影響もありビジネスを立ち上げたい人が増えているので、地域の自治体や支援者と一緒に起業家育成のアクションも手掛けさせて頂いています。明日も福島県主催のビジネスプランコンテストの二次審査の仕事で帰らなければならない状況です。他にも大阪では NPO の方々と地域課題解決のアクションを、京都では観光をテーマにモビリティで新しいサービスをつくる近畿経済産業局でアイ

デアソンのコーディネートをさせて頂きました。大阪市の公共人材の案件では登録はしているものの最近あまり動いていませんが、プロボノ的な活動のお手伝いをさせて頂いています。

### ■シビックテック活動の結実 2020

本日のお話の前に以下の事項を事前にお伝えしていました。

【私たちの生活に深く入り込んでいる IT。既存のサービスでユーザーとして使い慣れている一方、自分たちの活動を生み出す際に、IT を活かす視点はどこまで持てているでしょうか。シビックテック（CivicTech）やガブテック（Govtech）など、地域課題解決での諸活動でも IT が当たり前になりつつある今、IT は手段として活用するだけでなく、その根っこに必要な考え方を自分たちで作り上げていくことも必要です。地域課題解決と IT の掛け合わせについて、事例も交えて、一緒に考えていきましょう。】

まず、「シビックテック」と「オープンデータ」という 2 つの単語を軸にお話を進めたいと思います。皆さんは「シビックテック」という言葉をお聞きになった事がありますか？ 今日が初めてという方は手を挙げてください、と言うとほぼ全員が手を挙げてくださるんですが、本日も同様ですね。シビックテックについては天津市の Web サイトで上手く説明されていたのでご紹介します。

【自治体や市民や企業等が協力し合って、プログラミングやオープンデータをはじめとする IT 資源等のテクノロジーを活用しなが

ら、新しいサービスを提案し、地域の課題を解決する取り組みのこと。】

つまり IT のプログラマーなどスキルを持ったエンジニアが地域の課題解決に向けてアクションを起こすプロボノ的な活動で、シビックテックが活躍した事例に「Code for JAPAN」という団体の活動があります。Code は「プログラミングに書かれたもの」で Code を地域のために活かす。私は「Code for OSAKA」という団体の理事もしていますが、「Code for ○○」と○○に地域名が入る団体が全国に溢れていて、その先駆けとなった団体の一つが Code for JAPAN で、東京都と一緒に新型コロナウイルス感染症対策のサイトをつくり、今年のグッドデザイン賞を受賞しました。

では、この事例から何を読み取らなければいけないのか。作成されたサイトでは「コロナはこれくらい広まっています」といった情報が分かりますが、シビックテックで活動している人たちが役所と一緒に、またサポートするなどして多くの地域で同様のサイトが立ち上がっています。ただ、どのサイトも一見するとほぼ同じ内容で、では東京都のサイトはどこに新しさがあったのか。審査員の講評がサイトに掲載されているので、そこからシビックテックがどういったものを理解して頂きたいと思います。

### 【東京新型コロナウイルス感染症対策サイトグッドデザイン賞審査委員の評価】

経験したことのない緊急事態において、適切な判断を行う際に最も重要なのは、正確な情報をタイムリーに入手することである。この決して容易ではないことを東京都という巨大組織が Code for JAPAN との連携によ

り、圧倒的なスピードで成し遂げた。その後も世界中から寄せられた 1,000 以上の改善要望をタイムリーに反映しつつ、オープンデータ化やソースコードの公開により様々な主体が仕組みを援用することを可能とした。シビックテックの幕開けとなる本サービスの成果を高く評価したい。

この中から 3 つのセンテンスを抜粋したいと思います。1 つ目は「Code for JAPAN との連携により、圧倒的なスピードで成し遂げた」です。東京都という大きな組織がこういったサイトで情報提供をしようとする、お役所スピードでやはり時間が掛かります。それが今回かなりスピーディにできたのはシビックテックのエンジニアが素早く手を動かしたからです。シビックテックの特徴として最初に捉えて頂きたいのが、具体的に手を動かすエンジニアは周りをごちゃごちゃ言っている間にとにかくつくってあとから直せば良いと、まずはつくるところから入ります。もちろん仕様書の作成などある程度の準備はしますが、そこで延々と議論するのではなく、まずはつくってみる事でスピードが出ます。シビックテックの特徴として、具体的なスキルを持ったつくり手が実践的にアクションを起こす事に意味があります。評論家は必要ありませんし、具体的に手を動かして



形をつくる、物をつくる、実践できる人たちの集まりだという事です。

2つ目は、「その後も世界中から寄せられた1,000以上の改善要望をタイムリーに反映しつつ」で、これはなかなか行政の仕事ではあり得ない事が起こっています。行政に限らず物をつくる時は仕様をきちんと決めその通りにつくるので、途中で「こうした方が良い」とはなかなか言い難いですが、それをきちんとプロセスに入れている点が非常に大事です。私はエンジニアではないので専門性の低いお話になりますが、「GitHub（ギットハブ）」というWebのツールをご紹介します。まず、プログラマーが「こんなのができました!」とつくったプログラムをGitHubに上げます。するとユーザーが「ここはおかしいのでこうした方が良い」と意見を投稿でき、作者は「そうか!」と直す。製作物を製作過程で公開し、意見を言い合い直してコミットしていく。サイト上でソースコードを管理して修正点を広く受け入れるやり方は、非常にIT的というかインターネット的だと思います。Code for JAPANと東京都は、これを活用し、新型コロナウイルス感染症対策サイトのソースコードをGitHubに公開しました。

すると、このサイトの多言語対応について、なんと台湾のIT担当大臣・オードリー・タン氏がGitHubに直接修正提案を投稿したんです。都がリリースをした情報発信サイトに海外の大臣が「ここはこう直した方が良い」と直接意見を投稿するなどという事はなかなかないですよ（<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2003/09/news084.html>）。これは非常におもしろい出来事で、彼は大臣の立場ではなくITスキルが高い一人のエンジニアとして意見を言っただけなんです。開

放する事でこういった声が入られ「そうか」と即応できる。つくり上げて運用してからよりもプロセスで声が上がればすぐに直すという物のつくり方が非常におもしろいんです。後ほど改めて触れますが、インターネットの世界では「オープン」という考え方があり、シビックテックの特徴としてオープンの思想に基づいて協働、共創している点が非常に魅力的です。

3つ目は、「オープンデータ化やソースコードの公開により様々な主体が仕組みを援用することを可能とした」です。東京都が多くの声を反映させてつくったものを「このプログラミングのソースコードを使って地域版をつくってみてはいかがですか?」と開放する。一定のルールの下で成果物を自由に使える方法を選択した点もシビックテック的というかインターネット的で、こういった取り組みはなかなか見る事ができないものでした。

### ■「オープン」の概念

先に「オープン」という言葉の概念、感覚を掴んで頂きたいと思います。

インターネットの世界での「オープン」の定義は「Open Definition」と検索すると出てくるように、「知識は誰もが自由に入手できる、利用できる、修正できる、共有できる」です。これができている状態をオープンと言いますが、情報の発信元が正しく明記され公共性が保たれる事もオープンの定義として必要です。この思想に基づいてオープンという言葉はITやインターネットの世界で使われ、さらにオープンソース、オープンデータといった言葉があります。オバマ元大統領の時代はオープンガバメントという言葉

も踊っていましたが、このオープンと同様とお考え下さい。

日本語のオープンとは、例えば「オープンデータ」のように「自由に見て良い＝公開＝オープン」と誤解されているケースが結構ありますが、単に公開ではなく、「自由に使い、手を加えてシェアできる」というところまでを含めてオープンです。単なる公開とは違いますし、さらに踏み込んだ意味で使われている点をご理解頂きたいと思います。

IT で何かをつくる時だけではなく日常の活動でもオープン概念を持って頂く事で、何かアクションを起こした時にどんな人にどのタイミングで絡んでもらえば良いか、さらに成果物はどのように使ってもらえるかといった発想のヒントになるのではと、ご紹介させて頂きました。

### ■草の根で広げるシビックテック

東京都と Code for JAPAN の例は IT エンジニアと自治体がタッグを組んでシビックテック的な活動をしましたが、私はさらに草の根で良いと考えています。地域の住民や当事者と一緒に課題を考え、IT エンジニアがコミットする方がよりシビックという言い方ができると。

そこで、シビックテックの事例として、まずは大阪で6年前にスタートした活動をご紹介します。大阪市の市民局の区政支援室の事業でエイチタス(株)を立ち上げる前の会社で一緒にさせて頂いたんですが、2014年に「大阪から始まるシビックテック」というプロジェクトを立ち上げました。地域の課題をテクノロジーで解決する活動で、スライドには小さいですが写真も入っています。当時は橋下徹氏が市長に就かれていて市内24区に

は公募の区長も入れ、地域住民との対話の場をたくさんつくっている区長さんも大勢いらっしゃいました。そこにお邪魔させて頂き、様々なテーマに沿って対話をしながら、「こんな課題があるよね」「ITでこんな事はできない?」「アプリをつくってみましょう」とアプリコンテストを開催したり、当時200名ほど来ていた市職員を対象に「オープンデータとはこうです」と話す場をつくったりしていました。1年間の事業でしたが、Code for JAPAN に倣って Code for OSAKA が市民運動として立ち上がり、アイデアソンやハッカソンも市内各所で開催され、今年10月にはNPO法人となり活発な活動を続けています。私は仙台や東京に居ながら理事に就きあまり現場には入っていませんが、関心を持って頂いた方は Code for OSAKA で調べて頂ければ幸いです。

次に私の地元・東京都品川区の区役所との取り組みで、Code for TOKYO の場づくりと同様に地域課題を IT で解決するワークショップ等の活動もしました。スライドの写真はワークショップの様子ですが、地域住民が地域課題を設定し、オープンデータや IT を使って「こんな事ができれば良いな」とアウトプットする。こういった場合、ワークショップをやってアンケートをとって「おもしろかったね」で終わるケースが多く、ここでも大半はそうなってしまったんですが、「ここが課題だよね」と自分たちで問いをつくる事が出来たチームは3年ほどを経た現在も活動しています。

その活動の一つが乳幼児の子育てをしている若いお母さんたちの声を反映した取り組みで、子どもを公園に連れて行く時に「○○公園は何歳の子どもなら連れて行って大

丈夫ですか?』といった疑問に応えたものです。区役所のサイトには「○○公園は××にあります」と紹介して差し支えがない名称や住所、地図程度は載っていますが、遊具はどうなっているのか、ベビーカーは入れるのかといった乳幼児を育てる親御さんなら当然気になる情報は載っていません。これをどうにかしたいと、地元の大学の経済学部の学生が毎年ゼミの活動としてオープンデータの公園情報を調べ、実際調査に行き情報収集や写真撮影をしています。今年はコロナ禍の影響でほとんど動いていませんが活動は続いていて、役所の情報に調査した情報をプラスしてアプリを使いやすいものにし続けています。こういった事がよりシビックテック的だと私は思っています。

通常役所は「○○の××公園は△△にできて遊具は□□がある」といった公園情報をきちんと持っていますが、問題は誰でも上手く使える状態でサイトやアプリに入れ込めるかです。「詳細情報を自由に使えるパブリックな状態で開放してください」となると役所はオープンデータが必要になりますが、オープンデータが地域の課題を解決するというよりも可視化するための資源としてあれば良いだけの事で、定義はいろいろありますが深入りせず見ていきたいと思えます。

### ■シビックテックとオープンデータの隆興

地域課題を可視化するための道具としてのオープンデータがありますが、先ほどの大阪市や品川区のワークショップと同様に地域の当事者を交えて解決しなければならない課題や問いを対話形式で追求する活動もあります。NPOの活動をされている方はよくお分かりになると思いますが、東京都×

Code for JAPANのように実際に手を動かせるプログラマーやつくり手がいかに素早くアクションを起こすか。「資源としてのオープンデータ×地域の当事者を交えた対話×作り手による素早い実践」、この3つの掛け算でシビックテックはより良い活動になります。要するに、自分たちの地域課題は自分たちで解決する。その中にスキルを持った人たちが入るという事です。

では、シビックテックに出てくるエンジニアを皆さんにどう見て頂くのか。「ITスキルを持った行動する市民」と捉えて頂ければ良いんですが、土山先生の指導教員でもあった松下圭一先生的な発想で言うと「市民はそれぞれが何かしらの専門性や高度なスキルを持つようになる。それは役所や官を超える専門性やスキルを持つ人がたくさん出てくるという事」です。彼らが主体となって地域の課題を解決する、もしくはまちづくりの主体になるといった現象が起こっていると理解して頂ければと。様々なスキルや専門性を持った人はどの分野にもたくさんいますが、ITに長けた人たちはシビックテックという名称で同様の活動をしています。目に見える物、動く物をつくる事ができる、非常にスピード感を持った動けるプレイヤーだとご理解下さい。

土山先生の前でこういったお話をさせて頂くのは非常に恐縮ですが、オープンデータやシビックテックが皆さんの見えるところに登場し始めた背景には、都市型社会の発展で行政サービス提供の前提が変化した事があります。その1つは情報化で、2つ目がニーズの多様化と財政問題で役所がすべて費用を負担して解決するのは無理だからです。3つ目が市民の問題解決能力の向上で、松下

先生もおっしゃっていたようにシビックテックが都市型社会の発展の中で向上し、市民が自発的に解決を目指しさらにスキルを持った市民が登場していると捉えて下さい。

役所が地域の人が使えるアプリをつくる時、通常なら入札やプロポーザルでアプリや Web サイトを開発する業者に仕事を取らせ、仕様書を渡し情報や写真などを支給してつくらせます。その際の情報はアプリをつくるためだけの情報でアプリやサイトを見れば情報は載っていますが、ここにいくつかの落とし穴があります。まずは、多くの自治体にある、つくったけれど使っているのかが疑われる「観光情報のアプリ」です。おそらく皆さんの地域にもあると思いますが、「タップすれば写真と特徴、地図が載っている」というもので、そのアプリはいったいつまで運用するのか。おそらく3年、5年もすると更新されなくなって誰も見なくなりますが、掲載情報は使えるものなのにサービスが終わってしまうために情報も見られなくなります。さらに情報をパソコンで見たい、他のアプリで見たい、紙で欲しいとバラバラなニーズにアプリ1つで対応できるのかという問題です。

今回のコロナ禍でオンライン対応ができる人、できない人が明暗を分けましたが、リテラシーも様々で特定の形のアウトプットだけでは網羅的な対応が難しいので中身のデータをオープンにする。つまり、行政の費用でつくった多くの市民が見られるアウトプットのアプリなら、市民が利用するために最低限を保証するアウトプットとしてつくれば良いんです。さらに、これまでは見せる場所が限定されていた情報を他でも利用できるオープンデータにすれば誰でも有益な情報を使って、「別のアプリにしました」「こ

の Web サービスに入れました」「紙で持ち帰れるようにしました」と自由にアウトプットをつくれます。そうなれば最後のアウトプットまで責任を持たなければならなかった役所の責任範囲も変わり、オープンデータのクオリティをしっかりと担保し、アウトプットは市民や民間に委ね最低限見られるものを保証する。これまでは、すべて役所の責任でアウトプットを出さねばならず、だれにも伝わらないアウトプットも乱造されてきましたが、違った観点でオープンデータを捉え「皆さん自由に使ってください」と開放する。情報公開というと「見せる！」と言う要望に応えるケースが多かったと思いますが、多少加工してもオープンデータの定義に沿っていれば自由に使って良いですし、何なら商売をしても良いので、これまでの情報公開とはイメージを変えた方が良い事になります。

こういった場合の行政のリソースはデータの精度保証と最低限の最終アウトプットですが、後者については、市民や民間がきちんとできるならやらなくて良くなります。あとは皆さんがデータを上手に利活用できるかで、そこは使い方のリテラシー向上が必要で利活用の土壌づくりや、必要なものは自分たちでつくる担い手を増やす場づくりを行政が手掛けてくれれば良い事で、役所はコーディネーター的な役割になっていくと思います。細部まで責任をもたなければならないところから自由になる。人材も資金も少なくなっていく中、こういったスタイルに切り替えていかなければ仕事ができなくなっていきます。自治体では地域課題が先鋭化していてその特性を反映した政策が必要です。だから独自の計画やシビックテックをつくらなければならなりません、ニーズが多様化している上に慢性的な財政難で課題解決能力も

民間業者や市民と比べると相対的に劣化しています。そして何よりもまったく変化しない縦割りによるパフォーマンス低下で責任をすべて抱え込むのは無理だという点を前提にしなければなりません。

一方、市民はあらゆる利害の当事者で生活の大半が政策・制度に左右されているので、自分たちで課題や問いをつくっていかねなければなりません。また、高度な専門性を持つ人もいて行政職員を凌ぐ専門性という点でITはまさにその典型です。情報リテラシーもどんどん高度化しているので当事者でも動ける状態はできてはいるはずで、こういったところで関係性を整理する事もシビックテックやオープンデータから読み取って頂きたいと思います。

シビックテックやオープンデータは、市民と自治体との関係において、選挙に代表される決裁システムや自治に対する参加システムの在り方にも変化をもたらします。シビックテックによって便利なアプリをつくれる人たちが現れて嬉しいだけでなく、例えばアプリをつくる時も課題を深掘りし、きちんと問いをつくる事でスムーズにできるという参画の仕組みづくりにもつながります。しかし、それだけでは追い付かず、地域や国、社会のルールも変えていかねれば課題は解決しないと気付き、自治を行う市民として行政権、立法権でどう捉えるのかという話に発展していくはずです。これが、決裁システムにもたらされる変化です。半分は予言ですが、シビックテックを本気でやるITエンジニアが増えてくると地域課題の問題意識がさらに強くなり、自身も議会にという人がきっと出てきます。既に転じた人も何人かいます。一方で、役所と一緒に何かできる事が楽しくて、その楽しさだけで止まっている人も

多いと思います。しかし、おそらくこのままでは駄目で、「ルールを変えていかなければ」という方向に繋がり、自分たちの課題を自分たちで解決する手段として、ITから法に向かう状況がこの後起こります。逆に起こらなければ何か歪んでいると捉える方が良いでしょうし、そのためにそれぞれの役割分担を改めて整理していかなければなりません。

再度松下先生の議論を引用させて頂いたお話になりますが、オープンデータとしては広報情報と政策情報を分けて考えなければなりません。広報情報はお知らせ的なものでオープンデータ活用でもよく出てきますが、広報誌に載っている情報をアプリで見たい、プリントアウトではなくオープンデータで欲しいといった話もまたよく出てきます。先ほどの例は広報情報を皆さんに広くお知らせするためのオープンデータの話でしたが、そこをもう少し広げ政策情報をオープンにしていかなければなりません。つまり、政策制度をつくる前の検討、議論の素材となる情報をオープンにする。こちらも松下先生の仕分け方で書かせて頂きますが、争点情報や基礎情報、専門情報（松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年、152-153頁）を整理して公開し、オープンデータとしてみんなで意見交換しなければ政策なんて考え



られないという話です。最近ではデータトリブ  
ンやエビデンスの重視がことさら新しく語  
られていますが、そうしなければ何も評価で  
きませんし課題の整理もできません。特定の  
人だけが見られる情報ではなく、みんなが自  
由に触れられ「この情報とこのデータを被せ  
るとこんな課題がありました」と結論付けが  
できる。アメリカでシビックテックやオー  
ペンデータの話でよく使われた例で、ある地域  
で下水道の敷設エリアと黒人が住んでいる  
エリアを重ねると、「黒人が住んでいるエリ  
アは下水道が整備されていなかった。これで  
やっと課題が見える」といった話がありま  
す。オープンデータ単体の情報では、「ふー  
ん」「知れて良かった」で終わりますが、  
様々な情報を重ねる事で見えてくる課題が  
あります。さらに、情報を重ねてマッピング  
すれば何かが見える。Web サービス「RESAS  
(リーサス)」をはじめ、私たちでも触れられ  
るものが徐々に高度になっています。行政か  
ら見てどれほどデリケートな情報まで出せ  
るかで課題の見え方が変わってきますし、当  
事者には課題とデータを合わせて見る事が  
必要です。シビックテックやオープンデー  
タについての議論がここまでなかなか進ま  
ないのは、彼らがITエンジニアで課題を解決  
するためのアプリを現場で一生懸命つくる  
事で初めて市民活動とコミットして「人の役  
に立てて嬉しい」という状態だからです。そ  
こをもっと掘り下げる事が出来ればさらに  
可能性が広がる。これは政策形成や政治学を  
学ぶ人たちが声を上げていかなければ気付  
かない問題でもあるので、シビックテックの  
活動をしている人たちとご一緒する機会が  
あれば、皆さんもぜひこういった論点がある  
事を頭に入れてアクションを起こして頂き、  
その先のあるべき姿、ありたい姿を考えて頂

ければと思います。

### ■地域課題は誰が決めるのか。 市民の関わり方を変えた事例

私が携わった大阪市と東京都品川区の場  
づくりの事例をご紹介します。

大阪市の事例は、私が失敗してしまったん  
ですが、とある区で住民が地域について語り  
合う場に市役所の職員さんと一緒にお邪魔  
したんです。当初は「健康」をテーマに地域  
課題について議論する予定だったんですが、  
平日の夜なのに健康局の職員さんもわざわざ  
来てくださって「大阪市の健康の課題は、  
政令市の中でも平均寿命が少し短く、健康に  
かかわる指標のスコアが悪く、がん検診の受  
診率が低い事です」とお話しして下さいまし  
た。すると集まっていた住民の方々が「俺は  
太く短く生きたいんだ!」「平均寿命の短さ  
とがん検診の受診率に何の関係があるんだ!」  
と怒り出し、「俺の課題ではない!」となっ  
てしまいました。たまたま介護職の方がいて  
「まあまあ」となだめて事態は収まったん  
ですが、行政の側から見た地域課題は行政が見  
た課題でしかなく、官という一つのセクター  
から見ただけで地域課題ではないんです。  
地域の人には地域の人なりの問いや課題が  
あり、行政が一方向的に「これが課題です!」  
と定義するのはおかしいと。

そこで、次に別の区で行われた会では「地  
域では健康についてこういったまちづくり  
をしています、実際動いてみていかがです  
か?」というところから引き出してみました。  
すると自分の事や仲の良い〇〇さんの  
事、介護職でケアしている××さんの事な  
ど話を聞かせて頂く事ができ、ITに詳しか  
ったりアプリを使いこなしたりしている人

でなくても「課題が解決できるアプリはできませんか?」と言い出します。つまり、自分たちで問いをつくることから入ると自ずと解決手段に議論が向かっていくんです。

この出来事の3年後、2017年の品川区での会では大阪での教訓を活かし、区役所の方には「皆さんから『課題はこれです』といった定義は一切しないで下さい。例えば“教育”や“高齢者”など緩いカテゴリーは指定しても、住民が自分たちで問いをつくるので何が出てくるかは委ねて下さい」とお願いしました。網羅性があっても無くても、その場にいる人たちに問いが見えれば良いと。すると今度は議会から質問が飛んできました。長く区議を務められたベテラン議員さんが「こういった活動は非常に素晴らしいんですが、住民の方が設定した課題と我々が議会や役所で議論して設定した課題で違うものが出てきたらどうしてくれるんですか?」と。彼らは彼らなりの視点で地域をまわり討議を拾い議会で問題にして仕事をしているので、違うものが出てくると困ってしまう。私たちが試みた手法は、大袈裟に言えば直接民主主義的なアプローチです。自分で課題や問いを見つけ出し自分たちで解決しようとするなら、役所はフラットな状態で一緒にテーブルを囲むプレイヤーとして何ができるのか、何を出せるのか。こういった問いを市民と役所がともにつくる事も、よりシビック的だと考えました。

私はよく「私」という一人称から課題を見つけましょう」と言います。地域課題は統計で見るとこう、データで見るとこう、役所が地域全体を見るところと様々な設定の仕方があります。どれも同じ課題ですが、地域の方たちと問いをつくっていく時は、各々が持つ小さな課題を出し合った結果生まれた

問い、すなわち、ひとりひとりの個人の課題の集合体が、地域課題だと。そういったプロセスで場をつくる手段が、アイデアソンなのです。

「地域住民の一人ひとりが、目の前にある小さな課題に気づき、その解決を自分事として取り組んでいく」

先ほどの大阪の例がまさにこの典型で、「課題はこうだ!」と人から言われると、頑張っ解決しようとはなりません。「だったら役所で何とかしてよ」と断絶が起きます。ところが、問いをつくることから一緒に始めると解決に向かいます。その為の手段として効率良くおもしろく使えるのがITで、問いさえ掴む事ができればITに詳しくなくても「こんな事ができれば良い」くらいは思い付きます。

#### ■ 「わたし」から始まる共創

プログラミングからは少し話がずれますが、ITやIT系の技術はかなり簡単に使えるところまで降りてきています。例えば3Dプリンターの価格はAmazonで3万円を切っていて、皆さん「へえ〜」ってなりますよね。5年前は20万円だったものが家庭用プリンターとほぼ同額で買えます。使い方が難しいのでは…と思いますが、子どもでも使えるWebツール「Tinkercad (ティンカーキャド)」などもあり、サイトを開くと様々な立体図形があってマウスで回したり削ったりすると特に難しい事をしなくても簡単に使えます。スライドの写真は私がふざけてつくったんですが、サンマを2つに切った模型をはめて耳につけると頭にサンマが生えて

いるように見えるイヤホンです。これは岩手県大船渡の方々「三陸のサンマをもっと好きになってもらおう!」とアイデアソンをやった時に、誰かの落書きからつくったもので、私は3Dのスキルはまったくありませんが、丸や三角をくっつければサンマがつけられるほど今の技術はレベルが高いんです。

するとこの後、別な場で、障害者の自助具を自分たちでつくろうといった活動が起きました。自助具とは例えば脳性麻痺で手が動き難くお箸が上手く持てないといった方などをサポートするための道具で、今までは作業療法士やリハビリの専門職の方が100均で買って来た材料などでつくっていたんですね。これを3Dプリンターでやってしまおうと、最近のちょっとしたムーブメントになりつつあります。スライドのスプーンのような器具は、片手しか動かない人がホットケーキを片手で上手に返せるヘラが欲しいと、紙とペンでスケッチを描いて3Dプリンターでつくったものです。後日みんなで集まりお好み焼を焼いて、「これは持ち辛い」「ひっくり返しにくい」「じゃあ形を変えてみよう」と握りの部分をアレンジしてつくり変え、最良の形にしていきました。100均の材料だと作ったものをまた分解してどうのこうのと大変ですが、3Dプリンターなら必要に応じて何個でもつくれますし、データの加工や変更もしやすいので先ほどのオープンデータの発想に繋がります。このデータを誰でも触れる状態で開放すれば、個々にアレンジしたり症状が違う人は自分に合った形につくり直したり簡単にカスタマイズできる。3Dプリンターなら再現性もあり世界中で共有できすぐに改良できるなど利点がたくさんあります。

この活動で一番頑張っているのが作業療

法士の林園子さん(一般社団法人ICTリハビリテーション研究会代表)です。彼女は英語ができるので「こんなデータがありますよ」と英語で情報を発信したところ、東南アジアやヨーロッパなど海外のリハビリの専門職や作業療法士の方から問い合わせがきて、いつの間にか世界中の人たちとアクションを起こすほどになっています。

私たちは3年前にITCリハビリテーション研究会という団体を立ち上げ、一昨年に一般社団法人化しました。私の地元の品川区に拠点を置けていますが、スライドの写真に写っているのが林さんで、彼女が3Dプリンターを使っていろいろな事ができるようになりハマった結果、現在自宅に6台もの3Dプリンターがあります。「ハマるにもほどがある」とみんなで言っていますが、自助具をどんどんつくって発信し全国や海外から「私もこんな事をやっています」と一気に繋がりができています。もともとは地元の子どもたちや障害者の方と一緒にプログラミングをして表現する活動を始めたんですが、「何をやっているの?」と大人たちが集まりだしました。東京という利点もあると思いますが、様々なスキルや専門性を持った人がご近所で揃い、だったらもっと本格的な活動にしようという別の団体ができたり、ICTリハの研究会をやったり多彩な活動に繋がりました。林さんが「こんな事をやってみたい」「私はこんな特技を持っている」と走り出した事で周囲がおもしろがって集まって話したり活動したり、「俺たちのやっている事はこうだ」とコンセプトが生まれ、その人たちのアジェンダが出てくる。政治家の関心も高く、「話を聞かせて」と来訪してくる事もありました。

また、作業療法士の資格をお持ちの群馬の

衆議院議員・堀越さんの事務所にも行かせて頂いて、「こういったムーブメントを起こしたいのですが、医療の世界ではお医者さんがトップでセラピストのポジションは結構下でなかなか自由が利かないので何とかしませんか」といったお話をしてきました。この取り組みは1年目で一気に活動が広がり、2021年にはオンラインで自助具開発のイベントを開催する予定です。イスラエルのTOMという団体が「TOMメイカソン」という「メイク」と「マラソン」を掛け合わせたものづくりのイベントを世界中に広めていて、その日本版になります。通常は場所を借りて3日間程度開催するんですがコロナ禍でできないのでオンラインで1ヶ月程度の開催期間を設け、チームを組んでやっていると話が進んでいます。

ITCリハビリテーション研究会のメンバーは本当に多彩で、理学療法士や作業療法士と似た活動をしている方に加え、IT企業の社長や一級建築士といった方々も集まっています。コアでユニークなメンバーがご近所で揃ったのは東京だからだとは思いますが、ユニークな問いを立てて発信したり活動したりしていると、距離は別として興味を持ったユニークな専門性を持つ人が集まってくる。発信や活動の重要性はそこにあり、林さんが徐々に下がってきたテクノロジーを上手く取り込んで起こしたアクションがこんなにも広がった要因だと思いますし、コミュニティデザイン的な発想に繋がっていると考えています。

#### ■地域発ITローカルベンチャーとスタートアップ

さらに、ローカルベンチャーでスタートアップしている人たちも広い意味では地域課

題解決のプレイヤーだという例をご紹介します。

これは「地域課題解決×産業振興×IT」という3つの掛け算で場づくりが起こっている例で、冒頭で触れたように地域産業の衰退・減退そのものが課題化している地域は多くあります。だからこそ新たなサービスをつくらう、観光のテコ入れをしようと地域に飛び込み新たな挑戦をした若者のソーシャルビジネスやコミュニティビジネスも増えています。地場産業も同様で、地域のプレイヤーがIT化する事でよく使われるようになったDX化や純粋に地域課題や社会課題の解決を目指し純然たる急成長で一山当てようといったITスタートアップも出てきています。

そこで、DX化で活躍するおもしろい若者をご紹介します。人口5万人の町の小さな商店がITベンチャーに化けた、長崎県南島原市の「洗濯ハカセ」と呼ばれる神崎さんのお話です。彼のクリーニング店は80年続く老舗で、半島内で7店舗を展開しシェアは4割です。彼は三代目ですが、やってみたい一念でITベンチャーをつくり、プログラミングも独学で習得するなどなかなか強気の姿勢ですが、会社をつくってから「何をやろう?」と順番が逆で…。でも、クリーニング店なのでクリーニングのオンラインサービスを立ち上げようとECサイトも自分でつくりました。当初は外注のつもりでいたら、ECサイトの構築に1,600万円もの見積もりがきてしまいます。町のクリーニング店がそんな金額を出せる訳がない。だったら自分でつくと、なんとかつくってサービスがスタートすると、注文が来るわ来るわと大当たりで、岩手県や北海道からも注文が来たそうです。

さらにブランド力を強化しようとWebデザイナーを雇い、彼はセルフプロモーション

も上手いので自分のキャラの売り込みも始めた結果、この3、4年で実店舗と同程度の売り上げが立つようになりました。地域のシェア4割をそれ以上に伸ばすのは結構きつく、半島を出て店を出すといった事をやらなければできません。お客さんが地元の人にに限られるとアッパーは決まっていますが、ITベンチャーを始めた事で地域のキャパを超えるほどの売り上げが立つようになり、商店で儲けながらおもしろく暮らしていける話になっていきます。彼が独学の素人技術でつくったECサイトはディスプレイ4台とOSが違うパソコン3台を並べなければ動かず、そこで我々が南島原市役所の方々と一緒にハッカソンを立ち上げ、「彼のような人材」×「首都圏のIT理念」×「田舎でおもしろい事をやりたい」をぶつけて何とかしようと。彼も遠くにいながらいろいろと教わる事でスキルを上げ、現在は経産省が展開する南島原IoT推進ラボコンソシアムの会長に収まるという不思議な現象も起こっています。

彼は「洗濯ハカセ」という名前でブログの発信を続けていて、洗濯でコンテンツをつくりたいテレビ局や雑誌社が彼に着目し最近では首都圏のメディアによく登場しています。朝の情報番組や深夜のバラエティで洗濯がテーマになると、芸能人の脇に彼がいて知名度がグングンとアップし、「じゃあ彼に頼もう」とまたお客さんが増える。島原半島の先端、最寄り駅から役場まで20キロも離れている地域の若者がここまでやれてしまう訳です。プログラミングのスキルをマスターし自分で工夫してプロモーションをして、地域商店の限界を突破して市場と顧客を拡大する。現在は運用システムの問題も何とか解消したので、パートのおばさんでもECサイトをまわせるように簡素化して新しい事業も

やれるようになっていきます。これで売り上げがある程度確保できれば、クリーニングや洋服を預かる立場でできる新ビジネスをスタートアップしてと、さらに意欲を燃やしています。ちなみに彼の最終的な夢は自分でガンダムをつくる事だそうで、一生懸命プラモデルをつくり最近はロボットのプログラミングなども楽しみながらやっているそうです。

こういった事例はこの後いろいろな地域で起こってくると思います。今まではIT企業とユーザー企業という分け方でしたが、この後は徐々に融合する動きになっていくでしょうし、彼のようにクリーニング店のお兄さんがIT人材になりIT起業家になっていくパターンや、IT企業が実業に入り込みその分野専門のベンチャーになっていくケースもあります。元々はWeb書店だったAmazonも同様の融合で現在は物流もしっかりと握る企業になっています。田舎にいても洗濯ハカセのような例もありますし、地域のIT企業が水産業のIoT化に特化した会社に化けたり、介護専門のクラウドサービスが当たって介護の会社になったりというケースも出ています。

農業の分野も同様で、実家に帰ったエンジニアが胡瓜の仕分けを自動化するシステムをつくった例もあります。彼のお母さんは1日4,000本の胡瓜を手作業で規格内・外に仕



分けていて、これがなかなか骨の折れる作業で。そこで彼は画像認識の技術を使って胡瓜の自動仕分け機をつくりました。画像で規格内・外を判別しロボットアームのようなものでバシバシさばいたら胡瓜のイボが欠けてしまい…。胡瓜はイボが欠けると商品価値が落ちるので改良して、最終的にはAIが判別して箱詰めは人の手でやる事になったそうです。このように事情をきちんと理解して小回りのきくエンジニアがいればこんな事もできる。地域産業も同様でかゆい所に手が届きアジャストできるIT人材を入れていければ良いんです。

最近では企業の経営者もITを入れなければサービスもビジネスもできないため、東京ではプログラミングを習う人も増えています。自分でつくるといふよりエンジニアに丸投げすると適当に仕事をされる不安もあるので、エンジニアと対等に話すためのようです。また、介護事業者がエンジニアの採用を始めるケースも出ていて、介護版のウーバーという事で独居老人を見守るといった新しいサービスも始まっています。

### ■最後に

ITの技術はどんどんと下に降りてきていて、多彩な人材が様々なものをつくるようになっていきます。すると、新しい体験や価値を表現する手段としてITでサービスをつくったり課題解決の手段を生み出したりする人が現れ、従来の社会のルールを超えて解決策も出てきます。3、4年前のドローンの出現を思い出してください。皆さんが最初にドローンを知ったのは何でしたか？確か官邸の上空にドローンを飛ばした、お寺の行事の列にドローンが墜落した…だったと思い

ますが、新しい技術ができるわけしからん事をする人が現れそちらの方向で騒がれるケースが非常に多いです。Airbnb（エアビーアンドビー）やウーバーも既存の業界を圧迫してわけしからんといった方向になっていて、よく分からないからとりあえず規制しよう、禁止しよう、とまさに課題解決のスピードを落としてしまうケースが多いんですが、そうではありません。一定の規制は必要ですが、課題解決の手段が社会のルールに合っていないから起こる問題は、規制するのではなく、条例、法律を含む社会のルールに変更が求められているので、そういう意味で規制をどう考えるのか。もしくはそういったものを認める、認めないという意志決定のプロセスに誰のどんな声を入れて政策、制度を考えるのか。テクノロジーの進歩というか、歴史とはそういうものですよ。テクノロジーが後退して社会が良くなった例はおそらくないはずで、今、この社会も様々な政策や制度のおかげで安全に暮らせるようになっています。200年前と比べるとどうですか？自動車が日常生活にあって当然の現代社会で自動車関係の法律やルール、制度がいくつあるのか。道路や自動車を安全に製造するための規格や規制、法律は膨大な量です。自動車が街を走るだけでこれだけのルールが整備されてきた訳ですから、テクノロジーの進歩で便利になる一方でルールづくりも適切に行わなければなりません。さらには、技術を上手く使いながら課題を適切に解決し、私たちも快適で楽しく生活できる状態に変えていく。そのために皆さんはどんな人と何をしますか？この辺りを問題定義として上げさせて頂き、私のお話は終了させて頂きます。ありがとうございました。

**土山** 松下圭一先生の都市型社会論を基盤にした整理など、私の大学院の講義を受けていた方は「ああ、あの事か…」と思いついた節があったと思います。オープンデータや IT とテクノロジーと地域など多岐に渡って

お話を頂き、多面的なポイントを頂く事ができました。ありがとうございました。

(2020年12月14日)



2020年度（第3回）

龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム 公開講演会

## 「保津川から発信するプラスチック削減の活動 — 亀岡市プラスチックゴミ禁止を目指す— ～河川漂着ごみの課題と地域連携のかたち～」

保津川遊船企業組合 代表理事  
NPO 法人プロジェクト保津川 副代表  
京都大学東南アジア研究所 連携研究員  
森の京都 DMO 取締役  
豊田 知八

豊田知八（とよた ともや）

1966年 京都市生まれ  
大卒後 新聞社に入社  
1995年 保津川遊船企業組合に入社  
2014年 保津川遊船企業組合・専務理事  
2016年 代表理事に就任し現在に至る



北川 本日は保津川遊船企業組合の代表理事・豊田知八氏にお越し頂きました。「保津川から発信するプラスチック削減の活動」をテーマに、亀岡市のプラスチックゴミ禁止を目指す取り組みについてお話をさせて頂きます。

豊田氏は新聞社に入社された後、1995年に保津川遊船企業組合に入られ現在は代表理事を務めておられます。また、NPO 法人プロジェクト保津川・副代表、京都大学東南アジア研究所・連携研究員、森の京都DMO・取締役を兼任されていて、保津川を開削した角倉了以の関係で京大の連携研究員になられたとお聞きしています。

本日はOBやNPO法人、一般の方にもご来場頂いていますので講演後に質疑応答の時間を設け、その後受講生と豊田氏を交えて意見交換をしたいと思っています。それではよろしくお願ひ致します。

### ■はじめに

豊田 皆さん、こんにちは。ご紹介頂きました保津川遊船企業組合で代表理事を務めている豊田知八と申します。本日は貴重なお時間を頂戴し感謝申し上げます。私は保津川遊船という社名の通りコロナ禍の今、最も厳しい観光業界で会社を運営しています。

そんな中、2021年1月1日に亀岡市は日本で初めて「プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」を施行。様々な取材も受けましたし賛否両論ありますが、果敢にチャレンジしている町からやって参りました。本日はなぜ亀岡市がプラスチック削減問題に取り組み、私たちが条例施行にどのように関わったのかをお話したいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

皆さんは亀岡市をご存知ですか？京都市の西隣に位置し、大阪府北部の高槻市や能勢町とも面していて、人口は約8万9,000人と9万人を切り減っていますが、京都府では3番目の人口を誇っています。市内を流れる保津川は「保津川下り」で知られていますが、この川の正式名称は桂川で木津川、宇治川と共に京都三川の一つで3本の川が合流して淀川になる、淀川水系の川です。保津川には保津峡と呼ばれる美しい渓谷があり亀岡から嵐山まで船で下る保津川下りが有名ですが、実は亀岡は保津川の恵みにより京野菜が豊富で生産量も多く、これが保津川下りの誕生に深く関わっています。現在は保津川下りとトロッコ列車、湯の花温泉の3つが亀岡の観光名所ですが、コロナ禍の昨今は非常に厳しい状況です。

亀岡市は2018年12月末に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行いました。同様の宣言は他の地域でも行われていて亀岡市も早い段階での宣言だったんですが、一番の特徴は宣言の中で最初に取り組んだ「レジ袋を廃止する条例」です。これを議会に提案し考えようとしたところメディアに紹介されたんですが、なぜ亀岡がこの取り組みを始めたのか。今でも「日本のどの地域もやっていない取り組みをなぜ亀岡が先行してやるん

ですか？そこに意味はあるんですか？」と言われます。後ほどご説明しますが、国をあげてプラスチックごみに関する条例をつくった前例はなくすべて市町村から発令するもので、「プラスチックごみや海洋ごみの問題、処理の問題が流行っているから始めたんですが？」とよく言われますが、決してそうではありません。

### ■「保津川」について

ではまず、「プラスチックごみゼロ宣言」にとって非常に重要な保津川についてお話をさせていただきます。

保津川は1,300年の水運の歴史を誇り現存しています。始まりは奈良時代で、船ではなく筏を京都や奈良に流していたという記録が、905年、醍醐天皇の命により藤原時平が編集をはじめた格式（律令の施行細則）で三代格式の一つ『延喜式』に記され、その後、長岡京や平安京の造営計画から水運が活発になっています。長岡京、平安京は桓武天皇が平城京から遷都を計画して建てられたもので、最初に場所を設定されたのは今の長岡でしたが、残念ながら10年ほどで頓挫しています。そして新たに遷都にチャレンジしたのが、今の京都市上京区辺りになります。何もない原野に都をつくるにはどれだけの経費と材料が必要なのか、1000年以上も前の話ですから規模などももちろん違いますが、山城と呼ばれた何もない原野に都をつくるには大量の木材が必要でお金もかかります。その時に非常に良い条件が京都にありました。保津峡を抜けた流域の山には良質な木材がたくさん自生していて、杉や檜、松、栗など一大産地の材木を使わない手はないですし、水運を使えば大量にスピーディに確実に



運ぶ事ができます。桓武天皇も最初に考えておられたと思いますが、都の造営のために水運をつくり豊かな森林資源で京に都を築く。また、桓武天皇は現在の京北町の山国に36人の官人を派遣し御用地をつくり、そこから木材を計画的に搬出する計画を立てられたと言われています。この山国には官人の末裔にあたる方が今も住んでおられます。

ここから少し川の専門的な話をさせていただきます。

現在は日吉ダムで遮断されますが、当時の山国から日吉まではあまり急流がないので「平川づくり」と呼ばれる真四角の筏で木材を運んでいました。しかし、保津峡を通らなければ京都には出られず、保津峡を通るには筏を組み替えなければならぬので、ここで亀岡が登場します。後に山本という地域も栄えますが、平川づくりの筏で入ってきた木材を一旦バラし、イカの頭のような三角の添え木で角度をつけた「荒川づくり」の筏につくり変え、保津峡の狭い急流も通り抜けられるようにします。平川づくりでは狭い崖の間で角が引っかけり割れてしましますが、荒川づくりなら頭が三角で上手く入り、筏の側面はまくれるようになっているのですと抜けられるんですね。その筏をつくり変える中継地が亀岡・保津町だったんです。スライドは保津川下りの獅子ヶ口の急流ですが、このように木材を組んで流しています。これは「木工沈床」といって川の流れをつくるもので、昔は石積みだけでなく自分たちで沈床をつくって石を入れ、水を当て跳ね返して流れをつくっていました。

こちらは当時の渡月橋の写真ですが、たくさん木材が浮かんでいます。昭和初期までこんな風景があったと言われていて、今でも

当時をご存知の方は「筏がたくさん浮かんでいたんですよ」とおっしゃいます。嵯峨美術短期大学近くに堤防から下がって少し広くなっている所があるんですが、そこは昔、筏の係留場で、水を貯めて筏を係留し明治時代にできた西高瀬川を通して現在の千本三条に流すルートがあったと言われています。

保津川はこういった由緒のある川で、丹波の良質な木材を運んで都を造営してきました。時代は流れ、京の都は荒れ果てたりもしましたが再開発されます。応仁の乱で焼け野原になり、その後豊臣秀吉が都市計画を立てる時も筏はどンドンと川を流れていたという歴史があります。

#### ■「保津川水運」と「角倉了以」

筏流しがどンドン盛んになり、川で暮らす人が多くなりました。時代が進み江戸時代に入った1606年、「角倉了以」という人物が登場します。角倉了以をご存知の方はいらっしゃいますか？興味をもって下さった方はぜひ調べて頂きたいんですが、角倉了以は弊社の創業者でもあり実に素晴らしい実業家でした。京都の高瀬川を繋ぎ、大阪の港と京都の内陸を繋ぐ水運をつくり、保津川を開削して筏でしか流せなかった野菜など丹波の物資を船で運ぶ、当時としては画期的で先進的なビジネスモデルをつくった人物です。水運を開く、流通を開く事で繋がる地域を潤す。コロナ禍の今は人が動いてはいけませんが、物が動き、人が動くからこそ経済は動きます。それを理解していた角倉了以は木材を流す川を見て、「これを船に変えよう、水運に変えよう」と考えました。同じ事を考え付いた人はいたかもしれませんが、誰も実現できませんでした。なぜなら舟運をつくるには川を

つくらなければなりませんし、対策をしなければなりません。落差の激しい川は落差を縮めなければ筏は通れても船は通れません。筏なら幅が狭くても丸められますが、船は引かかって通れませんし、それ以前に嵐山に着けば筏自体が材木ですが、船は荷物をのせる箱なので持って帰らなければならず、帰る道もつくらなければなりません。そこで角倉了以は嵐山から帰る道もつくっています。

このように渓谷を開削する技術や資金は誰にでも出せるものではありませんでした。「船があれば良いなあ。丹波から野菜や米を大量に運べるなあ」と思った人はいたかもしれませんが、お金もなく技術もないため実現できない。しかし角倉家はそれをもっていました。朱印貿易で巨万の富を得て、今の企業モラルに当てはまる集中規約という貿易モラルをつくった。16世紀後半にそういったモラルをつくり海外と貿易をした起業家は他にはいません。

時は大航海時代でヨーロッパがどんどんアジアに進出、開発し搾取して奴隷を連れ帰った時代です。倫理的に良いか悪いかではなく、それが許された時代に角倉船は5つの約束事を決めアジアで17回も貿易をしています。売り上げが小さくても互いの富が合えば価値のある事だと言い、「他の地域に行けば尊敬する父や母のような人物がいる。そんな人たちを文化が低いなどと言って蔑んではいけない。尊敬しなければいけない」とまで言っています。「4つの約束事を守った人しか乗せません」を5つ目の約束事とし、それを守って17回も貿易をしました。

角倉船は当時の船としては最大と言われている、全長35メートルで350人も乗れる。船の航海士はポルトガル人でした。朝鮮や中国の商人も乗る多国籍の角倉船の中で国際

ルールに匹敵するルールをつくり、「みんなで儲けよう」と行き先の地域も儲けさせ、自分たちも儲ける。「母国も儲けさせよう」は、今の日本では当然のビジネススタンダードですが、当時それを守って17回も渡航したビジネスマンは世界に一人もいません。それは経営学の先生も経営史の中でおっしゃっていますし、こういう人物だからこそ様々な情報や技術をもつ事ができ技術集団を抱える事ができたんです。

保津川は今でも重機が入れないので、洪水が起これば船頭が手作業で石や土砂をどけています。そんな重機も入らない川に民間人が自身の巨万の富を資金として投入し開削して船の流通経路をつくり、通行料やレンタル料で採算をあげ、各地の荷主や生産者を儲けさせる。角倉了以はそんなビジネスモデルをつくり、事業に投資した資金を回収していきました。

さらに、鴨川の水は安定せず水運に向かない事は大仏をつくった時に分かっていたので、その水を引っ張り安定水量の運河・高瀬川をつくりました。現在の「がんこ 高瀬川 二条苑」の庭から水を引っ張って伏見港に繋げ、琵琶湖水運を集め、大阪水運を集め伏見の港に繋げる。経済では大阪が台所になり政治は江戸（東京）に変わり経済面でも政治面でも遅れていく中、一番大事なものは何かを考え、大阪の港に繋げる事で世界の情報や物資、また日本の西周り、東周り、北周りの荷が入って来るようにする。物資や情報を京都に上げる役目を担う高瀬川は、下るためではなく引っ張り上げるための設計、測量をしているため流れが緩やかなんです。高瀬川を見て歩けばお分かりいただけますが、非常に緩やかな傾斜の所を選んで流れています。「このビジネスは必ず儲かるので田んぼを提供

してください」と地権者としっかり交渉をして、「もし失敗したらすべて弁償します」という書状を渡し、五条、六条、七条の土地すべてを買い上げ、高瀬川をつくりました。

角倉了以の話になると1日話せてしまうのでここで切り上げますが、そんな角倉了以が弊社の創業者なので、興味があればぜひ調べて頂きたいと思います。日本にこんなにも冒険心の強いチャレンジ精神のあるビジネスマンがいたのかと皆さんにも感動して頂けるはずです。ちなみに、角倉了以は富士川、天竜川の開削にも携わっています。

### ■運送から観光へー

「保津川下り」の始まり

このように角倉了以が保津川を開削した事で荷物をどんどん京都へ運ぶ事ができるようになりました。当時は年貢米なども必要になってきた時代で、藩から出る年貢米で市場ができると。また、商人が京都の市で売る米や野菜、さらには薪や炭も同様で、薪や炭は今の電気やガスと同じでご飯を炊くにもお風呂を沸かすにも必要な燃料です。丹波は豊かな農産地なので薪や炭をつくって船に乗せれば京都で売ることができますが、筏で運ぶとひっくり返るリスクも高く水に浸かると俵ものは腐って危ないんですが、嵯峨よりも丹波でつくった方が産業も生まれるとつくって運んでいました。

時代は流れ江戸時代から幕末を経て明治維新が始まる頃、西欧から科学文明が入ってきます。科学文明の象徴は鉄道や自動車で、物を運ぶ画期的な変化により日本の舟運、水運は多くの川から姿を消しました。保津川も同様で、当時の船頭の日記には「荷物を運ぶ

仕事は鉄道や自動車に取られてしまった。これで僕たちの仕事は終わる。水運の仕事は無くなるなあ」と、当時の山陰線、現在はトロッコ列車が走る線路を見上げて呟く様子が書かれています。工事の荷物を運ぶ仕事が少しはあったようですが、みんなそれぞれに思いを綴っています。

しかし、その時に船頭たちは新たな発見をします。荷物を運ぶ仕事は徐々になくなっているけれど、明治時代には海外からたくさんの要人が来日して船に乗る。英国王室の要人が船に乗り「これなら観光でやっていける！」と地元の人々は気付き、運送業から観光業に業態を変え生きる方法を見つけます。今、このコロナ禍の時代に先人たちの心意気や知恵にもの凄く共感する事があり、見習わなければと感じています。「鉄道をひくからお前たちはもう終わり」と何の保証もなく仕事がなくなり、でも英国王室の方々が乗船し「すごい!!」と言ってくださった。世界から日本中からたくさんの人が来て船に乗ってください、「観光業でやっていけるのでは…」と、保津村に城丹運送（株）が誕生しました。当時、英国王室の方や有名な写真家H・G・ポンティング氏が保津川下りを紹介した事で有名になり、観光業で生き残る道を見つけます。

明治32年、保津村や山本など亀岡の水運に関わっていた集落に城丹運送（株）が誕生、後に保津川遊船（株）となります。角倉家は明治維新の際にお取り潰しではありませんが、新政府に浜や水運すべての権利を取り上げられていたので支配はなくなっています。ここで観光業に変わって始まった保津川下りが今日まで続いています。スライドでご覧いただいているように、今でも洪水が起これば重機は入らないので人が水

に浸かり手作業で修復していて、これは角倉了以の時代と一緒です。

江戸時代に操船技術を開発したのは瀬戸内水運ですが、その操船技術は今も船頭が受け継ぎ、亀岡では無形文化財に指定され、413年もの間変わっていません。保津峡の桜、新緑、紅葉、雪と美しい四季の移ろいの中、保津川下りは年間平均23～25万人、最高で30万人のお客様に乘船していただき、保津川遊船は年商10億円の会社として存続しています。角倉了以がつくった水運を現在も受け継ぎ、コロナ禍以前は世界100カ国からお客様が来られ保津川下りを楽しんでいました。英語版や中国語版など世界の皆さんのアンケートを追いかけると、「すごくおもしろかった」「綺麗だった」など高い評価をいただいています。

### ■保津川の惨状と始まりの一步

2020年は本当に非常事態でしたが、保津川下りが存続してきた歴史には、平安時代前から川に生きる多くの人たちが水運で川を繋ぎ、美しい川の形状と絶景が楽しめる川下りの観光業に変え、さらに下流に嵐山という大観光地が控えるという理想的なルートが育ってきたという背景があります。しかし、この保津川が今大変な状態に、いえ今ではなく20数年前から大雨が降ると大量の漂流ゴミに覆われる悲惨な状態になっています。

気候変動が叫ばれる昨今は保津川の辺り一面が漂着ゴミに覆われる状態になる事が非常に多く、私たちの経験で言うと20年前にこれほど洪水が起こった事はありませんでした。しかし最近では毎年のように大洪水が起こります。大量の漂着ゴミの下には水没橋と呼ばれる橋が掛かっていますが、まったく

見えません。このようにペットボトル、トレイ、プラスチック…と大量の漂着ゴミが溜まります。これは1カ所の写真ですが、全長12キロメートルの保津峡にはこういった悲惨な風景が10メートル毎にあります。岩場の舞い込みの裏には必ずゴミが散乱し、水が引いた後はペットボトルやトレイなどが山積みです。一雨降って洪水が起これば大量のゴミの山が50～60カ所以上はあります。我々は観光業ですからお客様に「この川はゴミが多いね。掃除しないんですか?」と言われます。綺麗な溪谷を眺めて楽しんでいるのに横を見るとゴミの山ですから、「何を考えてこんな商売をしているんだ?ゴミくらい拾えよ」と怒られるのも当然です。フランスから来られたご婦人にも「川の汚さをみればその国の人の心、精神、感情、意識が分かるのよ」と怒られました。セーヌ川もそんなに…とは思いますが、おっしゃる通りの惨状です。保津川下りを楽しむために世界中からお越しにいただいているのに、世界中の人から「あんなに汚い川の観光地」と笑われています。嵐山には年間900万人、嵯峨野トロッコ列車には128万人、保津川下りには23万人のお客様にお越しにいただき、日本中から世界中からこれだけ見られている川は他にはありません。それがこんなにも汚れた風景をお見せするのはとんでもない事です。

「何とかしなければ」と、私がまだ若手と呼ばれた頃にもう一人いた若手と二人でボランティアを募り、溪谷の掃除を始めました。会社の先輩にも相談しましたが、「状況は分かるけれど、ゴミを拾うためにどれほどの労力が必要だと思う?しかも、明日雨が降れば同じ事だぞ。それを永遠に続けるなんてできないだろう?やめておけ」と言われまし

た。でも、国民の意識が分かるとまで言われ、京都の川が笑われるのを見過ごす事はできません。川で生きる者としてここは何かしなければと個人で掃除を始めましたが、まだまだ若手で発言力もなく上司に言っても先ほどのような返答でももちろん会社も動きません。しかも漂着ごみの中は空洞が多く、不用意に足を踏み入れると川に落ちる危険が伴います。会社からは「労災も対応できないのでそんな危ない所で作業をさせる訳にはいかない」と言われ、しかも9月になるとマムシに噛まれたりスズメバチに刺されたりと、さらに危険がいっぱいです。「やめておけ」「危ない」という意見が大半でしたが、それでもできる事からやろうと。始めないと何も変わりませんし頼んでも変わる事はないので、今、目の前にあるごみを、ペットボトル一つを片付ければ綺麗になるという意識で掃除を始めました。すると若い仲間が5、6人集まり「手伝おう」と言ってくれて、徐々に人数が増え10人ほどで掃除をしていました。

しかし、なかなか埒の明く事ではありません。会社の協力を得て船を出して掃除に行く訳ではなく、歩いて崖を上って下りてごみを拾ってでは運べる量も少れています。しれてはいるけれど、やらなければ何も変わらない。今年も来年も再来年も何も変わらず、仕

方がない、仕方がないで済む。これを変えなければと、無駄を承知でアクションを起こしました。「良い事をしているね」なんて誰も言ってくれませんが、「保津川下りの船頭さんがボランティアで掃除しているらしいけれど、そりゃそうやね。自分たちの仕事場から。店の前を掃いているのと一緒」「頑張っているけれど、いつまで続くんやろう?」「雨が降ってまたごみが溜まったらその内やめはるで」といった声もたくさん聞こえてきました。でも、そこでやめたら、そんな人たちの言う通りになってしまうという意地のようなものもありました。こんなに小さな動きだけでも、もしかしたら大きな動きになるかもしれない。絶対、何かを動かさなければと思い1、2年ほどボランティアを続けました。でも、最初は10人いた仲間が8人になり7人になり、「今日はちょっと用事があって…」と来なくなったりします。これではいけない、何かおもしろい事をしなければと、「保津川ハートクリーン作戦」と名付けたイベントを開催しました。義務ではなくみんなで掃除をするイベントならアピールできると会社に提案すると「それならば」と参加者が増えました。単発でも良いのでイベントとして繰り返し開催していくと年配の船頭さんも協力してくれるようになり、会社も「イベントなら船を出してあげよう。でも気を付けてやれよ」と、船でごみが回収できるようになりました。手で運んで軽トラに乗せるのとは違って船なら一気に大量のごみを積む事ができ、本当に助かりました。「9月の蛇の多い産卵時期は危ないので長い棒で足場を確認してから入る事。ごみを拾うよりもまずは安全第一」など安全基準のマニュアルもつくりました。みんなやり始めると無我夢中でごみしか見ておらず危ないので、「スズメ



バチの巣はないか」「藁、アシの下に穴はないか」などマニュアルに沿ってごみを拾い、安全を最優先にしてごみが拾えなくても仕方がないと決めました。

そして2007年、保津川遊船企業組合内に念願の環境保全委員会「保津川下りエコ・グリーン委員会」が発足、会社にきちんとしたごみ回収組織ができました。そして美化活動のごみ拾いだけではなく、桜や紅葉などの植樹事業も始めました。すると、環境団体や関係機関とのお付き合いもでき始め、ロータリーアクトクラブの若者たちが寄付をしてくれるなど、会社としての窓口ができた事で対外的な活動もできるようになってきました。ただ単にごみ拾いを繰り返すのではなく、ごみ拾いに価値や意義を持たせ「保津川渓谷を美しくしよう」という目的のもとに人が集まる動きになっていきました。

### ■「NPO 法人プロジェクト保津川」設立

私たちにとって最大の転機となったのは「NPO 法人プロジェクト保津川」の設立です。それでもやっぱり環境活動は小さな動きで、「意識の高い人たちが集まってやってはるなあ」といった受け取り方で、保津峡のごみは何回拾っても埒が明きません。

では、このごみはいったいどこから流れてくるのか。不法投棄は確かにありますが、保津川にバーベキューに来てごみを捨てて帰るといった例はとて少ないんですね。ではごみはどこから流れてくるのか。それは保津川の支流や上流、または支流に繋がる小さな川、家の前の用水路や側溝からなんです。そこに落ちていたごみが雨で水嵩が増え小さな川に流れ込み、さらに支流にそして保津川

に流れ込んでいく。保津峡は曲がりくねっているので舞い込みが生まれてごみが溜まりごみのダムのようになるといった事が分かってくると、目の前のペットボトルを片付けるだけで問題は解決できない事も分かってきます。どこからどんなごみが出て流れてくるのか元々の発生源をしっかりと知らなければ、問題解決の糸口は掴めません。発生そのものを抑制しなければいくら拾っても川のごみは減らず、拾い続けても絶対量が多いと出てくるので、保津川だけでやっていると駄目なんだと。それこそ「自分たちが商売をする川だから掃除してはるわ」といった話になってしまうため、地域の問題として提起する事を考えました。そこで地域の方々の知恵を借り多くの協力を得るために保津川遊船だけでなく様々な立場の人に入って頂く仕組みをつくらなければ、いくら行動してもイタチごっこで終わってしまうと「NPO 法人プロジェクト保津川」を設立しました。

最初はたった3人でのスタートでした。実は現在の亀岡市長の桂川孝裕氏はプラスチック問題に手を挙げた方なんです。よく「パフォーマンスだ」などと言われていますが、桂川氏はプロジェクト保津川発足時のたった3人の内の1人で、市長でもない、府会議員にも選ばれていない時に「鮎が好き、鮎釣りが好き、川が好きだから一緒にやる」と立ち上がった1人なんです。あの日から今日までずっとどんな時も掃除の日にはスーツに長靴を履いて現れ、掃除をし続けています。誰もそんな姿を見ていないので、「環境問題やプラスチック問題が人気になってきたから急に手を挙げた」と言われる事がありますが、決してそうではありません。

そういう方々をつくったプロジェクト保津川ですが、「ごみマップをつくりたい」と

特定非営利活動法人 富士山クラブの方々と話をするなど繋がりが広がっています。ローカルな活動でも広い視野で物事を捉え外部との繋がりがや情報交換、活動例を見る事は非常に大事でNPOを立ち上げた事で様々な情報が入りいろいろな意見も出てきました。

保津川のごみを拾うという実働部隊は行政がやっているかもしれませんが、それだけでは解決できません。もちろん掃除は大事で2007年から一度も欠かさず毎月続けていますが、イベントを開催する事でもっと保津川に目を向けて頂き、「保津川遊船が仕事をしている川」というだけでなく、地域にとっても大事な宝でどれほど地域を潤してきたのかを知って頂く事がNPOならできます。主催者が企業だと胡散臭くて引かれてしまうかもしれませんが、NPOの方々と一緒にやる事が大事だと強く感じました。

スライドでご覧頂いている「地域ネットワークの構築と進め方」を考え、保津川は共有の財産で山から町そして海に流れ、古くからの歴史あるこの川で地域がどれだけ栄えたのか、川の流域でどれだけの繋がりをもってきたのかなど川の文化の継承もしていきます。地域活性化にどれくらい取り組んでいるのかは難しい判断ですが、そういった活動も目指しそのために大学、行政、住民、事業者みんなで考える仕組みをつくる事が大事だと、私たちがNPOを立ち上げて一番強く感じています。

また、NPOの設立は私たちの組合にとってもすごく大きな出来事で、組合では川がどう、科学がどう、ペットボトルがどうと考えて川の掃除をする事はありませんでした。「汚い川を綺麗にしたいなあ。何とかならないかなあ」と掃除をする。でも、NPOの方々や他の参加して下さる方々と知り合う事

で広くて深い知識を得る事ができ、川のごみが原因の社会問題まで意識できるとごみを拾うモチベーションも変わってきます。仕事場の川でお客さんに汚い所を見せないためにやっている活動よりも、社会的意義が高く川の環境を守り生態系の問題にまで関わる活動の方がより意味が出てきますし、モチベーションも上がってきます。こういった事が仕組みの中ではすごく大事で、NPOは回収したごみを調べますが企業では時間がないので調べません。企業はごみを早く目の前からなくさなければなりません、NPOは違います。ペットボトル1本、トレイ1枚、どこにどんなごみが多いのかを調査しデータ化します。「この数字を見てください。やはりペットボトルが多いです」「木に引っかかっているのはレジ袋片が大半です」と、感覚でごみが多いと言い続けても数字にしなければ響きません。川の法面には木が生えているので洪水で水高が増すとごみは枝に引っかかり七夕の短冊のように繋がります。水が引くと短冊のようなごみを拾い集めるには手間が掛かりますが、この川にはどんなごみがどんな割合で流れているのかもNPOは調査していきます。

こういった調査を踏まえてみんなで考えた解決策が「ごみマップ」で、現在もスマートフォンのアプリがありますのでぜひダウンロードしてください。ごみマップは「ペットボトルが〇〇川の右岸に〇個ありました」と地図上に書いたデータと携帯電話で撮った写真を送るシステムで、NPOで資金を出し合ったり企業の助成金に申し込んだりしてつくりました。これが最も大きな契機となったのは見える化自体がもちろん大事なんです、それ以上に見える化には協力者が必要だからです。地域の自治会に出向き「小さ

な川に流れているごみを調査してもらえませんか」とお願いしましたが、「そんな事、携帯電話でやった事がないからできないわ」と皆さんおっしゃいます。「いえ、簡単ですよ。携帯電話のカメラで写真を撮ってこのアドレスに送ってくださるだけで良いんです」と自治会にお邪魔して講習会を開いて回りました。すると「家の前の川ぐらいならやってあげるよ。でも、ごみは拾いに来てくれるんでしょ?」とおっしゃるので、「回収はもちろん我々がします。写真を撮って送って下さるだけで結構です」と。このように「参加して頂く事」がすごく大事で、今までは「面倒臭い」と言っていた方が「あっ、ごみだ!」と写真を撮って送ってくださり、さらに「ごみがないか気になってくる」といった気持ちになるなど、ごみマップのおかげでごみの所在が分かるようになりました。どこにどんなごみがどれだけの量あるのか、なぜその川にそのごみが落ちているのか、散布されてそこに引っかかっているのかなど、考える事が発生抑制のきっかけになりますし、民家はないのに川にごみがあるといったデータも取れました。こういったモデルを他の川でもつくっていただければ、日本の川の漂着ごみがチェックできると思っています。プラスチックごみの他にドラム缶や農家の肥料袋もありました。肥料袋は水の調整に使うので洪水が起こると流れてしまい問題なんです、すべてがデータで表される事で様々なごみが保津川に流れてくる事が分かりました。

ごみ拾いを始めた2011年頃は洪水後に毎月20リットルの土嚢袋で190袋のごみと粗大ごみが回収されていましたが、2018年には20リットルのごみ袋10袋と非常に減っていて、洪水後のごみも減り支流の川は随分綺麗になってきた印象があります。

### ■川のごみと海のごみの関係

「保津川の漂着ごみをそのままにしておいたらどうなるか」というモニタリングをしました。6月16日に防水パックに入れたGPS7個を保津川の乗船場や嵐山から放流し追跡した結果、川の流れが少ない時は放流した近辺をうろろろしていますが、大雨が降って水嵩が増すとかなり下流まで流され、次の大雨で大阪まで流される事が分かりました。その後は動かなくなったものや7月には明石まで流れているものがある事も分かりました。つまり、ごみを拾わずそのままにしておくとも1~2ヶ月で河口付近まで流されたり1日で大阪湾まで流されたりと、保津川のごみを回収しなければすべて海洋ごみになってしまう事が分かりました。これは以前から言われていた事で、海岸に打ち上げられるプラスチックごみが非常に多く保津川のような状態で、これを何とかしなければと海岸沿いの住民の皆さんは一生懸命取り組んでおられましたが、いくら頑張ってもごみは減りません。よく日本語ではない文字が書いてあるとマスコミで取り上げられていますが、私たちの調査では場所的な事情はあるものの日本の海岸に打ち上げられたごみの約80%は日本のごみです。中国や韓国のものが数%はありますが、それをピンポイントで取り上げ「外国から流れて来ています!」と言うのはちょっと違うのではと私は思っています。

先ほどのようなモニタリングをしなければ、海の漂着ごみの多くが内陸の川から流れている事はなかなか明らかにできませんでしたが、ここで初めて「川のごみ=海のごみ」という問題に気がきます。であれば、亀に絡

まったり鳥が吸い込んだりしている海のごみ問題を一緒に考えていこうと、2012年に「第10回海ごみサミット」を亀岡に誘致しました。海ごみサミットは、海岸を有する地方自治体が輪番制で様々な研究者を招き、環境省のバックアップを受けながら海のごみ問題を解決しようとしてきた取り組みです。しかし、内陸のごみが川から海へと流れているので解決しないのは当然で、だからこそ亀岡という海のない内陸の町から海のごみ問題に取り組まなければならないのです。

海ごみサミットの誘致は困難を極め、「なぜ、海のない海から遠い亀岡でこんな事をするのか?」と言われ、市の予算にも組み込まれていたので「なぜ予算まで付けるのか?」と言われなかなか理解してもらえませんでした。そこで「こちらをご覧ください。1日経てば明石まで流れているんです!」と先ほどのモニタリングのデータを公表しました。わずか7個のGPSの1つが海まで流れている。この何百万倍のごみが川から流れた結果、どれほど大量のごみが海に流れているのか。和歌山県・友ヶ島のNPO法人ゴミング☆ゴミ拾いネットワーク等の方々と一緒に連携して「川のごみ問題と一緒に解決する必要があるから海ごみサミットを亀岡で開催する意味がある」と説得した結果、誘致に成功しました。当時の環境副大臣にも環境省の事務次官にも出席して頂き、世界の環境問題の研究記者が集まり、初めて内陸の地域で海のごみ問題を考える動きが実現しました。

さらに、当時の亀岡市長や京都府知事にも参加して頂き、「亀岡保津川宣言」と「川のごみ海のごみをともに考える京都流域宣言」を採択していただきました。その後、亀岡では子どもたちや地域の小学校と一緒に「川と海つながり共創プロジェクト」を開き、市内

の16団体に参加していただいて毎年川のごみと海のごみをチェックする活動を続けています。また、「海ごみ子供探偵団」や「川ごみお掃除船」などでごみの量や種類を比較、調査する活動も続けています。

資料に掲載されているのが少し古いデータで申し訳ありませんが、2017年の海ごみ探偵団ほづがわ編、海ごみ探偵団舞鶴編をご紹介します。ご覧のように回収したごみの種類の比率は年度が変わっても大きな変化はありませんが、海ごみは破片ごみが圧倒的に多くなっています。ごみは風化するので原型を留めていない事が多くレジ袋はありません。亀岡市のレジ袋廃止に対する書き込みは「バカじゃないの? レジ袋はこんなに環境負荷が低いのに!!」「そんなものをなくすような不便な町に行きたくはない!」とネガティブなものが非常に多く、「ごみ全体のたった0.数%、プラスチックごみでも2%しかないのにレジ袋をなくすんですか?」と言われます。こういった言葉を聞くと頭がクラクラするんですが、データ上ではレジ袋は少なく、保津川の河口や急流の入り口、流れの緩やかな所にはありますが、急流の獅子ヶ口になるとレジ袋はなくなり、海では非常に低い数字になっています。レジ袋としてカウントされるのは持ち手がある袋の状態が1ポイントで、この状態では川の急流を越えた後はほとんどありません。それはビリビリに破れて破片になっているためカウントされず、しかも重さがないので海に流れ付くとカウントするのも困難な状態だからです。ペットボトルも軽いんですがそれでも重さがありますが、レジ袋の破片を袋一杯に詰め込んでも5キロもないためカウントされず、データとして表に出てきません。これが掃除の現場と科学者が出すデータの違いで、「レジ袋は少な

いので減らしても意味がない」とおっしゃる科学者はほんの一部ですが、掃除で見つけるレジ袋片の量はペットボトルの量に匹敵します。しかも、とても拾いにくく川では荊に引っかかっているビニール片を取ろうとすると「棘」に洋服が刺さり破れてしまうほどで、それでも引っ張るとビリビリに破れてしまいます。「レジ袋は全体のたった2%でしょう？」と言われますが、実際は非常に多いんです。現場で20年掃除を続け、海のごみの調査にも出向きごみ処理の現場も見てきましたが、処理場でごみをパワーシャベルで掻き上げると、フワッと舞い上がるのはほとんどがレジ袋です。レジ袋は軽いのですが海に流れると微生物が付着し沈んで風化してしまうため海中では測量できません。ですから実際はペットボトルやトレイに匹敵するくらいの量だとお考え下さい。

#### ■ 「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」

こういった流れを受け、亀岡では満を持して「かめおかプラスチックごみゼロ宣言～レジ袋禁止に取り組み意義とは～」を行いました。伊勢志摩サミットでも海洋ごみが世界の重要課題に上がり、世界中が海洋ごみに注目し始めました。私たちが川のごみ、海のごみと言っていた時はあまり響かず、世間の注目も集めませんでした。海洋ごみで「海ガメが死にます」「鳥が死にます」「生態系が乱れています」と言っても「可哀想だけれど生態系が乱れるのは文明の犠牲で近代科学に犠牲は付きものだから、動物たちには死んでもらわなければ」と、人間の便利で快適な生活のために犠牲はつきものだと問題として広がらなかったのかもしれない。しかし、海洋ごみのマイクロプラスチック問題が出てき

ました。海に流れたプラスチックは5ミリ以下の細かな粒子になって有害物質を吸い込み、それを魚介類が食べた結果人体に影響を及ぼすと。何十年もの臨床結果はまだ出ていませんが、非常に有毒だという問題が一気にクローズアップされ、「私たちに影響があるの!?!」「子孫に影響が及ぶの? それは大変だ!!」と、海ガメや鳥は仕方がないけれど「私たちの問題」になるとコロナ禍と一緒に「怖い」「何とかしなければ」と急にスポットが当たりました。私たちはこれまでと同じ事をしているだけですが、「海洋ごみの問題に取り組まれていますね?」と『ガイアの夜明け』が取材に来たり、CNNが取材に来たりと、毎年同じ調査をしてごみを拾っているだけなのですが、その背景にはこういった事情があったと思っています。

そして世界中が動き始め、国連は2025年にはレジ袋はもちろんストローや食器などプラスチック製品の使用禁止、全廃をうたっています。海に魚よりもプラスチックごみが多くなるといった仮説まで流れ、現在は世界の100数カ国でレジ袋の無料配布廃止が進んでいます。これは国ではなく地域毎の取り組みですが、フランスなどは国をあげて取り組んでいますし、ニューヨークは2019年に廃止が決定し2020年3月に施行、台湾は2018年1月から無料レジ袋の提供禁止が進んでいます。アメリカはトランプ元大統領が廃止をうたっていないのですが州や市で廃止しています。ここがポイントで日本でも政府ではなく亀岡市から動きが生まれました。

余談ですが、ケニアではプラスチックのレジ袋をもらおうと逮捕されます。持っているだけで禁固刑、日本円で300万円ほどの罰金が課せられるので皆さんくれぐれも気を付け

て下さい。

亀岡市でも埋め立てごみの問題がかなり深刻で削減する活動をしなければならない背景もあり、保津川のプラスチックごみを減らし海のごみ問題を私たちの地域で食い止めるため、レジ袋禁止はその象徴でもあります。

もう一つの理由として、レジ袋は個々がマイバッグを持つなど創意工夫をすれば必要ありませんし、消費者側がもらわないようにできます。スーパーやコンビニなどは、今まで無料で配布していたものを仕入れずに済みコストダウンに繋がります。一部に有料化のシステムもあり、レジ袋禁止は手始めとしては難しい事ではありませんでしたが、さすがにペットボトルやトレイを今の社会生活からなくす事は難しいです。桶を持って魚の切り身を買に行く事はできないですし、喉が渴いてスポーツドリンクを飲みたいけれどペットボトルだからやめておこうとはいかないですね。消費しなければならない時は消費しますが、生産者や事業者には何か方法を考えて頂かなければ手がかりは見つかりません。ハードルは高くてもやっていく必要がありますが、レジ袋は私たちがマイバッグを持参して「レジ袋は要りません」と言えば必要ありません。レジ袋が世の中から完全に無くなる訳ではありませんが、頑丈で使い回せるので家にローソンのレジ袋があれば畳んでポケットに入れてセブンイレブンで買い物をした時に使えば良い。要は無料で貰う、有料でも配布するのは駄目という事で何度も使えばマイバッグ代わりにもなりますし、そうする事で生産は削減されます。様々な業界で言われているように、大量生産して大量消費して大量廃棄した結果、処理できなくなる事が問題なんです。大量生産している

けれど本当に必要なのか、無料配布が本当に必要なのかと言えばそうではなく、消費の適正のボーダーラインを数式で計算し適正量の生産と適正量の消費があれば適正に処理できます。リサイクル技術でも処理できるラインがありますが、過剰に生産して過剰にばら撒き過剰にごみを発生させておいて処理する方法がないんです。ペットボトルの処理を受け付けてもらえないから処理してくれる先を探し回らなければならず、結果燃やすしかなくなりでも燃やすとCO<sub>2</sub>が出てしまう…と。こういった背景があり、亀岡市はこれまで調査を重ねデータも蓄積し、環境問題として川のごみ問題、プラスチックのごみ問題を舞鶴市・野原観光協会等の方々と一緒に考え、この宣言に至りました。ここまで言わなければマスメディアは伝えてくれませんし、今になっても「亀岡は調子良くやったのでは?」「市民は困っているでしょう?」とおっしゃって取材に来られる方がいますが、現在は市民の80%以上がマイバッグを使っています。アニマル型や一瞬で元の形に戻るものなどマイバッグにもいろいろあって、実は楽しみながら使ってらっしゃる方も多いです。

#### ■亀岡市の取り組み

このように亀岡が取り組んでいるのはプラスチックの削減であり、市民が誇りをもって社会の大きな問題に取り組んでいくシビックプライドでもあります。スライドのようなポスターや何度も使えるシェアバッグ、開くと動物の形になってとても可愛いアニマルバッグもつくりました。こういった形で80～90%がマイバッグを使っていますし、スーパーではレジカゴで商品を持って帰る

システムもあります。そうすれば次はレジカゴを持って行く顧客さんになってと繋がっていきますよね。商店街ではその仕組みを取り入れ、買い物に行つて商店街のシェアバッグを貰いまた返してと FACE to FACE という商店街の得意な分野が増えています。そこまでの仕組みをつくる事は難しかったんですが、2021年1月1日から亀岡では有料でも無料でも完全にレジ袋は配布されていません。

以下、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の宣言文になります。

#### ★【亀岡市が目指すべき目標】

1. 市内の店舗でのプラスチック製レジ袋有料化を皮切りにプラスチック製レジ袋禁止に踏み切り、エコバッグ持参率100%を目指す取り組みを進めます。
2. 「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない」。世界規模の海洋汚染（マイクロプラスチック）問題に立ち上がる意識のつながりを呼び掛けます。
3. 当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指します。
4. 使い捨てプラスチックの使用削減を広く呼びかけ、市内のイベントにおいてもリユース食器や再生可能な素材の食器を使用します。
5. 市民や事業者の環境に配慮した取り組みを積極的に支援し、世界最先端の「環境先進都市・亀岡」のブランド力向上を目指します。

これらの項目で環境先進都市亀岡としてプラスチックごみ問題に取り組んでいます。

#### ■「世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会」の設立

ここまではレジ袋を廃止するまでのお話です。ニューヨークなど外国では「禁止」と言えば有無を言わず全面禁止に、「ロックダウン」と言えば全面ロックダウンになりますが、日本では馴染みませんし、亀岡でレジ袋を無くす取り組みでは市民の方々との話し合いを十二分にする必要があります。という事でレジ袋廃止に向け、2019年4月に「世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会」を立ち上げました。

この協議会では1年間会長に就かせていただいたんですが、反対意見も強烈で様々な意見をぶつけていただきました。本当は「私が協議会の会長では利権団体になってしまうのでは…」と考え、会長は辞退したかったんです。「保津川のごみをなくすために亀岡のプラスチックごみをなくし、そのためにレジ袋廃止に取り組む」ではあまりにもあからさま過ぎるので、「委員なら良いけれど会長は…」と一旦はお断りしたんですが、「会長として前面に出て欲しいので覚悟を決めてください」と市長に言われ、お引き受けしました。

会議に出席する1年間は本当に気が重かったです。仕事ではないのに会議が一番辛くて、「レジ袋を無くしてどうするの!」「私たちやっっていけるの?」「代替品は!? お客さんが困るでしょう!」と、商店街の人たちに激しい言葉をぶつけられました。コンビニ業界からも「レジ袋を無くすのは良い事かもしれないけれど、他の地域のお客様が車で来られるのがコンビニなんです。『なんだ、この町は? レジ袋に入れないのか!?!』とレジで喧

嘩になる。クレームを言われます」と。「クレームを受けるのは高校生のアルバイトの女の子なんですよ。泣いて辞めてしまうじゃないですか！ どうしてくれるんですか!!」と感情論の話にもなり、問題が山積みで…。コンビニなどフランチャイズ協会は徹底的に亀岡市の条例を潰しにかかり「亀岡市だけでやる意味があるのか？ 必要があるのか!?!」「日本全国でやるなら良い。でも、日本は有料化に進んでいったじゃないか！ 待てば良いのになぜ先走るんですか!?!」と協議会では徹底的に反対意見を突き付けられました。しかし、厳しい意見をいただきながら一つひとつ丁寧に意義を話させていただきました。もちろん私だけではなく事務局や亀岡市の行政の方々も説得のため一生懸命に地域をまわってください、夜は集会に出て厳しい罵声を浴びせかけられながら1年をかけて意義を伝え続けました。私はこれが非常に大事な事だと思っています。絶対に必要なら覚悟を決め、一歩前に入る勇気を持たなければ駄目なんです。

本日も「リーダー論」という事でご依頼を頂きましたが、私は大したリーダーシップをとって会社を運営している訳ではないと自分では思っています。しかし、何とかそういうリーダーになりたいと。誰も乗らない荒馬に乗り、落馬という大きなリスクはあるけれ

ど一歩前に入る。やらなければならない事のために一歩前に出て進む覚悟を決める。これがないといくら知識が豊富でも駄目なんです。知識は優秀な方が集めてくださるので、リーダーは決断して前に進み責任を取る。そういう気持ちをもって進んで行く事が絶対に大事でブレずに進んで行く。その点、現在の亀岡市長は一切ブレる事はありません。議会の人たちも最初は良い話だと賛成していましたが、地域から苦情が上がってくると弱気になりますよね。選挙絡みで「もっと反対意見を言って!」などと言われると、「市長、ちょっとやり過ぎなのでは?」「もう少しだけ先にすれば?」「コロナ禍だから棚上げしませんか?」と。でも市長はブレませんでした。上がブレると私たちは終わりです。やっていこうと決めて説得にまわっているのにリーダーが「反対も出ているしやめておかないか?」などと言ったら、その時点で総崩れです。でも市長は「どうしてもやらなければならない。これは亀岡にとって必要な事で亀岡が投じた一石は必ず日本中に広まる」とブレませんでした。この時、ブレない事が大事だと心底思い、私も協議会では市長の意を汲み同じ気持ちで会長をさせていただき、「保津川遊船のためにやっているんだろう?!」などと厳しい意見もいただきながら解決するために一つひとつ丁寧に時間を割いて、2021年1月1日の条例施行に進めたと思っています。

## ■様々な取り組みと事業展開

保津川遊船ではエコツアーやCSR事業などを展開していて、こういった事もプラスチックごみゼロ宣言の活動に活かせると考えています。



その一つがドイツの浄水器のリーディングブランド・ブリタジャパン（株）との連携事業の「エコ・ラフティングツアー」です。皆さんラフティングにはペットボトルを持って行かれますが、「水筒を持って行きましょう！」とブリタジャパンにタイアップして頂き、ラフティングツアーにフィルアンドゴーアクティブ（繰り返し使える浄水器ボトル）をプレゼントしているんですが、こういった企画も生まれてくるんですね。辛い事だけではなく、ドイツの多国籍企業から「フィルアンドゴーアクティブをプレゼントしますから、ペットボトルをなくしていきましょう！」と嬉しいお声を掛けていただき、今年1月からスタートしています。

また、亀岡市ではマイバッグ促進のために「FLY BAG Project」をスタートしました。環境問題は意識を高くもって進めていても市民の皆さんを巻き込む事は容易ではないので、気付いていただくためにいろいろと仕掛けています。FLY BAG Projectは、安全のため破棄される耐久年数を越えたパラグライダーをマイバッグの素材にして、繋ぎ合わせるワークショップを開催しみんなでマイバッグをつくります。このプロジェクトにはパリコレにも参加されている有名なデザイナーが「亀岡の思いに心を打たれました。私たちにできるのはこれくらいですが協力させてください」と、採算を度外視して仕事ではなく技術を提供していただきました。これは本当に凄い事で、バッグは銀座LOFTで「保津バッグ」として販売されていて、現在は完売状態で生産が間に合わず嬉しい悲鳴を上げています。

さらに、江崎グリコのロゴなどを手掛けるデザイナーの奥村昭夫氏が、「プラスチックごみゼロ宣言の環境ロゴマークをつくりま

しょう」と言ってくださいました。これも仕事ではなく、奥村氏と市民みなで知恵を出し合ってロゴマークをつくり、現在使っています。

2020年には「京都亀岡の美味しい水プロジェクト」がスタートしました。先ほど浄水器ボトルのお話が出ましたが、公共施設にボトル型給水器を設置したり市内店舗と連携して給水スポットをつくったりしてアプリで地図上の給水スポットが探せる仕組みをつくっている方々と協力し、新たなプロジェクトを立ち上げました。亀岡の水道水は凄く上質で地下水も良水なので、ブリタジャパンと給水スポットをつくってほしいと。スライドの写真はブリタジャパンと環境及び教育事業での包括連携協定締結した時のものです。また、ソフトバンク（株）からも環境教育事業での連携の申し出をいただき、ペッパー君を使った環境教育プログラムの授業を行いました。環境問題は次の世代を育てていく必要があるので、ソフトバンクと連携して海洋ごみ問題を題材にしたスクールテンプレートをつくり全国に発信しました。この取り組みもソフトバンクからお申し出をいただきました。（株）ユニクロとも連携させていただき、プラスチックごみ削減の方法を考える授業を行いました。柳井氏はとても有名で有能な経営者ですが、ミラノ、ローマに進出する際に「環境基準が低すぎる。こんな会社にヨーロッパで仕事をさせる訳にはいかない」と蹴られたそうです。それまで環境問題に興味がなかった柳井氏が「これではダメだ。世界のグローバルスタンダードに照らし合わせていかなければマーケットは開けない」とこの時初めて気付かれたそうで、その後オーガニックコットンのジーンズをつく

るなど環境基準に合わせた戦略を練られています。ユニクロはレジ袋をなくして紙袋をつくられた最初の企業ですが、洋服のリサイクルなど様々な戦略を進めておられます。

また、アメリカのサーファーから始まった環境プロジェクトを参考に「リバーフレンドリーレストランプロジェクト（仮称）」と称して、レストランのテイクアウトをリユース食器にするなど環境に負荷をかけない食器を使用してポイントをつける取り組みも始めました。アメリカでは「シーフレンド」だったんですが、保津川から始めるので「リバーフレンドリーレストランプロジェクト」と名付けて進めています。こちらも地域の商店の方々から「ポイント制にしましょう」と声が上がリ「リユース食器に代えていきます」「プラスチック容器をなくしていきましょう」という動きが出てきました。さらに新感覚の清掃活動「エコウォーカー事業」は登録制で歩きながらごみを拾うエコウォーキングを進めていく事業で、こういった活動には不法投棄やポイ捨てがしにくくなる効果もあり、市民の方々に環境意識が広がっています。「かめおか霧の芸術祭×X（かけるエックス）」は、芸術家の皆さんと共にアートの分野で環境問題に取り組んでいこうというもので、開かれたアトリエという事で保津バッグもここから生まれたプロジェクトの一つです、この芸術祭もアーティストの方々の連携から生まれ、パリコレに出られるような著名なデザイナーも参加してくださっています。芸術祭と言っても展示などではなく、町をアートで繋げて環境課題を克服する取り組みのプラットフォームをつくらうというものです。例えば蜜蝋でバックをつくっている方と連携して蜜蝋の販売ルートをつくるなど、アートを活かして商品をつくっていま

す。

## ■最後に

いろいろなお話をさせていただきましたが、亀岡市のごみ問題からスタートし次世代の教育やアートと絡めたプロジェクトにレジ袋廃止条例など様々な取り組みを進めてきました。時系列で話をさせていただきましたが、たった2人で始めたごみ拾いはみんなに無理だと言われ、しかし保津川遊船の中で組織ができ動き始めた。最初はそれだけだったんですが、やがて町を動かして海のごみ問題にまで広がり、多彩なビジネスチャレンジへと繋がっていきました。最初から事業計画を組んで始めた訳ではなく、ただ目の前のごみをなくすために始めた小さな動きが、20年経つとこんな動きになってしまったというお話です。

では、何が一番大事なのか。それは自分が何かをしなければいけないと考えた時、そこに向かっていく勇気を持ち、責任をとる覚悟をもって行動する事です。その中でいろいろな方々との関わりが生まれ知恵をお借りする、イノベーションが生まれる、知性が生まれる、活動が広がる。そして何よりも使命感をもって進んでいく事が一番大事だと私は思っています。

志を言葉にすると陳腐になってしましますが、弊社のように400年以上も続く歴史を先輩たちが繋いでこられた事を考えると、私達も一時代のバトンランナーとして次の世代にバトンを渡さなければなりません。もし、私たちの世代で達成できなかったとしても、その思いや動きは必ず次世代に繋がっていく。それが志だと私は思っています。自身の欲求で描いた夢がもし叶えられなかった

としても、次の世代が受け継いでくれるという気持ちで活動していく必要があります、それこそが志に繋がっていくと。志が高いと批判を受けたり壁にぶつかったりして悩めますが、覚悟と責任をもつ事が一番大事だと思います。自身の未熟さを自覚しながら、知識を吸収してたくさんの方々に協力していただく事が大きな志に繋がっていく。もちろんそういった気持ちにもっていき自分自身を変えなければ世界や社会を変える事はできませんし、自分に負けてしまっただけではリーダーとして引っ張っていく事はできないと思っています。

バタフライリスペクトと言いますか、小さな社会の片隅の小さな揺らぎが大きな世界を動かす事があります。私たちの活動が凄いのではなく、小さな活動をやり続けたくさんの方々に協力していただき知恵を出して頂いた結果、20年を経て日本で初めてレジ袋禁止条例を施行したり、川のプラスチックごみ問題が海のプラスチックごみ問題に繋がったりという動きになった。この不思議に多くの学びがあり、リーダーとしてやっていく覚悟、心掛けがあると思っています。

本日は私の経験をもとに、プラスチックごみとの関わりや川と海との関わり、そして私たちがどのように動いてきたのかをお話させていただきました。皆さんの貴重なお時間を頂戴した事、心より感謝申し上げます。この後、いろいろなご意見がいただける事を楽しみにしています。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

**北川** 熱心にお話を頂きありがとうございました。せっかくの機会なので受講生以外の方でご質問があれば挙手をお願い致します。

**【Q1】** レジ袋禁止条例の協議会で約1年間会長に就かれ大変だったとおっしゃっていましたが、反対派の方はどういった理由で反対されていたのですか？また、どういう方がどのような頻度で反対派の方々とコンセンサスをとっておられたのかをお聞かせください。

**豊田** 最初皆さんに集まっていたいた時は「本当にそんな事ができるのか？」と不安になるほど反対の意見が多かったです。スーパーはレジ袋の有料化もされていたのでそれほど強く反対されてはいませんでしたが、商店街の方々の反対が非常に多く「今、とても厳しい状況でお客様へのサービスとしてレジ袋をお渡ししています。それを有料にしていずれ禁止にしていく。お客様から料金を頂いたりマイバッグを用意して頂くにはできない」という思い込みのようなものがありました。例えばお豆腐屋さんのようにレジ袋に入れなければいけない業種、業態の方から反対意見が出ていました。でもそこで「こうすれば大丈夫でしょう」ではなく、お困りになられている事をまずはしっかりとお聞きした上で、どうすれば解決できるかを粘り強く相談する。結果、商店街でシェアバッグをつくる案や紙袋に代えていこうといった案が出てきたので、紙袋は単価を下げるために商店街や亀岡市全体で共同購入する仕組みをつくろうと話し合いました。お豆腐屋さんは「絶対に無理だ」とおっしゃるので一緒に考え、「飛び込みのお客様は少ないので顧客様にシェアバッグや水に対応できる袋でお渡ししましょう」と提案するとかなり乗り気になってくださり、「こんなものをつくって欲しい」と率先しておっしゃるようになりました。しかし、レジ袋より良いとは未

だにおっしゃいませんし、やはりレジ袋の方が便利だと。でも、そういったお話を続ける事で互いの距離感も縮まり、一緒に考えて解決していく方法を今も模索し続けています。

反対される皆さんそれぞれの立場をきちんと理解して、何に困られているのか、何をすれば大丈夫なのかを考えて話をすることが大事で、そういう事を続ければ「それなら良い」という事が大半です。無茶苦茶反対されている方はあまりいらっしゃらないですし、消費者の方がレジ袋の対応をしていないお店を「あれっ？」という目で見ようようになってきたので、逆に言えばやっている方が良いというようになりました。

先ほどお伝えできなかったんですが、環境でビジネス展開を変えていくというアイデアがあります。今までは環境を考えるとビジネスに負荷がかかりマイナスになるとされてきましたが、実は環境問題を考える事で新しいビジネスチャンスや人と人との触れ合いが生まれ、特に商店街は「顔と顔を合わせて」というお客様が多いので、シェアバッグでのやり取りで繋がっていく事ができます。皆さんが条例を納得されているかと言うと、もちろん数%は反対されている方がいらっしゃいますが、そういった声はお聞きしていく中で何とか解決できるようにしたいと思えます。

条例違反に対して罰則という話は意見が分かれるところですし、私は罰則推進派ではありませんが、何回も相談に行ってもどうしてもしてもらえない時は仕方がないなど。ただ何回も相談に行く事は絶対にやってお話をお聞きして、それでも駄目な場合はそういった状況になる可能性もあると、亀岡は落ち着いて捉えています。

**【Q2】** 亀岡市の行政とNPOとの間にはどういった絡みがおありだったのですか？若干時系列が掴めなかったのでここに至るまでの経過と、自治体と行政との関わり方はどうされてきたのかをお願い致します。

**豊田** 非常に難しい問題ですが、私たちNPOはごみ処理の問題については行政の方々と常に話し合いを続けています。ごみを拾って集めても処理は自治体にしていただくので、まず交渉させていただき関係を築いていきました。川のごみを回収し市の処理場で処理していただくために分別したり回収方法を考えたりする中、ごみ削減の問題に対して行政とは非常に良いパートナーシップの関係が築けていました。レジ袋廃止の条例化の際も私たちNPOがアドバイザーとして参加したり、行政の方がアドバイザーとして参加したりしていますし、ごみ問題に関しては上手く共有できて一緒に進めていく事ができた。もちろんNPOなので活動は有料ではありませんが、NPOとして有料で活動するよりNPOの独立した活動で収益を上げ、その中で環境問題という大きな目的に対してプラスチックごみ問題の啓発活動に繋がっているため、行政との間で問題が起こる事はありませんでした。こちらの提案と行政が求めている事を擦り合わせて進めている中、



NPO として可能な情報開示などの協力体制をとったという事です。お答えになっているかどうか分かりませんが、ごみ処理の問題では最初はなかなか厳しい意見もありました

が、行政とのやり取りで違和感等を感じる事はなかったと思います。

(2021 年 1 月 23 日)

2020年度（第6回）

龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム 公開講演会

## 「公民連携による温泉再生プロジェクト」

長門市役所 産業戦略課 主査／やきとり課 課長補佐  
松岡 裕史

松岡裕史（まつおか ゆうじ）

1980年山口県生まれ。2003年長門市役所に入庁。「長門やきとり」に魅せられ、世界一長いやきとりの挑戦やPRなど、やきとりに染まる日々を過ごす。やきとりを愛するが故、市役所内に「やきとり課」を設置。最近は長門湯本温泉の再生事業に携わり、住民や事業者と一緒に課題解決に取り組む。モットーは「誰よりもまちを想い、まちにダイブする」。



**土山** 本日は山口県長門市役所の松岡裕史氏をお招きしました。松岡さんは公民連携による温泉再生プロジェクトや「やきとり課」で焼き鳥の振興に関わっておられるという事で、服部先生からご紹介頂きました。服部先生、ご推薦の弁をお願いできますか？

**服部** お話をお聴き頂ければ私がなぜ推薦したのかがお分かり頂けると思いますので、敢えてお伝えする必要はないかと。松岡さん、本日はありがとうございます。

**松岡** いえ、とんでもございません。

**土山** では、1時間ほどお話をお聴きした後、ブレイクアウトルームで意見交換をして頂き、その後皆さんからご意見やご質問を頂きたいと思います。オンラインの講演会は今回が初めてで少し緊張していますが、皆さん、よろしくお願ひ致します。

### ■はじめに

**松岡** 皆さん、こんばんは。本日はお時間を頂きありがとうございます。昨年、服部先生に長門湯本温泉をご案内させて頂いた事がきっかけとなり、こういった貴重な機会を頂きました。

皆さんは先進的な政策研究をされていると伺っていますが、私は自身の取り組みが先進的なのかな…と思っていますし、滅茶苦茶面倒臭い事を日々やっているといった感覚です。しかし、少しでも皆さんの参考になれば嬉しいので、私が手掛けている取り組みの経緯やどういった気持ちで取り組んでいるのかなどをご紹介させて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。私もオンラインに不慣れなところがあるのでその辺りはご容赦下さい。また、講演中に分かり辛い点やご質問があれば、コメント欄やチャットに入れて頂ければ後ほど回答させて頂きます。

土山先生にご紹介頂いた通り「やきとり課」と記された名刺を持って日々奔走してい

ますが、市役所の中でこういった取り組みをしているのは私だけで、部署としては産業戦略課の所属になります。1980年生まれで今年ちょうど40歳で、山口県の出身ですが、長門市は故郷ではなく、言ってしまうと縁もゆかりもない山陽側から長門市役所に就職しました。大学が広島だったので広島東洋カープが大好きです。最近の業務では観光のセクションが長かったのでインバウンドやイカが有名な呼子でイカ釣り対戦のイベントなどを仕掛けていて、長門湯本温泉の再開発はスタートから4年目になります。平成15年入庁なので18年の勤務になりますが、1カ所の所属期間が長いので所属した部署数は少なくても3カ所目です。私のモットー「誰よりもまちを思い、まちにダイブする」を名刺の裏に書き記し、様々な取り組みにチャレンジしています。

長門市は山口県の日本海側に位置し、広島、福岡から車で2時間～2時間半の距離にあり、西に下関、東に萩という観光地に挟まれています。また、お隣の角島は特に有名で海がとても綺麗でCMの撮影にもよく使われる一大観光地です。このように下関や萩、角島など知名度の高い観光地に挟まれています。山間に位置し旅館も12軒と小さな長門湯本温泉で現在進めている観光まちづくりをご紹介します。

長門市には以前CNNが「日本で最も美しい場所」を発表した際、山口県から唯一選ばれた、海に向かって123基の鳥居が立ち並ぶ元乃隅神社があり、温泉街から車で約30分です。ご覧になった方も多いと思いますが、とてもとても綺麗な所で、この他にも南隣の美祿市にはカルスト大地で有名な秋吉台があり、地下には数キロにも及ぶ鍾乳洞・秋芳

洞がある、圧倒的なスケールの観光地です。また、東隣の萩市では城下町や松下村塾などが産業革命遺産に登録されています。このように豊富な観光地に車で30分圏内と、観光拠点としても好立地にあり、焼き鳥や呼子のイカ、瓦そばなどのご当地グルメもお楽しみ頂けるコンテンツになっています。

### ■観光まちづくりのきっかけ

#### 「ピンチをチャンスに」

長門湯本温泉は温泉街の中央に音信川（おとずれがわ）という県が管理する二級河川が流れ、この川沿いに旅館が建ち並ぶとても小さな温泉街です。資料の右上にあるのが江戸時代に絵の専門家である絵図方（萩藩には精密で美しい絵図を制作する絵図方という専門部所があった）が描いたもので、萩から江戸までの参勤交代の場面をすべて描き起こしています。ここにも長門湯本温泉が描かれていて、萩藩主が湯治場として使ったという歴史ある温泉街だという事も分かりました。

一方、資料の右下に「宿泊者数の推移のグラフ」がありますが、昭和58（1983）年の39万人をピークに30年間安定して下降していて、平成26（2014）年にはついに18万人にまで激減。同年1月には150年の歴史を誇る白木屋グランドホテルが残念ながら廃業となり、温泉街の中心部に遊休地が広がる非常に苦しい状況になりました。資料の左に温泉街の範囲を示した平面図がありますが、同右上の写真が廃業した白木屋グランドホテルで地上8階・地下2階と市内でも最大規模の旅館で、ここに加えて高度経済成長期に買取された旅館も廃業したため、同時に3カ所もの遊休地が発生する危機的な状況に追い込まれました。遊休地の広さは約1万3,000

平方メートルと東京ドーム1個分もあり、かなり広範囲に渡って広がっています。3ヵ所とも建物が建ったまま廃業されたため、当時の市長が「そのまま活用できないか?」と交渉にあたったと聞いていますが、耐震化の問題等もあり難しいという結論でした。

そこで「ピンチはチャンスだ!」と超ポジティブに捉え、これを機に温泉街を再生しようと3ヵ所すべてを公共投資で買収、建物も公費で解体する決断を下し廃業の翌年(平成27年)には土地を取得、年内に解体完了という非常にスピーディな対応をとりました。

廃業した白木屋グランドホテルは先ほどご紹介した秋吉台に山陽側からアクセスするメインの国道沿いに建っていて、ここは長門市に入っただけの場所で、廃業した旅館をそのままにしておく地域は安心安全な生活を脅かす心配もありますが、それ以上に長門市に入っただけの真正面にどんと廃墟が見える状況はどうなのかと。長門市は観光が基幹産業の一つなので、市全体の観光イメージの悪化に繋がるという点から公共投資を決めたのですが、建物が建っている事自体がマイナスなのでしっかりとゼロに戻した上で温泉街再生の取り組みを進めていこうと、これが観光まちづくりを進めるきっかけとなりました。

3ヵ所の遊休地の中で白木屋グランドホテルが建っていた場所には旅館を誘致しようと考え、「国内No.1の(株)星野リゾートに来て欲しい」と山口県知事と長門市長がトップセールスに赴き誘致しました。しかし、元々旅館が建っていた場所と高度経済成長期に拡張した白木屋グランドホテルの前身の白木屋旅館の本館が建っていた場所をどうするのかで非常に悩みました。星野リゾートと温泉街再生の相談を重ねる中で、「跡地

の敷地をどうにかするだけで温泉街の再生は難しい」と、国内でも手広く事業をされている星野リゾートだからこそその視点だったと思いますが、「温泉街の再生は敷地の再生のみならず地域も巻き込み、広域的で面的な再生をする必要がある」と。企業誘致の話合いの中でこういったやり取りをした結果、「しっかりと大きなビジョンをもって進めていく必要がある」というアドバイスを頂き、「投資をして頂く主体と一緒にビジョンを描けないか」という投げかけをし、普段は都市計画のコンサルではありませんが、星野リゾートと一緒に面的再生のプランづくりを進める事になりました。

よくあるご質問でありユニークなポイントでもあるのですが、行政的にはこういったマスタープランづくりはコンサルにお願いするのが一般的です。しかし、今回は単なるプランづくりではなく、温泉街を観光地として再生するというトップの熱い想いもあり、具体的にまちづくりにコミットして頂けるのは投資主体なのでと随契で公募はせず、星野リゾートと共にマスタープランづくりからスタートしました。

#### ■長門湯本らしさを求めて

半年をかけて星野リゾートと一緒に旅館や地域の方々へのヒアリングを行ってプランづくりを進めました。他の地域との差別化をするためには、ここにある景観、山や川といった地域資源もしっかりとデザインして、「長門湯本らしさ」を追求する事が非常に重要だとのお話もあり、今回はランドスケープデザインを重視したプランづくりを徹底しました。

マスタープランのコンセプトは「そぞろ歩

きが楽しめる温泉街」で、星野代表には中間と最終の2度来て頂き、ご覧頂いているパスをお見せして、地元や事業者の皆さんにも説明しました。

プランを進めるために様々なまちづくりの事例を勉強して注意すべき点を見極めたんですが、行政はどうしても描いたものを形にしたくなります。しかし、今回はそれぞれが最大のリスクなのではと。ごく一般的なお話ですが、地域の有力者の発言や住民の要望はどうしても聞き入れて反映させたくするのが常で、しかし、そうする事で必要な機能がどんどん拡大し、誰にとっても悪くない失点のない計画をつくってしまいがちです。「誰もが住みやすい町」という視点は往々にあって、必要な機能を拡大して失点のない計画づくりになってしまう。さらに悪いのはその実現のために財源を探してくる事で、例えば計画を遂行するための「当てはめ」は財源を探してとってきて採択させて事業を進める事が、一般的にはよくできる行政職員のようなイメージ像が私にはあります。でも、財源を当てはめて成功前提の甘い計画を執行してしまっただけの結果、当初の当初に返ると本当にしたかった事が分からなくなってしまう、それが最大のリスクだと考えました。これだけは本当に良くない事ですし、人口減少の中でそんな悠長な財源も当然ありませんし、基本的には税金なのでそういった事だけは止めようと。世の中には「墓標シリーズ」などと揶揄されるものもありますが、悪い見本にはしたくなかったのでこういった事に気を付けながら進めた事が、今振り返っても非常に大きかったと思っています。繰り返しますが、これはあくまで一般的なお話です。

## ■直面した現実の打破

とはいえ実際に足元を見ると、長門市の人口は約3万4,000人と10年前の合併時から既に1万人も減少しています。実は長門湯本温泉では特別会計で行政直轄の温泉事業をしていたんですが、事業収支を確認したところ特別会計なのに毎年6,000万円近くも一般会計から補填していました。つまり、温泉事業と配湯事業という2つの直営事業がいずれも赤字で、2ヵ所の公衆浴場の収入だけでは賄えず、バランスを取るためにまったく関係ない一般会計から毎年6,000万円もの税金を補填していたんです。

資料にある温泉運営事業「恩湯」「礼湯」が直営の公衆浴場ですが、当時は入浴料がなんと200円で、一定の年齢層は割引が適用され100円で入浴できました。赤字が繰り返され10年で約6億円もの大金を税金で賄っているという事実も含めて対外的に説明していく必要がありました。また、「こうあるべきだ」というまちづくりにおいても過去をしっかりと振り返り、且つ足元を見据えた上でどういう体制でどう進めていくのか、パス通りにつくるにはどこから着手するのか、つくらなくて良いものがあるのか、つくるなら誰がつくるのかといった点など、プランをつくった後、さらに半年をかけて推進体制や進め方、考え方などを整理しました。

特に意識したのは、これまでのように人口増加のフェーズならつくれば使ってくれる人がいましたが、今後はしっかりとしたビジョンをもちつつ、事業として成り立つかどうかを見極めた上で、事業性がないものはペンディングにし事業性のあるものから着手するという、逆三角形の発想でハード面も整備する必要があります。今までは三角形の発想

で、最初は小さなビジョンがどんどん拡大された結果、ハード整備が大きくなり使われないものができてしまう。これは後世にも良くない事なのでこのプロセスを見直し、出来上がったビジョンから事業性を評価し、優先的に手掛ける事業を取捨選択し、さらに公共でやる必要があるのか、民間ではできないのかといった役割分担も決めた上で進めていこうと。ここからいよいよ本格的なまちづくりがスタートしました。

先ほど責任や役割分担の話をしました、すべて行政で出来る訳でも当然ありません。行政の得手不得手もある中で「誰がやっているのか」という民間の主体をしっかりと捉えた上で、パートナーとしてやっていく。これが人口減少・財政難での適した事業の進め方だという事をしっかりと意識し、パブリックマインドをもった民間主体を探す。そして、民間主体がリスクを負って事業をすると決めたなら行政は側面的に支援して、パートナーとしての信頼関係をもって進めていこうと。マスタープランに半年をかけて地元の山口銀行にも入って頂いて、各施設や駐車場、階段や伝統工芸などの文化的施設、或いは外湯の建て替えなど、星野リゾートに提案して頂いたマスタープランの着色されている部分が提案のあった施設になりますが、その一つひとつを整備の主体で色分けしました。公共性の高いインフラの整備は行政が担当しますが、運営は民間でといった点を評価した上で事業性のあるものから優先的に取り組みました。

こちらが当初のマスタープランですが、エリアAの温泉街の近くには360年続く萩焼の里があり、「文化体験のコンテンツとして工房やショップなどの施設があれば」という

絵が描かれていましたが、事業性評価では非常に厳しい評価が出て現在ペンディングになっています。また、赤い線で囲まれた部分に民設の主体区分で塗り分けがある「恩湯・礼湯・食べ歩き」の施設が提案されています。公衆浴場は2ヵ所とも残すと中途半端になってしまう可能性がある、どちらが地域の皆さんにとって大事かというヒアリングを重ね、礼湯の開発は一旦止めて地域の皆さんが残したいと言う恩湯の再建から取り組みました。このように地域の方からもご意見を頂き、金融機関と事業者の評価もしながら取り組み始めました。

#### ■取り組みの4本柱

描いた絵の実現に向けた戦略として、以下4つの柱を立てました。

#### 【トップ10を目指す考え方】

- ①圧倒的な公共空間の使いこなし
- ②コア事業の自律収益化、段階的發展
- ③地域内事業者の活性化
- ④新規コンテンツの継続組成

温泉街の中央を流れている音信川の両側には遊歩道があり、間近で川の魅力を楽しむ事ができます。①はこういった公共空間を使いこなし魅力的なまちづくりに繋げようというものです。②は、温泉街の顔となる公衆浴場は建物も古く傷んでいたもので建て替えをプロジェクトの中核事業に位置付け、自律運営ができてしっかり稼げるコア事業として育てる事を2つ目の柱にしています。③は星野リゾートだけで温泉街が再生するはずはないので、温泉街にある12軒の旅館や既存事業の活性化にも力を入れていく必要

があると3つ目の柱にしています。④は過去に旅館が大型化していく中、例えばお土産物屋さんや居酒屋、レストランといった機能が旅館内で楽しめる施設づくりが進んだ事もあり、温泉街をそぞろ歩く人はほぼゼロでした。かつてあったお店がなくなってしまったので、今回のまちづくりをきっかけに飲食店やお土産物屋さんなどそぞろ歩きが楽しめる新しいコンテンツづくりをしよう。これらの試みで新しく魅力的な温泉街の価値をつくり、最終的な目標でもある「人気温泉地ランキングトップ10入りを目指そう!」という戦略を定めました。

星野リゾートから「トップ10を目指していこう!」という大きな目標が出ましたが、当時の長門湯本温泉はなんと86位で「そんな事ができるのだろうか…」ともっばらの噂でしたが、現在はお客様にもたくさん来て頂き、地域の皆さんの意識も「ひょっとしたらトップ10に入れるのでは?!」と、この3年間で変わってきていると感じています。

### ■トップ10入り実現に向けて

私たちが星野リゾートにお願いしていたミッションは、「3カ所の遊休地の2カ所を上手く使って何とかプランを描いて欲しい」でした。そこで提案して頂いたのが先ほどのパースで、音信川にもいろいろな案が描かれていたり〇〇さんのお家がなくなっていたりと、2カ所を超えたプランが提案されました。中でも音信川は県が管理している河川なのに事前の相談も調整もなくある日突然「川床ができたら良いね」と。げなげな話（昔話）ですが、こちらの絵も市から星野リゾートに発注したんですが、私たちがこの絵を見たのはなんと地域の皆さんと同じタイミン

グで「わあー、すごい!!」と驚いた記憶が今でも鮮明にあります。これは「事前の調整もなく好きに描いて良い」と市長がオーダーしていたからで、もし根回しなんてしようものなら「表に出るとやらなければいけないので描かないで下さい」「こういった事は基本的にできないので出来ないで下さい」といった調整がおそらく働いたはずです。でもそれをしなかったこの時が、「怒られるのは承知の上でこんな事ができたら温泉街は再生する!」といった感覚が生まれた瞬間であり、大きなターニングポイントの一つだったと思っています。

どうすればプランを実現できるかという点では、県にも「超」が付くほど建設的に議論をして頂き、河川や道路を積極的に使っていくビジョンにも共感して頂きました。

2年間の社会実験として、例えば川床は一旦鉄骨を組んで1ヵ月間設置したまま検証を行い、検証が終われば撤去するといった工程を2年間繰り返して構造的な確認をしました。また、実際に野点傘や椅子、ベンチを置いて川が増水した時にどのように撤去するのかといったハード・ソフト両面の運用ルールも運営主体者と一緒に考えました。さらに、実際に設置された時にルールは機能するのか、約束事が守られる体制なのか、ルールそのものが適正なのかといった事を繰り返し検証し、問題ない事が分かればやっても良いという事で、技術面や運用面での課題解決に取り組みました。

西日本の川床は、京都の鴨川や加賀の山中温泉を除いて、川の中につくっているのは長門湯本温泉だけなのはと自負しています。川床設置の社会実験のもう一つの成功点は、それまでは平面図をお見せして「こんな温泉

街を目指しましょう！」と説明していましたが、平面図やパースではなかなか実感が湧かず、「言っている意味が分からない」といったご意見もありました。しかし、地域の皆さんに仮設で体験して頂いた効果は絶大で、社会実験は非常に有効だったと感じています。

また、社会実験をきっかけに、地域の方々や旅館の皆さんのまちづくりに対する受け止め方も随分変わりました。社会実験の写真だけを見て頂くとイベントか何かのように見えますが、実際は道路がどんな風に見えるか、運用面でどうすれば物を置けるかといった一つひとつの検証が行われています。人を集めて行くべき検証もあるので屋台や催し物も行ったんですが、若いカップルや女性グループ、ベビーカーを押すお母さんなど今まで誰も歩いていなかった温泉街にお客様が集まりとても驚きました。「ひょっとするとトップ10も夢じゃない!」「上手く整備が進めばこんな風にお客様が来て下さるかも!」といった感覚を一時的に体験できた事が、まちづくりを進める上で非常に大きな意味のある取り組みだったと思っています。

繰り返しになりますが、実際に検証したのは河川という公共空間を使って長門湯本ならではの風景をつくる事と、技術面や運用面での課題でした。「そぞろ歩きが楽しめる温泉街」がコンセプトのベースなので、道路に仮設でベンチを置いて「満足度は高いか」「車のすれ違いはできるか」「車速は落ちたか」といった検証をしました。また、温泉地なので夜間の魅力が出せるよう照明も検証しました。仮設時に運良く台風にも見舞われ増水しても流されないなど、県と一緒に構造的に問題がない確認がとれた事が大きかったと感じています。

このように2年間の社会実験を経て、地域

の中でも特に旅館が使っていきいたいという責任ある主体をベースに協議会をつくり、現在も河川や道路専用の取り組みを進めています。

### ■軸となるパートナー選び

では、実際に民間のパートナーをどうやって探したのか。現在の経営者の方は年配の方が多く、しかし我々は将来を担う次世代の経営者に責任をもって取り組んで頂く気構えが欲しいと思っています。そこで若手の世代にアプローチして「将来、どうあるべきか」といったビジョンを語ったり、彼らがやりたい事を聞き出して具体的なアクションのサポートを行ったりしました。最初は「星野リゾートと行政がやってくれる。これで温泉街は再生する。万歳!!」とまったくの他人事で、星野リゾートが来る事を「光」とするなら、主体性としては「影」の部分もあったと思います。「これでお客さんがたくさん来るから、宿泊客増えるよね」、或いは「乗っ取られて星野リゾート温泉になってしまうのでは」と。しかし、コミュニケーションを重ねる中で、「自分たちがやらなければまちづくりなんて誰もやってくれるはずがない」と変化し、「自分たちの居場所が欲しい」という要望にお応えする形で、1軒の空き家を探してカフェをつくる事業がスタートしました。事業費は改装費を含めて400万円程度の小さな事業ですが、行政のインフラ整備が始まる前に1号案件として地域の若手が本業の傍らで新会社を立ち上げました。まちづくりの教科書によく「1号案件は小さく始める事が大事だ」と書かれていますが、まさに実体験として意味のある案件でした。その後のコアとなる外湯の建て替えが約3億円の事業だったん

ですが、この1号案件がなければ外湯のプロジェクトも実現できたのかどうか、本当に重要な事業だったと思っています。

ただ、若手もなかなか踏み出す事が出来なかったんですが、行政は土地の取得や解体などで既に4億円も投資していたので「これ以上進めるかどうかの瀬戸際ですよ」と少し背中を押して決意して頂き、DIYのギャラリーカフェをきっかけに彼ら中心で外湯の建て替えに進みました。

この他にも地域の景観を良くするガイドライン作成など、1号案件をきっかけに少しずつですが空き家を改修したお店づくりが広がりつつあります。空き家情報はまったくと言っていいほど不動産屋に流通していませんが、ここは市役所の立場を上手く使って地域の皆さんの中に入り込み、空き家情報を探してストックして良い事業者に引き継ぎ事業化して頂くといった事を地道に続けています。年配のオーナーが多い事が分かったので、老人会などのコミュニティに入会して、「〇〇さんは入院したから家が空いているよ」といったどこにも出ていない情報をキャッチする取り組みをコツコツと積み重ねています。

実際に調べてみると空き家はとても多く、このまま放っておくと20年後は空き家マップが空き家一色になってしまいそうな勢いです。しかし、そういった事態は避けたいですし、一軒でも多くお店が増えれば良いというマップを勝手につくったんですが、こういった営業資料が功を奏したのか、様々な空き家情報が集まっている状況です。

#### ■最後に

昨年春に3年間に渡る整備がようやく完了

しました。まだまだ始まったばかりでつくったら終わりはよくある事ですし、トップ10の温泉街を目指すにはインフラが整っただけで、これからいよいよ情報発信や魅力的なコンテンツを充実させていく必要があります。民間主導で観光まちづくりを持続的に行う仕組みをつくる議論も同時進行で重ねていて、令和2年12月に引き上げた入湯税を基金として地域の魅力向上に繋がる事業に再投資できるようにと県内初の入湯税の引き上げにチャレンジし、いわゆる観光地経営の活動原資として貯めようとしているところです。150円だった入湯税を300円に引き上げたんですが、コロナ禍の影響もあり当初の計画通りにはいっていませんが、継続できるよう必要最低限の原資を確保した上で体制も構築して観光地経営の取り組みをスタートしました。

今週末からエリアマネジメント法人が主催する冬季（閑散期）のイベントが1カ月間に渡って開催されますので、緊急事態宣言が解除されたあかつきには遊びに来て頂けると嬉しい限りです。

かなり駆け足になりますが、長門湯本温泉の観光まちづくりについてのご紹介を終わらせて頂きます。

**土山** ありがとうございます。とても情報量の多いお話でたいへん興味深く拝聴させて頂きました。

空き家情報のお話の中で相談会のチラシに松岡さんのお名前があったんですが、空き家も所管の範囲内なんですか？ご職務が温泉街の復興、再開発という事でパースの作成やイベントの開催、社会実験などとお伺いしていたんですが、いわゆる空き家バンク的な事業もご職務の範囲ですか？それとも長門湯本

温泉に関わる事は松岡さんが所管されているのですか？

**松岡** 後者ですね。現在は長門湯本温泉の観光まちづくりのプロジェクトをミッションとしていますし、空き家バンクの取り組みは他の部署の所管になります。しかし、空き家バンクをご存知の方は登録をされますが、長門湯本ではそういった事はないので、「お店が一軒もない町に道路がピカピカになっただけで観光客は来ないよね？」と。かなりセンシティブな個人情報扱う事にもなりま

すし、市役所職員という私の立場で雑談程度にお話をすれば聞く事ができるでは…という発想だったんですが、実際に聞く事ができたので現在手掛けている状況です。

**土山** なるほど、よく分かりました。皆さんの中には関連テーマ論文に書かれる方や専門にしている内容に近い方もいらっしゃると思うので、すごく参考になったと思います。ありがとうございました。

(2021年1月26日)





分権型社会を拓く自治体の試みとNPOの多様な挑戦—地域社会のリーダーたちの実践とその成果— 第18号

---

発行日 2021（令和3）年3月

編集・発行 龍谷大学大学院  
地域公共人材総合研究プログラム  
〒612-8577  
京都市伏見区深草塚本町67  
Tel. 075-642-1111

印刷 株式会社 田中プリント  
〒600-8047  
京都市下京区松原通麴屋町東入石不動之町677-2  
Tel. 075-343-0006

---





# 分権型社会を拓く自治体の試みとNPOの多様な挑戦

—地域社会のリーダーたちの実践とその成果— 第18号

---

龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム